秋田県文化財調査報告書第328集

諏訪遺跡

―主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―

2002・3

秋田県教育委員会

諏　訪　遺　跡

—主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

２００２・３

秋　田　県　教　育　委　員　会

序

秋田県には先人の残した遺跡が数多くあり、これら歴史的遺産を受け継ぎ、かつ正しく後世に伝えることは、現代に生きる私たちにとって重要な責務であります。

このたび、主要地方道寺内新屋雄和線の整備工事に伴い、周知の遺跡である諏訪遺跡の一部を発掘調査することになりました。

調査の結果、平安時代の掘立柱建物跡や井戸跡などの遺構が確認され、土師器や須恵器などの遺物が数多く出土しました。平安時代の建物跡と井戸跡がセットで見つかった例は県内では珍しく、井戸跡は史跡秋田城跡のものと良く似た構造をもっていました。近年、秋田城跡の発掘調査では、周辺地域も含めた古代出羽国の様相が明らかにされつつありますが、諏訪遺跡もまた、秋田城に関連する可能性をもつ遺跡と考えられます。

本書はこれら発掘成果と遺跡の評価をまとめたものであり、地域の歴史や文化を学習・研究する資料として、研究機関のみならず、多くの方々に御利用いただければ幸いに存じます。

最後に、本調査及び報告書作成に際し、御協力いただきました秋田県建設交通部はじめ関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成14年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　　言

1　本報告書は、主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事に係る諏訪遺跡の発掘調査報告書である。

2　自然科学的分析は下記の機関に委託した。

　　井戸枠樹種同定・井戸内種子同定……株式会社古環境研究所

3　本報告書に使用した地形図は国土地理院発行25,000分の1「羽後和田」、及び秋田県建設交通部作成の1,000分の1路線計画図である。

4　調査並びに本報告書の刊行にあたって、次の方々より指導・助言を賜った。感謝申し上げます。

（順不同、敬称略）

　　坂井秀弥、日野　久、伊藤　武、柳沢　和明、田口清克、納屋信広

5　本報告書の執筆は小林　克が行い、千葉史宏、佐々木信吾の協力を得た。

6　調査に係る全ての資料は秋田県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

1　本報告書に収録した遺構実測図の方位は、真北（座標北）を示す。

2　本報告書に収録した遺構実測図の縮尺は、1/40を原則とし、適宜1/20、1/60縮尺も用いている。

3　遺物実測図の縮尺は、原則的に土器・剥片石器1/2であり、それぞれにスケールを付している。

4　本報告書に収録した土色表記は、農林省農林水産技術会議事務局、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』（1976）に拠った。

5　挿図中の遺物実測図には、器種を問わず通し番号を付した。それらは、写真図版中の番号と対応する。

6　土層注記は、基本層位にローマ数字を用い、遺構堆積土にはアラビア数字を用いた。

7　遺構番号は、その種別を問わず検出順に連番とした。

8　遺構の種別を表す略号は以下の通りである。

SA……柱穴列　　SB……掘立柱建物跡

SE……井戸跡　　SK……土坑

SN……焼土遺構

9　挿図中に使用したスクリーン・トーン、マークは以下の通りである。その他については、個々に凡例を示してある。

基本層位地山

焼　土　　※ 土器断面黒塗りは須恵器

土器表面黒色処理

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次
第１章　はじめに
　第１節　発掘調査に至るまで……1
　第２節　調査要項……1
第２章　遺跡の立地と環境
　第１節　遺跡の位置と立地……3
　第２節　歴史的環境……3
第３章　発掘調査の概要
　第１節　遺跡の概観……5
　第２節　調査の方法……9
　第３節　調査経過……10
第４章　調査の記録
　第１節　検出遺構と出土遺物……14
　第２節　遺構外出土遺物……25
第５章　自然科学的分析
　第１節　種実の同定……52
　第２節　樹種同定……55
第６章　まとめ……62

挿図目次

第１図　遺跡の位置……1
第２図　周辺の遺跡……2
第３図　遺跡範囲と調査区……6
第４図　遺跡基本層位（1）……7
第５図　遺跡基本層位（2）……8
第６図　遺構全体図……15
第７図　建物跡（SB07）と柱列（SA15･16･17）……16
第８図　建物跡（SB07）……17
第９図　柱列（SA15･16･17）……18
第10図　焼土遺構および周辺の遺物出土状態……21
第11図　焼土遺構（SN13･14･105･106･139）……22
第12図　土坑（SK01･02･03･05･06）……23
第13図　土坑（SK10）……27
第14図　井戸跡（SE09）……28
第15図　井戸跡（SE09）内出土枠材（1）……29
第16図　井戸跡（SE09）内出土枠材（2）……30
第17図　井戸跡（SE09）内出土枠材（3）……31
第18図　井戸跡（SE09）内出土枠材（4）……32
第19図　井戸跡（SE12）……32
第20図　柱穴（1）……33
第21図　柱穴（2）……34
第22図　柱穴（3）……35
第23図　柱穴（4）……36
第24図　遺構内出土遺物（1）……37
第25図　遺構内出土遺物（2）……38
第26図　遺構内出土遺物（3）……39
第27図　遺構内出土遺物（4）……40
第28図　遺構外出土遺物・平安時代（1）……41
第29図　遺構外出土遺物・平安時代（2）……42
第30図　遺構外出土遺物・平安時代（3）……43

第31図　遺構外出土遺物・平安時代(4)・・・・・・・・・・・44
第32図　遺構外出土遺物・平安時代(5)・・・・・・・・・・・45
第33図　遺構外出土遺物・平安時代(6)・・・・・・・・・・・46
第34図　遺構外出土遺物・縄文/弥生時代(1)・・・・・47
第35図　遺構外出土遺物・縄文/弥生時代(2)・・・・・48
第36図　遺構外出土遺物・縄文/弥生時代(3)・・・・・49
第37図　遺構外出土遺物・縄文/弥生時代(4)・・・・・50
第38図　諏訪遺跡における種実ダイアグラム・・・・・・56
第39図　諏訪遺跡の種実Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
第40図　諏訪遺跡の種実Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
第41図　諏訪遺跡の木材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

図版目次

図版1　1　遺跡全景
　　2　調査区全景
　　3　SB07建物跡およびSA15・16・17柱列
図版2　1　SB07建物跡
　　2　SK10土坑確認状態
　　3　SK10土坑遺物出土状態
図版3　1　SE09井戸跡土層断面
　　2　SE09井戸枠材(上段)
　　3　SE09井戸枠材(下段)
図版4　1　SE12井戸跡土層断面
　　2　SB07P6内遺物出土状況(上部)
　　3　SB07P6内遺物出土状況(下部)
　　4　SN139周辺遺物出土状況
　　5　SN105遺物出土状況
　　6　SN14遺物出土状況
図版5　SE09井戸枠材(1)
図版6　SE09井戸枠材(2)
図版7　SE09井戸枠材(3)
図版8　SE09井戸枠材(4)
図版9　遺構内出土土器(1)・平安時代
図版10　遺構内出土土器(2)・平安時代
図版11　遺構外出土土器(1)・平安時代
図版12　遺構外出土土器(2)・平安時代
図版13　墨書土器『吉』
図版14　1　遺構外出土土器(縄文)
　　2　遺構外出土土器(弥生)
図版15　1　遺構外出土石器(石鏃・石匙・石槍・掻器)
　　2　遺構外出土石器(掻器・調整剥片)
図版16　1　遺構外出土石器(剥片)
　　2　遺構外出土石器(石斧・砥石)

表 目 次

表1　調査経過(1)～(4)
表2　出土遺物(石器)法量
表3　諏訪遺跡における種実同定結果
表4　県内平安時代掘立柱建物跡一覧(1)～(4)

第１章　はじめに

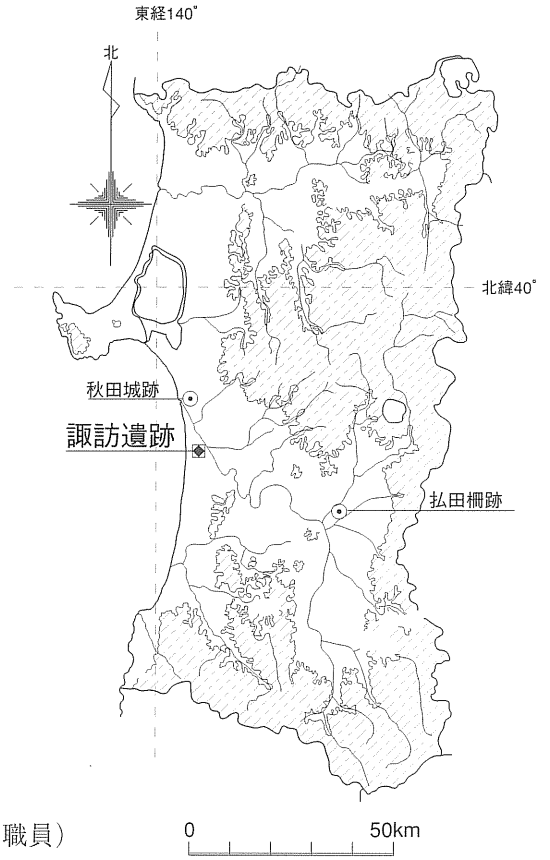
第１節　発掘調査に至るまで

諏訪遺跡の位置する秋田市豊岩地区は雄物川の左岸にあって、秋田市新屋地区と雄和町を結ぶ経路にあたる。秋田市では、近年、御所野ニュータウン建設など市南東部での開発がめざましく、それに伴い周辺地域との交通網整備が行われるようになっている。国道13号線に沿って新たに作られた仁井田地区から御所野ニュータウンにかけてのアクセス、また、雄物川に新たに架けられた南大橋による新屋地区から仁井田地区へのアクセスは整備され、市南部から南東部にかけての交通網は大きく進展した。しかし、雄物川左岸を通る県道寺内新屋雄和線は、新屋地区から豊岩地区を通りさらに雄和町椿川地区、安養寺地区を通って秋田空港へ至る最短アクセス道であり、また、将来設けられる予定の日本海沿岸東北自動車道河辺インターチェンジへのアクセスとしても重要な幹線となる道路であるにもかかわらず、車線幅が狭く車両の往来に困難をきたすような状況であった。そのため、秋田県では平成19年の完成を目指して改良工事を計画し、一部において既に着工している。

この改良工事に先立って、秋田市教育委員会は市内全域の埋蔵文化財包蔵地詳細分布調査を行い、市内に360箇所の包蔵地を確認したが、その際、この豊岩地区に諏訪遺跡の所在することを確認した。県教育委員会は平成11年度にこの諏訪遺跡が路線にかかることを確認し、平成12年３月６日～14日および22日にわたり範囲確認調査を行い、発掘調査を行って記録すべき範囲を決定した。これを受けて平成12年４月26日付けで文化財保護法第58条－２に基づき発掘届けを提出し、同年７月31日から発掘調査に着手した。

第２節　調査要項

遺　跡　名　諏訪遺跡（略号：５ＳＷ）
所　在　地　秋田県秋田市豊岩字豊巻字諏訪139－２ほか
調査期間　平成12年７月29日～10月６日
調査目的　主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事
調査面積　1,700㎡
調査主体者　秋田県教育委員会
調査担当者　小林　克
（秋田県埋蔵文化財センター 調査課長補佐兼調査第２科長）
千葉史宏
（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）



第１図　遺跡の位置

佐々木信吾（秋田県埋蔵文化財センター 非常勤職員）

総務担当者　佐藤　悟（秋田県埋蔵文化財センター 総務課長）

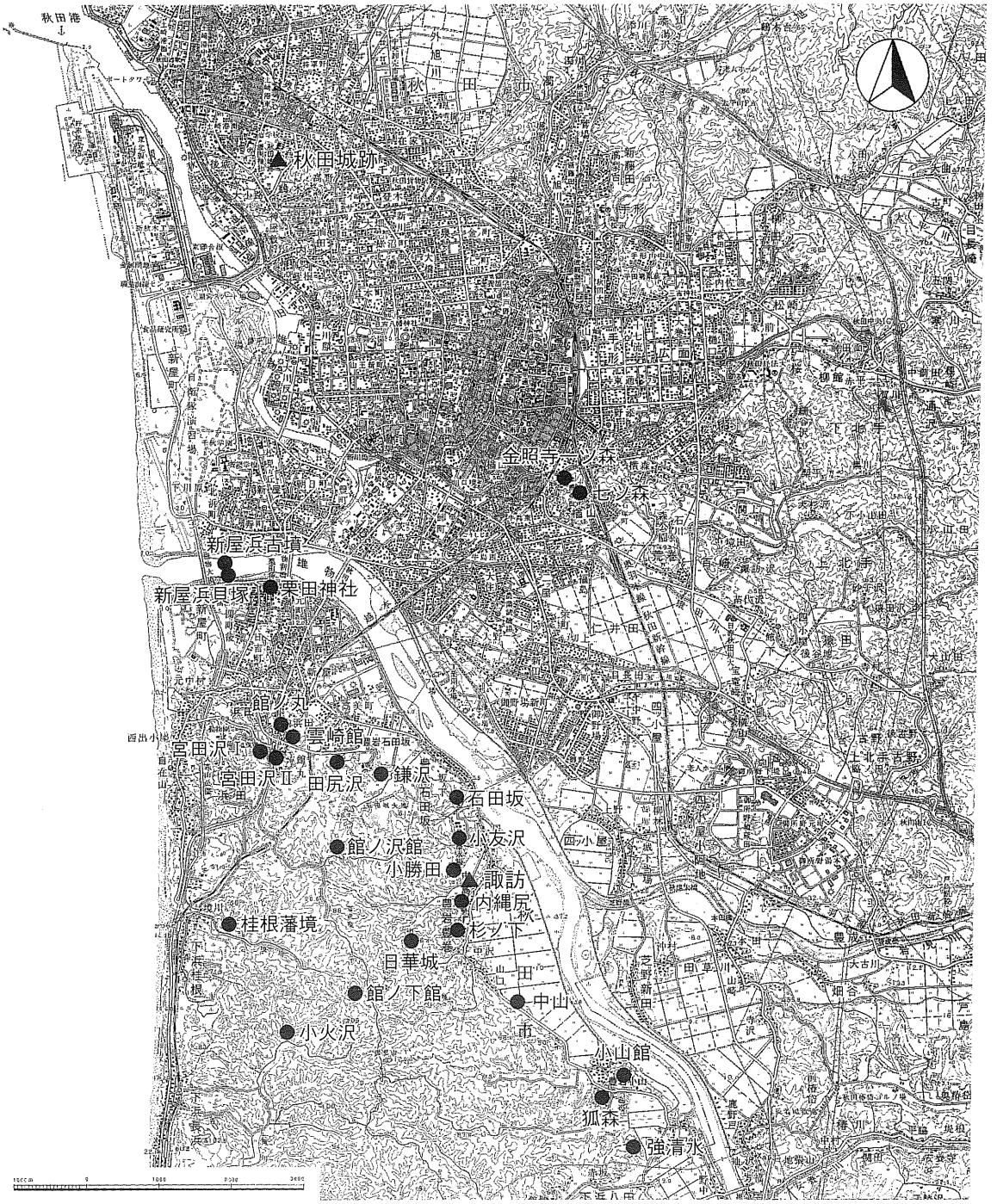
佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター 総務課主事）

八文字隆（秋田県埋蔵文化財センター 総務課主事）

調査協力機関　秋田県建設交通部道路課、秋田市役所、秋田市教育委員会

秋田城跡調査事務所、秋田市豊岩中島町内会、秋田市豊岩地区老人クラブ連合会、

秋田市豊岩小中学校同窓会



第２図　周辺の遺跡

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と立地

諏訪遺跡はＪＲ秋田駅の南７㎞の雄物川左岸上の段丘上、北緯39°39’00”、東経140°７’00” に位置する。雄物川の左岸には標高112ｍの国見山を抱えた丘陵が横たわり、その東側の縁は鋸歯状に開析されていくつかの谷が入り込んでいる。遺跡はこのうち雄物川旧河口から10㎞ほど上った地点、豊岩浄水場の立地する尾根の南側の谷に面してある。豊岩浄水場のある尾根の南東側には雄物川の自然堤防が１㎞ほどにわたって続き、この自然堤防に向かって南東側丘陵から標高16～18ｍの尾根状地形がのびている。遺跡はこの尾根状地形の西側斜面下の標高11～12ｍの平坦面である。

遺跡の西側はほとんどが起伏量100ｍ未満の丘陵地であるが、丘陵縁はほぼ直接に谷に続き急な斜面でつながっている。また、谷の奥は堰き止められて堤になり、谷底平野の大半は水田に作られている。丘陵が雄物川に面する部分には狭いながら扇状地が列状に張り付き、丘陵裾を覆っている。現在の集落はこうした扇状地か自然堤防上に立地している。

第２節　歴史的環境（周辺の遺跡）

諏訪遺跡は秋田市街地の南南東にあって、雄物川、岩見川を挟んで秋田市四ツ小屋地区、御所野地区とも接する位置にあたる。

旧石器時代の遺跡は、御所野地区の下堤Ｇ遺跡、地蔵田Ａ遺跡、地蔵田Ｂ遺跡、下堤Ｄ遺跡、狸崎Ｂ遺跡、秋田大学農場南遺跡が知られている。うち、狸崎Ｂ遺跡では荒屋型彫器および細石刃、細石核と台形様石器、ナイフ形石器、掻器、鋸歯縁石器が出土し、地蔵田Ｂ遺跡では台形石器及び局部磨製石器が出土している(註１)。

この御所野地区は秋田市周辺で、縄文時代の遺跡が最も集中して発掘調査されている地域である。縄文時代中期の遺跡が多く、下堤Ｅ、坂ノ上Ｅ、下堤Ｆ等の遺跡がある。このうち、坂ノ上Ｆ遺跡では県内では比較的資料の少ない、円筒上層ａ式、大木７ａ式及びそれに併行する北陸系土器を主体とする中期前半の集落様相が明らかにされている。集落を構成する住居群は西側に張り出した舌状台地の付け根付近、東へ向かう緩い斜面の下り際に３棟、その西の台地中央に２棟、さらに台地中央の南北に１棟づつ計６棟が配置する。いずれもいわゆる「ロング・ハウス」であり、長軸は北北東－南南西を向く。６棟中５棟の住居内中軸線上にはいわゆる「特殊ピット」と呼ばれる土坑がある(註２)。

弥生時代の遺跡としては御所野台地上に地蔵田Ｂ遺跡がある。御所野台地の南側にあり、西に突きだした台地に柵で囲まれた中に弥生時代初めの住居跡５棟があり、柵の外側には土器棺墓、土坑墓による墓道がある。秋田県においていわゆる遠賀川系土器が土器棺として初めて確認された遺跡であり、かつ、それが集落と一体になった墓域を形成していることが評価され、平成８年に国指定史跡に指定されている(註３)。

古代の遺跡としては、御所野台地に湯ノ沢Ｆ遺跡がある。９世紀代の墓域が見つかり、長方形プランの土坑墓が19基見つかっている。居住域はあきらかではないものの、この時期の墓域としては五城目町岩野山古墳があるのみであり、貴重な資料を追加することとなった(註４)。

中世の遺跡としては遺跡の南西0.9㎞に白華城がある。幅30ｍ、長さ120ｍの主郭に東西に並んだ５つの副郭を擁する城館で、主郭の東西および南に空堀を切り、空堀の外、東西それぞれ120～150ｍ離れた地点に帯郭およびその中に取り込まれるように小郭がある。中世日本海の覇者安東氏の城館で、百左段（現在の新屋付近）側から内陸部への進入拠点として安東義仁により築かれた。永禄10年(1567)、岩見川を介して対峙した豊島城主豊島玄蕃の奇襲に破れ一旦は落ちたとされるが、その後、安東実季によって豊島城が落とされ、再興されたとされる。

このほか、西２㎞、石田坂大堤の南に接してはＬ字形に郭を配した館ノ沢館がある。また、北西3.3㎞には雲崎館がある。現在その痕跡は失われているが、標高20ｍ程の低い丘陵周囲に堤を巡らして堀を築いていたといわれ、隣接する館の丸とともに小野筑後守の居城とされる。南西2.2㎞には館ノ下館がある。標高90ｍの尾根状地形を利用してその中央に土塁を巡らした郭を配し、北側には４段に腰郭がのび、南側にも中央郭と同規模の郭がある(註４)。

諏訪遺跡のある豊岩地区は大正末年に秋田考古会を組織し県史蹟調査員にも委嘱された武藤一郎氏の生地であり、氏の初期の遺跡探索は豊岩地区及び雄物川対岸の四ツ小屋地区で行われている。氏の集めたコレクションは整理され現在も生家に伝えられているが、それによれば、豊岩地区では９箇所の遺跡で遺物が採集され、「石田坂上野」、「豊巻中嶋」、「豊巻根笹山」、「豊巻内縄尻役場前」、「豊巻杉ノ下」、「豊岩白華館」、「豊巻前郷」、「小山中山」、「小山狐森」の注記が遺物になされている(註５)。遺物は縄文時代の石鏃、石箆、石匙、石斧などである。秋田市が平成元年に市内遺跡の分布調査を行ったところでは豊岩地区に石田坂（縄文）、館ノ沢館（中世城館）、小友沢（奈良・平安）、小勝田（縄文・奈良・平安）、内縄尻（縄文）、諏訪（奈良・平安）、白華城（中世城館）、杉ノ下（奈良・平安）、狐森（縄文）の各遺跡を確認し(註６)、武藤一郎氏の発見した遺跡がほぼ取り上げられている。今回、発掘調査に至った諏訪遺跡はこの秋田市の分布調査をもとにしたものであるが、武藤氏が採集した遺跡ではおそらく、豊巻中嶋遺跡が相当するものと考えられる。なお、根笹山は諏訪遺跡の南側にある馬の背状にのびる台地上面であるという。

註１　秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1993(平成５)年
註２　秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1993(平成５)年
註３　秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』1993(平成５)年
註４　秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』1981(昭和56)年
註５　庄内昭男「考古資料収集家の足跡－武藤一郎氏の考古学研究と収集資料について－」『秋田市史研究』第９号 2000(平成12)年
註６　秋田市教育委員会『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』 1989(平成元)年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

１　遺跡の微地形と現況

遺跡は北北東－南南西にのびたやせ尾根状地形の西側に取り付いた、面積3,400㎡ほどの狭小な台地上に立地する。遺跡の南、白華城付近からのびた尾根状地形は、遺跡近くに至って一旦急激にその幅を減らし、その先で西側に張り出した低い台地を形成する。台地の標高は10～11ｍで、その東に隣接する尾根（標高約19ｍ）とは急な斜面でつながり、台地の西側に広がる標高７ｍ程の水田面とも急崖でつながっている。ただし、台地の南側では浅い埋没谷が入っており、この部分は比較的緩い斜面となって水田面まで下りている。台地の北側は階段状の地形があるが、調査の結果、耕地を造るために斜面を埋めた人工的な地形であることが分かっている。

台地上面は北側でやや高く、南側に向かってやや低くなっている。東側の尾根状地形およびその両側の急な斜面の林地および荒蕪地を除いては、台地上面は全面畑として使われている。平坦な耕地とするため、北側の高い部分から南側の低い部分に向かい土が移動されており、調査前の表土は北側の高い部分では地山がほとんど露出するような状況であった。また、耕地として利用するために甕が東側の尾根状地形との際に埋め込まれており、その周辺の地山面は明らかに耕地を造成するため削平されていた。

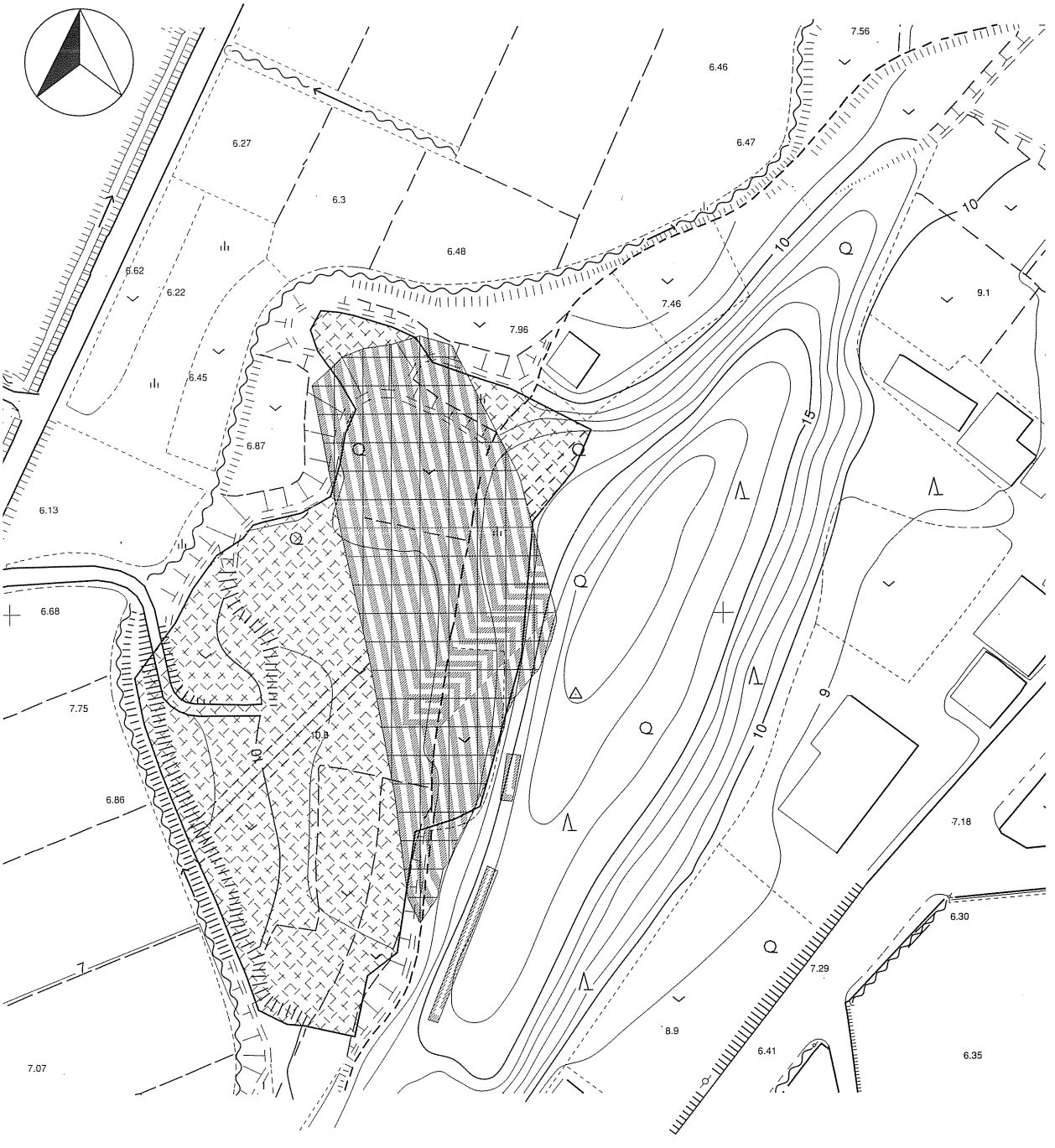
２　遺跡基本層序

第Ⅰ層　(10YR3/3)暗褐色シルト。粘性強くしまっている。径１～２㎜の木炭粒１～２％、径１～３㎜の焼土粒(5YR4/6～4/8、赤褐色)１％を含む。現代の遺物（プラスチック製品、針金、木綿糸など）と多量の土師器砕片を含む耕作土である。54ライン以北の調査区北側では、径５～10㎜の地山土ブロック、径１～３㎜の地山土粒（いずれも10YR6/6明黄褐色粘土）を３～５％含んだ暗褐色(10YR3/3)の粘質土となるが、さらに58ライン以北の北側斜面では地山土ブロック、地山粒を含んだ暗褐色～にぶい黄褐色のシルトとなり、礫を多く混じえるようになる。これは、54ライン以北では地山面自体が高く、耕作が地山面に及んでいること、また、58ライン以北では斜面に耕地面を作り出した際に、台地上面からの土とともに砂礫をまじえた土を客土したためである。

第Ⅱ層　(10YR3/2)黒褐色シルト～粘土。粘性は弱いが強くしまっている。径１～３㎜の木炭粒７～10％、また多量の土師器片を含む。51ライン以南の地山面の低いところで部分的に残る層であるが、遺構はこのⅡ層上面から切り込んで作られるものもある。遺跡の主たる時代である平安時代の遺物包含層を形成するとともに、遺構の構築面でもある。

第Ⅲ層　(10YR2/2)黒褐色～(7.5YR2/3)極暗褐色シルト～粘土。やや粘質であり強くしまっている。径１～２㎜の焼土粒を２～３％、径１～２㎜の地山土粒を１～２％混入する。土師器砕片を多く包含するが、下部では縄文時代の遺物も包含する。Ⅱ層と同じく51ライン以南の地山面の低い箇所に認められるが、Ⅱ層よりは広く遺跡を覆っている。

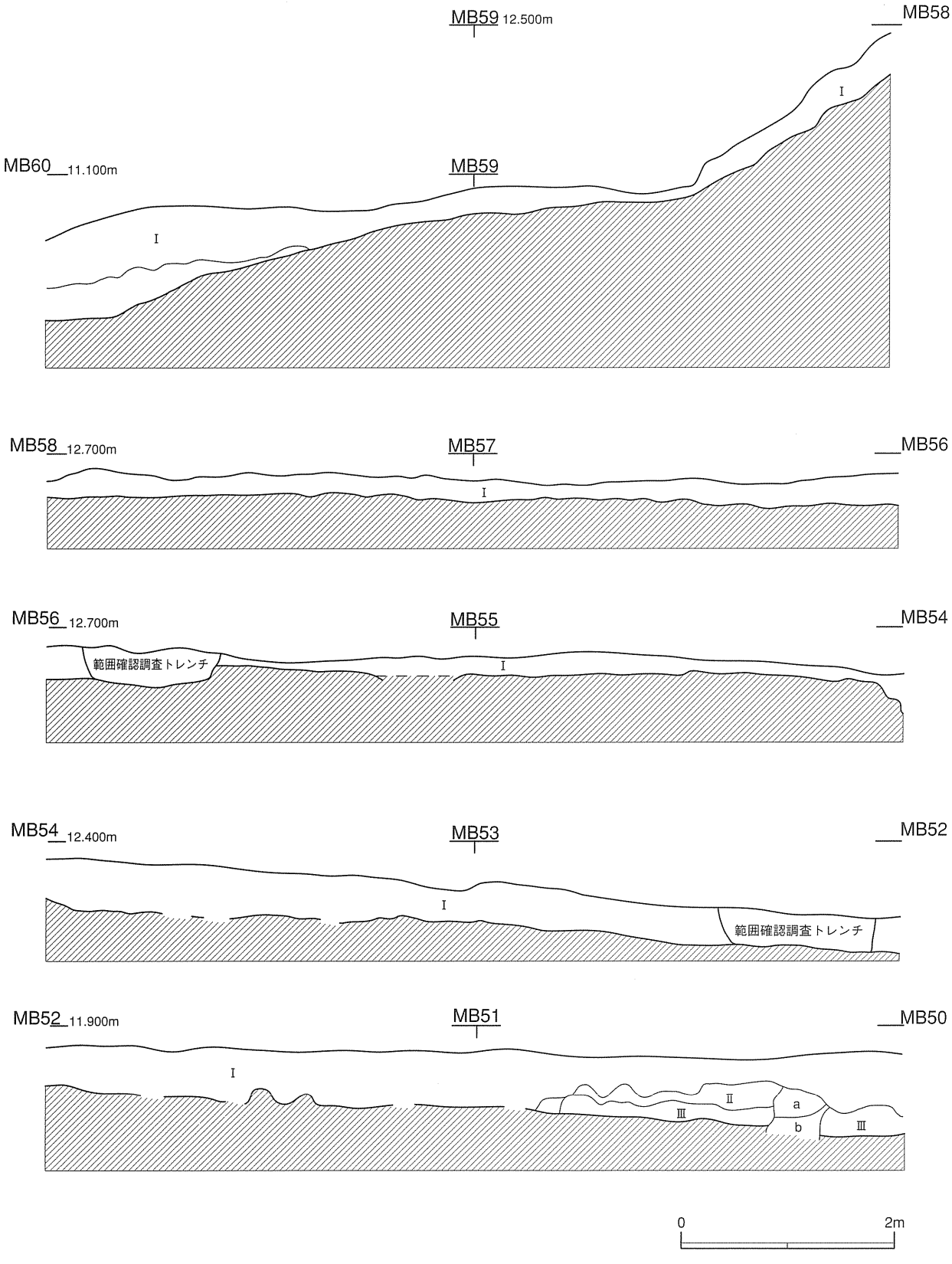
第Ⅳ層　(10YR3/3～4/3)暗褐色～にぶい黄褐色シルト。粘性は弱いが強くしまっている。径１～２



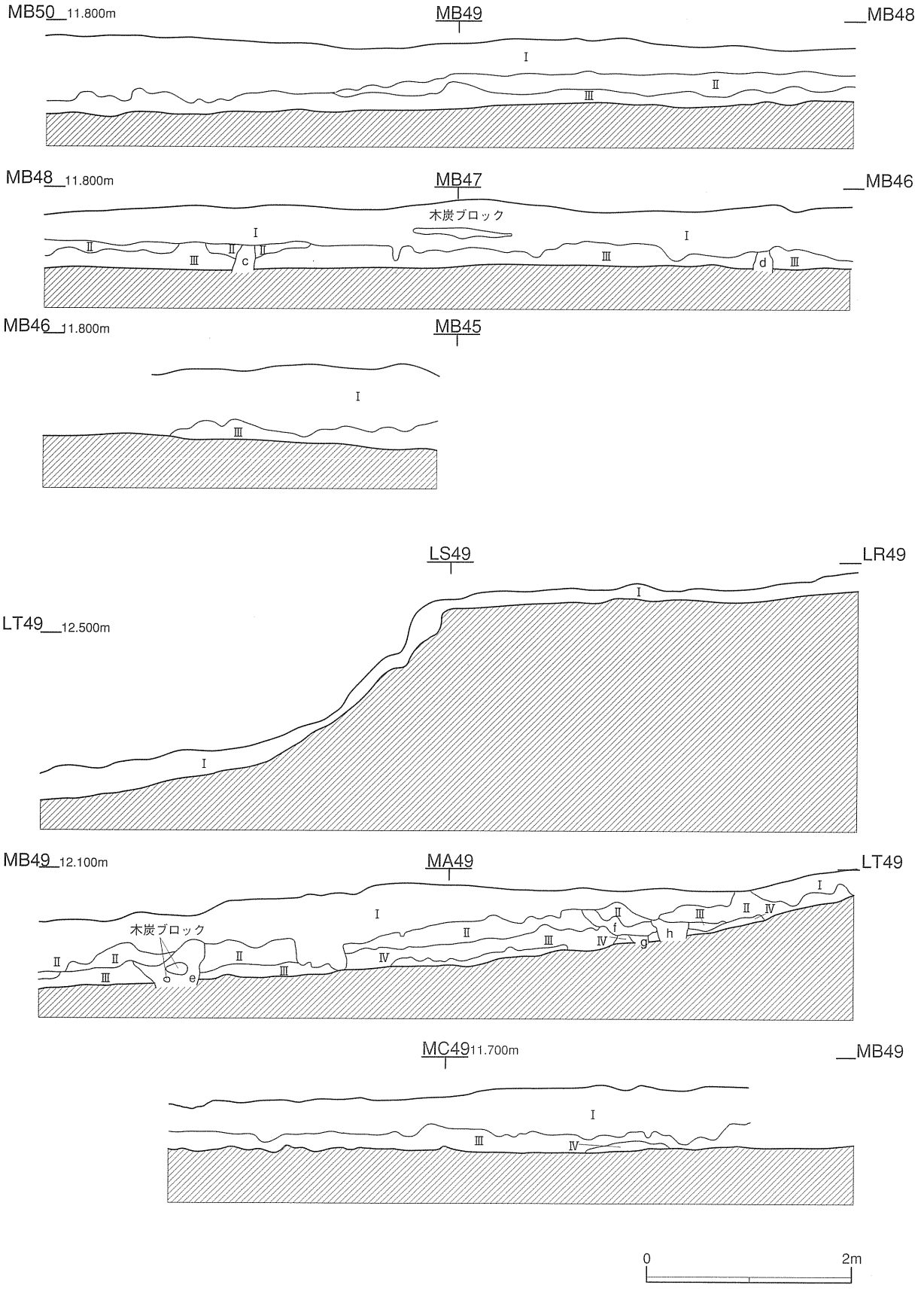
遺跡範囲

調査範囲

第３図　遺跡範囲と調査区


MB59 12.500m
MB58
I
MB60 11.100m
MB59
I
MB58 12.700m
MB57
MB56
I
MB56 12.700m
MB55
MB54
範囲確認調査トレンチ
I
MB54 12.400m
MB53
MB52
I
範囲確認調査トレンチ
MB52 11.900m
MB51
MB50
I
Ⅱ
Ⅲ
a
b
Ⅲ
0
2m

第４図　遺跡基本層位（１）


MB50 11.800m
MB49
MB48
MB48 11.800m
MB47
MB46
木炭ブロック
MB46 11.800m
MB45
LS49
LR49
LT49 12.500m
MB49 12.100m
MA49
LT49
木炭ブロック
MC49 11.700m
MB49
0
2m

第５図　遺跡基本層位（２）

cmの地山ブロック25%、径1～2mmの地山土粒15%を斑状に多く含む。地山漸移層。

第Ⅴ層　(10YR7/4～6/4)にぶい黄褐色シルト。かなり強くしまっている。地山層。

以上Ⅰ～Ⅴ層が基本的な遺跡の層序であるが、Ⅰ層は基本的に平安時代の遺物包含層を耕作によって攪乱した層であるため、部分的にⅡ層あるいはⅢ層に由来する土が残る場合もある。MB47杭付近で確認された、木炭の層状のブロックなどはⅡ層中あるいは上面に残された木炭層がほぼそのままにⅠ層中に残されたものである。また、調査区北側の54ラインから58ラインまでと、調査区東側のLRラインからLSラインまでは地山面が人工的な平坦面を作っている。これは耕地造成のための削土を受けた結果であり、これらの区域では遺構、遺物とも検出されたものは極端に少ない。また、詳しくは後述するが、MB54杭付近で地山面に比較的大きな段差がある。当初、耕地造成の削土によるものと思われたが、耕地造成時の築段ではなく、平安時代の造成工事の痕跡がほぼそのままに残されていたものと判明した。

第2節　調査の方法

1　調査区の設定

調査区内に建設交通部が設置した路線中心杭(No.56)を原点として、これを基準点(MA50)とし、国家座標第X系の南北方向に南北基準線を設定した。これに直行するラインを東西基線とし、両基線を延長して当該区内に4m×4mメッシュのグリッドを組み、その交点に方眼杭を打設した。各方眼杭には東から西に向かって‥‥LR、LS、LT、MA、MB、MC、MD‥‥‥とアルファベット2文字の組み合わせを振りあて、南から北に向かっては40、41、42、43、44‥‥50、51、52‥‥‥と2桁のアラビア数字を振りあて、各方眼の南東隅に位置する方眼杭に当てられたアルファベットとアラビア数字の組み合わせにによって、当該方眼の呼称とした。

調査区は基本的に範囲確認調査によって遺跡範囲とされた畑の平坦面上に設定されたが、東側斜面の中段にも狭小な平坦面が認められたため、2箇所にわたってそれぞれ幅1.5m×長さ23m、幅2m×長さ6.5mのトレンチを設定した。

2　野外調査

野外での発掘調査はおおまかに表土除去、包含層掘削、遺構確認、遺構精査の順で進めた。範囲確認調査で表土下10～20cm程度で遺物が多量に出土する部分があることが知られていたため、表土除去の作業は人力をもって行い排土はベルト・コンベアを連ねて調査区外へ排出した。表土除去および次いで行った包含層掘削で出土した遺物については出土グリッドと層位を注記し取り上げた。遺跡基本層位は調査区中央を東西南北に貫く基線に沿って残した畦によって観察し、その写真・図面による記録を行った。包含層掘削後の遺構確認は地山面で行ったが、確認した遺構のプランはトータル・ステーションによって位置を記録し、確認順に番号を付して管理した。遺構精査にあたっては柱穴などの小形の遺構については2分割し、土坑・井戸など一定規模以上の遺構については4分割し、埋土の観察・記録を図面・写真によって行った。図面記録としては通常の平断面図は1/20の縮尺で行い、遺構内外の遺物出土状況などの微細図については1/10で行った。なお、発掘調査現場での写真記録は35

㎜モノクロ・フィルム、リバーサル・フィルムを用いて行った。

３　室内整理

屋内整理は野外調査で得られた記録類の整理、および出土した遺物についての整理を行った。野外調査で得られた記録類のうち、図面についてはスキャナーで取り込んだ原図をＣＡＤ上で編集した。平面図と断面図の合成、遺構平面図と遺物出土状況図の合成などはＣＡＤ上で行い、報告書作成のための組み版もこのＣＡＤデータの読み込みによって行っている。また、出土した遺物についてはまず洗浄を行い、乾燥後遺物の自動注記システムによって注記した。注記後、土器については可能な限り同一個体の判別につとめ接合・復元を行い、その後に実測・写真撮影を行った。実測は完形ないし完形に近い個体について行ったが、須恵器壺・甕などについては特徴ある口縁部破片を取り上げ図化を行った。遺物写真は35㎜モノクロ・フィルムを用いて行っている。

第３節　調査経過

調査は平成12年の７月31日に開始し、同年10月６日までの延べ45日間を費やして行った。表１に調査経過を記す。

表１　調査経過（１）

７月31日	発掘調査開始。大松沢Ｉ遺跡へ残した器材を諏訪遺跡へ運ぶ。作業員５名で器材運搬、遺跡への道路作りなどの作業を行う。 気温38.5度。今年一番の猛暑。運搬作業はほぼ終了。
８月１日	作業員７名で調査区の環境整備。草刈機、チェーン・ソーで調査区内の刈り払い作業を行う。調査区内に方眼杭の打設を行う。 午前に引き続き、刈り払い作業。また、範囲確認調査時のトレンチに被せていたシートを引き剥がす作業を行う。
８月２日	範囲確認調査時のトレンチの排土除去、シート剥がしの作業を行う。また、男子作業員によってベルトコンベア設置のための足場を組む。範囲確認調査の排土除去作業を行う。また、方眼杭打設作業が終了し、ＭＢライン、49ラインに基本層位観察用のトレンチを設定し、掘削を開始する。
８月３日	ＭＢラインのトレンチ掘削。調査区南側では表土以下の堆積層が厚いが、北側にゆくに従い薄くなる。47～53ライン辺りまでに多量の土師器坏が出土する。午前に引き続き、ＭＢライントレンチの掘削。土師器坏は耕作による攪乱を受けて小破片に壊れた状態での出土。地山は54ラインから北側で一段高くなる。
８月４日	49ラインのトレンチ掘削。地山は東側で高く、西側に向かって低く、従って包含層を西側にゆくに従い深くなる。調査区西端では湧水もある。午前に引き続き、49ラインのトレンチ掘削。遺物はＭＣ、ＭＢ、ＭＡ、ＬＴの西側に寄った地点で比較的多く出土する。
８月７日	ベルトコンベアの設置作業。調査区の北側から重機を使って調査区内にあげ入れ、そこからは人力によって配置する。午前に引き続きベルトコンベアの設置作業。作業員のうち、１名ベルトコンベアの設置作業中に左手親指をベルトコンベアに挟まれ、骨折する。小林対応のため、労基局、病院へ。
８月８日	ベルトコンベアの設置作業。ＭＢライントレンチに沿った南北列に設置し、東西列は50ラインに１列、55ラインに１列をセットする。ベルトコンベアのセットは午後３時までに終了。次いで、配線作業を行い、午後４時過ぎには試験的に稼働させる。
８月９日	調査区の南側から表土除去作業の開始。表土面が乾燥しきっており散水しながら作業を行う。午前に引き続き表土除去作業継続。
８月10日	トレンチ排土の排出作業。範囲確認調査時にトレンチ掘削した土を排出する。10時頃までに作業終了。ＭＢライングリッドを北側から順次掘削する。57区では表土下15㎝程度で地山粘土層が露出する。53～57区にかけたは旧地形が相当に削られている様子。遺物の出土も全くない。午前に引き続き、ＭＢラインの表土除去作業。51区までの表土除去を終える。文化財保護室武藤学主事来跡。田口清克氏来跡。作業員池田さんの案内で遺跡南側の沢にある原油の滲みだし地点を確認する。北側に面した斜面裾の水田部分に1.5×0.7ｍの範囲で原油が滲みだしており、周辺は踏むとブカブカの状態。以前に近くに原油採掘の井戸があり、その廃油貯めの可能性もあるという。結局のところ、自然に滲出しているかどうかの結論は得られなかった。

表１　調査経過（２）

８月11日	雨。小林人間ドックのため休み。船木調査課長代行指揮。ＭＢラインをとおる基本層位図の作成。10時ころまでには、ＭＢ45～ＭＢ46については終了。11時頃雨が激しくなり、作業一時中断。午前に引き続き基本層位図作成を行う。ＭＢ50からＭＢ52の区間は完成する。調査区北側部分は完全に地山までの掘り下げが行われておらず、ＭＢ58～60までの間の基本層位図作成にかかる部分の地山面までの掘り下げと壁面精査を行った。 ８月12日～８月20日までお盆のための休暇。
８月21日	晴れ。小林、午前中センターにて連絡会のため、作業休止。千葉、佐々木両名埋蔵文化財ｾﾝﾀｰにて発掘に必要な物品のとりまとめ作業。表土除去作業再開。
８月22日	表土除去作業継続。調査区北側部分53ライン北側で表土除去を行うが、10cm程度の掘削ですぐに地山が露出してしまう。耕作によって相当削られている模様。また、東側隅では耕作に伴い埋め込まれた甕が出土。取り除く。船木副所長来跡。午前に引き続き表土除去作業継続。調査区の東側部分、斜面下での表土除去作業を行う。作業員武藤さんの案内で白華城を実見。雄物川側に対してかなり急峻な斜面を登る。主郭上面には明治44年に皇太子が視察したことを記念した石碑が建つ。また、ほかに地元出身者が建てた「鎮魂」碑も建っている。
８月23日	53ライン南側での表土除去作業。MC51区で建物を構成すると判断される柱穴多数を検出。このＭＣ51付近から南側では、包含層が次第に厚みを増す傾向にある。表土10cm程度をはぎ取ると坏を主体とする遺物が多く出土するようになり、この包含層が30～40cmの厚さで堆積している。遺跡基本層位図の作成作業はほぼ終了。千葉による基本層位の注記作業。畑として利用されている現況では、かなり平坦と思われたが、掘削を行い、地山面を確認すると、予想以上に起伏が大きいことが分かった。また、北側の斜面では耕作面を作るために客土されていることもわかった。文化財保護室谷地学芸主事来跡。
８月24日	昨日に引き続き53ラインの南側での表土除去作業を行う。柱穴はMC51のほか、MB51区でも多数見つかり出す。また、MB50区では表土下20cm程度で径1.2×0.9ｍ程の焼土の堆積を確認する。路線西側縁に設置したベルト・コンベアに沿って調査区際まで表土除去作業を行う。表土下20cm程まで掘り下げるが、遺物はあまり出土しない。49ラインでの地山は表土下60cm程にあるから、西縁でもおそらく同じ程度の深さがあるものと予想される。
８月25日	53ライン南側での表土除去作業。調査区西側縁部分に加え、中央から東側部分でも掘削するために、西側縁に沿わせたベルト・コンベアのラインに直交するように、２列のベルト・コンベアのラインを設け、作業員も増員した。表土除去作業継続。今週までで調査面積1600㎡のうち、600㎡強を表土除去した。残り1000㎡程があるため、先に南側部分についても試掘坑を設定し、掘削を行った。結果、やはり地山面まで50cm程度の深さがあることが分かった。
８月28日	調査区南側部分の表土除去作業。先週末の試堀で南側の表土～包含層に一定の厚さがあると分かっていたため、この南側区域を中心的に掘削し、表土除去作業の見通しを再確認する。先週末に増員した作業員数で９月中旬を目処に表土除去作業を終了できる見込み。調査区南側の表土除去作業継続。南東隅では湧水があり、作業進捗がはかばかしくない。また、一部地山に砂利の混じる部分もあり、地山面を削り出す作業にも多少の支障をきたしている。
８月29日	表土除去作業。ＭＡ44・43・42・41及びＭＡ・ＭＢ・ＭＣ57の各グリッド。調査区南側と北側とに分かれての表土除去作業の継続。乾燥した状態が続き地山近くがかなり堅く、作業が難渋する。散水が必要であり、ポンプ、給水タンク等の準備を行う。
８月30日	表土除去後の包含層上面が乾燥しているため、散水作業。調査区の中心部分についてはほぼ表土除去作業を終え、北側斜面下部分と南側平坦面部分に分かれて表土除去作業を行う。散水作業、表土除去作業継続。本日、表土除去作業を行った区域はＭＣ、ＭＤ59、ＭＡ44・43・42・41の各グリッド。ポンプ用ガソリンの購入（11リットル）。
８月31日	表土除去作業は調査区北側中段部分で行い、他は調査区中央部の包含層上面精査に入る。基本層位東西ラインの写真撮影、遺構はＬＳ51・52グリッドで確認した径１ｍの土坑プラン（ＳＫ01）があり、その写真撮影も行う。また、方眼杭の再打設作業も行う。表土除去作業、方眼杭再打設作業の継続。遺構確認作業についても継続。ＳＫ01の北側で同様の土坑プランを確認。ＳＫ02とする。写真撮影。さらに北側でも長楕円形の土坑プラン確認。ＳＫ03とし写真撮影する。豊岩小学校貴志教頭先生より体験発掘の予定について電話連絡あり。
９月１日	表土除去作業は調査区北側の一段低い部分と調査区南側部分とで行う。調査区北側部分は本来遺跡北側の沖積地へ斜面となって続いていたものだが、畑を造成するために削りだしたことがわかる。調査区南側は東側の尾根上地形から連続する斜面であることが確認できた。遺構確認作業も継続。ＳＫ04、05、06の確認。表土除去作業継続。また、確認した遺構については確認状態の写真撮影を行う。調査区中央の包含層掘削についても継続。
９月４日	表土除去作業はＭＢ44・43・42の調査区南端各グリッドと、ＭＡ・ＭＢ58の調査区北端グリッドで行った。調査区北端側の旧地形は本来傾斜面であったものが、平場を作り出すように削られており、先端部はかなり深い。また、調査区南端部も西側に向かって傾斜しており、西端は地山面まで１ｍ程度の深さがある。遺構精査はＳＫ01～05の断ち割に着手した。表土除去作業継続。遺構精査はＳＫ01、02について遺構南側を、ＳＫ03については南東４分割の南東１画を、ＳＫ04、05については東側を掘り込む。ＳＫ01は浅い鍋底状断面の土坑、ＳＫ03は南側が攪乱されているが、浅い平坦な底面をもつ土坑、ＳＫ05は深さ20～30cmの比較的深い土坑となる。ＳＫ05は平面形から土坑墓の可能性もある。遺構精査のほか、調査区中央の包含層の掘削をジョレンにて行う。ベルコン再設置。発電器給油。
９月５日	埋蔵文化財センターにて連絡会。午後、表土除去作業継続。また、昨日、掘削した遺構の断面写真を撮影し、断面図を作成する。
９月６日	午前中、降雨のためベルトコンベアの稼働を休止し、一輪車にて包含層掘削の排土を排出する。降雨のため、作業進捗ははかばかしくなく、途絶えがちになる。11時降雨が激しくなったため、排土に埋まった単管を掘り出す作業に切り替える。午後、天気回復。調査区北端部分の表土除去再開。遺構精査も再開。新たに径１ｍの土坑２基を確認し、ＳＫ07、ＳＫ08として写真撮影する。また、包含層中出土の遺物のうち、比較的まとまったものに遺物番号を付し、位置を記録する。と同時に良好なものについては写真撮影も行う。午後２時、富樫博物館長以下４名来跡。

表１　調査経過（３）

９月７日	遺構精査はＳＫ01については断ち割を終え、断面の実測に入る。また、新たにＳＫ09、ＳＫ10、ＳＫ11を確認し写真撮影を行う。また、昨日確認したＳＫ07、ＳＫ08については断ち割を開始する。調査区南端部分については表土及び包含層の除去を終え、地山面での遺構確認を行う。また、調査区北端部分については表土除去を継続する。旧地権者の鈴木さんによれば、この北端部分では斜面に川砂を運び入れ、平坦面を作り出したとのこと。基盤の地山は大きく傾斜しており、遺構の確認はない。遺物は石器数点を確認。ＳＫ02については断ち割を終える。覆土中からは土師器坏片の他に石匙１点も出土。ＳＫ03についても断ち割を終える。東西に長い方形の土坑。南側が耕作の攪乱によって壊されている。ＳＫ05についても断ち割を終え断面実測に入る。ＳＫ08は断ち割の結果、埋土からビニール片が出土し最近の攪乱坑であることが判明。新たに確認したＳＫ09（ＳＥ09）は径1.5ｍ程の円形プランの土坑であるが、ボーリング探査の結果、井戸であることが判明。ＳＫ10は径1.5ｍ程、深さ30㎝程度の土坑であり、西壁に沿って須恵器大甕片が重なって埋め込まれている。
９月８日	遺構精査はＳＫ10の断ち割を行い、須恵器大甕の出土状況を写真撮影する。口縁部から胴部までが残っているが、口縁～頸部は倒立した状態で胴部は３分割されて折り重なるように埋め込まれている。調査区中央部西側の柱穴の位置する部分を精査する。径50㎝前後の比較的大きな土坑２基を確認し、ＳＫ15、ＳＫ16とする。
９月11日	雨のため、表土除去作業。調査区に隣接するＭＤ47・48・49・50の各グリッドを地権者鈴木さんの了解を得て、拡張する。ＭＤ47グリッドでは表土下10㎝で地山層が露出する。この部分でも耕作による削平が行われている模様。午後、文化財護室との定例協議のため、現場作業休止。
９月12日	雨のため、遺構精査は取りやめ。包含層部分のジョレンがけ作業。調査区北側の表土除去作業。また、ＬＲ48・49グリッドの表土除去作業。ＳＫ10、ＳＫ06土坑の断面図作成作業。引き続き天気は雨。ＬＲ48・49グリッドの表土除去作業。排土下の単管パイプの掘り出し作業。調査区北側の表土除去作業はほぼ終了。
９月13日	午前中小雨が続いたため、調査区外南東斜面に幅２ｍ長さ30ｍのトレンチを設定し、刈り払いおよび掘削の作業を行う。また、ＭＣ・ＭＤ52グリッドの柱穴群については断ち割を行い、遺構と確認できたものについては順次断面実測に入る。他に調査区北端部の表土・包含層掘削作業およびＬＲ・ＬＳ50・51グリッドの表土除去作業。午後、晴れる。調査区外南東斜面のトレンチ掘削は継続。磨り石１点、石斧１点が出土。遺構の確認はない。調査区中央部分の包含層にサブ・トレンチを設定し掘削する（ＬＳ51－ＭＢ51の南側幅１ｍ）。ＬＴ50グリッドで柱状高台付きの坏を含む土師器が多く出土。柱穴群については再度ジョレンがけを行い、位置の実測を行う。ＳＫ01、02、10については遺物出土状況の平面実測。
９月14日	晴れ。調査区東側に設定したトレンチのうち南側については掘り終え、北側の掘削を行った。調査区中央の柱穴群については断ち割、断面実測を行っている。井戸跡ＳＥ09については南側の掘削を再開した。午後、引き続き晴れ。包含層部分はサブ・トレンチの幅を広げ、１ｍ程度の幅で掘削する。現在面より15㎝程度下から焼土の広がりを確認。また、遺物（坏・甕）の集中部分も見つかる。井戸跡ＳＥ09からは井戸枠が出土した。まだ西側のコーナー部分のみであるが、90㎝四方の方形に枠材が組まれている模様。
９月18日	晴れ。調査区東側に設定したトレンチのうち、残っていた北側トレンチを掘り、午前中に掘りあげる。出土したのは３片の須恵器片のみ。南側トレンチについては西壁の清掃を行い、断面図作成に入る。調査区中央部柱穴群については、継続して精査中。焼土遺構ＳＮ13・14についても同様にベルトを残しての掘り下げを行う。包含層掘削については厚さ30㎝程ある下層部分の掘り下げをおこない、地山面を露出させる。石匙１点が出土した他は遺物なし。晴れ。井戸跡ＳＥ09については南側半分の掘り下げを行い、井戸枠の組まれた状況を明らかさにさせる。南辺、東西辺とも枠材が良く遺存している。ＳＫ10については断面観察ベルトを取り除き、須恵器平面を追加実測する。また、包含層掘削は49ライン南側についても行うが、出土遺物はなし。
９月19日	晴れ。調査区東側のトレンチについては、西壁の基本層位図を作成する。遺構確認はＭＡ51グリッドの包含層を掘り上げた基盤層上面で行い柱穴数基を確認している。井戸跡ＳＥ09については断面写真の撮影を行った。また、焼土遺構ＳＮ13については断面図を作成した。晴れ。ＭＡライン西側、51ライン北側の柱穴群については断ち割を継続する。ＳＫＰ79・80の底面からは須恵器大甕片を敷いた状態が確認される。ＭＡ50グリッドからは焼土遺構が確認され、ＳＮ137の番号で確認状況及び遺物出土状況を写真撮影する。ＳＥ09井戸跡については断面図の作成を行う。
９月20日	晴れ。遺構精査は柱穴群の断ち割及び断面図作成を行った。また、東側トレンチ部分については北側トレンチの西壁断面図作成に入る。午前９時40分より豊岩中学校の体験発掘が行われ、教職員11名、生徒79名が来跡した。体験発掘は２グループに分け、前半部分を小林が、後半を千葉が担当し発掘指導、遺跡の説明を行った。魁新報社田口記者取材。晴れ。午前に引き続き柱穴断ち割の遺構精査。49ラインで見つかったピットについても断ち割を行う。また、断ち割済みの柱穴については、攪乱穴か柱穴かの点検を行う。ＭＡ50グリッドの焼土遺構については遺物出土状況の平面図作成を行う。
９月21日	ＳＥ09井戸跡については断面層位の注記後、北側半分を掘り込む。井戸枠は完全に残っている模様。井戸枠に近い低層の湿潤な土は有機質の遺存体が残っているようなので採取する。ＳＥ09周辺の柱穴の精査。確認したものについて断ち割りを行い、断面の写真撮影、注記を行う。井戸内から採取した土壌を篩がけするため、秋田中央分室より篩を借用する。
９月22日	ＳＫ10出土の須恵器大甕については洗浄する。また、ＳＥ09採取の土についても篩かけを行う。その結果、直径３㎜程の種子が多く含まれていることがわかる。五十嵐氏に確認したところ、カナムグラではないかとのこと。ＭＡ50、49の包含層および焼土遺構内出土の遺物について出土状況の平面図作成を行う。井戸ＳＫ09については井戸枠の状況を周辺と併せて写真撮影する。調査区南端部分での基盤層上面のジョレンがけ作業を行う。

表１　調査経過（４）

９月25日	雨。一昨日来の降雨のため、調査区の西側が水没する。排水作業を行う。また、包含層中の遺物出土状態については実測作業を行う。断続的な降雨のため、午前中で作業中止。午後、ＳＫ10出土の須恵器大甕の接合作業を行う。また、10月１日に予定している現地見学会の案内状作成。田口清克氏来跡。嵯峨さん来跡。
９月26日	雨。晴れ間を見ながら、遺構確認作業。柱穴は183番までを確認する。継続してトータル・ステーションによる位置の測量作業。包含層および焼土遺構出土の遺物については平面図作成作業を行う。ベルトコンベアを移動し、ジョレンかけ作業。新たに確認した柱穴についても断ち割作業を行う。また、既に断ち割った柱穴については遺構となるかどうかの点検を行う。ＬＴ50、ＭＡ50の北側に残していたベルトの除去作業を行う。船木副所長、塩谷順耳氏来跡。
９月27日	雨。晴れ間を見ながらの遺構精査。調査区中央の遺物包含層は北側をほぼ掘り下げ完了。縄文時代の石槍１点が出土写真撮影し、取り上げる。遺物出土状態の平面図作成作業。雨。遺構精査を継続する。また、遺物出土状態図作成を継続する。雨のため、調査区の西側が水没状況になる。水中ポンプによって排水作業を行う。
９月28日	雨。降雨の合間を縫っての遺構精査、図面作成作業。遺構確認面を精査し、新たな柱穴の検出に努める。建物跡についてはほぼ柱穴が確定する。雨。遺構精査継続。建物跡の東側にも南北に柱列が並ぶことが確認された。柱列は３列あり、建物跡と平行する形で並んでいる。新たに確認した柱穴は直ちに断ち割りを行い、平面図の記録を行った。
９月29日	晴れ。調査区中央の柱穴群については再検討の結果、南北の梁が２間、東西の桁が５間の建物があることがわかった。柱は何回か建て替えが行われており、２～３基が重複している。また桁行のさらに東側にも南北に走る柱列が２列ある。これら柱列の確認作業および断ち割作業を行った。晴れ。調査区中央の遺物包含層についての遺物取り上げ作業および掘り下げを行う。また、明後日の現地見学会に備え、現場内の清掃を行う。ベルト・コンベアの移動も併せて行う。児玉補佐来跡。
10月１日	現地見学会。小林、千葉、佐々木出勤。説明資料の作成、プレハブ内での小展示作業。10時半から見学会を行うが、総数約120名が参加。文化財保護室武藤主事も来跡。現地の遺構の説明を行った後、プレハブ内に展示した遺物の説明を行う。
10月２日	雨。遺構平断面図の記録作業。また、井戸枠材の取り上げ作業および梱包作業を行った。遺構の記録作業は現在確認しているものについては一部の平断面図作成作業、調査区中央部の遺物出土状況図の作成が完了しておらず、その作業を急ぐ。雨。調査区中央からは現在見つかっている遺物の下からも新たに遺物の出土が確認される。包含層がまだ続いている模様。出土状況図を作成しながらさらに下層を掘り下げる。桜田課長補佐来跡。
10月３日	雨。図面作成作業、包含層掘り下げ作業、遺物取り上げ作業を行う。包含層掘り下げ作業は最後まで残っていたＬＴ50およびＬＴ51グリッドについてほぼ終了。出土した遺物についての平面図作成を行う。晴れ。ＭＡ48グリッドの焼土遺構、遺物包含層を掘り下げた結果、柱穴２基を新たに確認する。平面位置をトータル・ステーションによって記録する。
10月４日	晴れ。ＭＡ54グリッドからＭＤ54グリッドにかけての段差の精査。建物跡梁筋に平行する形で段差が作られていることを確認する。段差位置をトータル・ステーションによって記録する。魁新報社田口記者取材。段差の南側の建物跡および柱列の再精査。掘り残しがあるため、それらをすべて点検し、掘り残しているものについては埋土を除去し平面図およびエレベーション図の修正を行う。また、井戸跡から採取していた土壌をすべて洗浄し、種子類をより分ける。
10月５日	調査区南側に残していた土坑ＳＫ12を断ち割った結果、素掘りの井戸跡と判明。遺物や礫の出土状況図および断面図を作成する。明日の現場撤収に備え、使用した器材類の洗浄作業、梱包作業を開始する。午前に引き続き、器材類のとりまとめ作業。また、調査区の柱穴群の再精査は新たに確認したものを除いてほぼ終了する。
10月６日	晴れ。発掘調査最終日、芳賀所長に来跡願い朝の点呼の後、挨拶をいただく。ベルト・コンベアの整理。遺構精査は柱穴群の平面図実測およびエレベーション図の作成、また焼土遺構下部から新たに確認した柱穴および土坑の掘り上げ。午前９時半、豊岩小学校６年生18名の見学。10時過ぎ、中央分室高橋室長来跡。11時、秋田建設事務所今野技師来跡、現場引き渡し。午後一番の全景写真撮影に備えて調査区全面の清掃。晴れ。午後１時調査区全景写真撮影。ＳＥ09井戸枠の取り上げ。ＳＫ12の精査継続。完掘写真撮影。機材類とりまとめ。午後３時、携帯電話返却。魁新報社田口記者取材、物跡北側の段差部分を説明する。タワー解体。プレハブ内の清掃。午後４時備品類の運び出し。

第４章　調査の記録

第１節　検出遺構と出土遺物

諏訪遺跡の発掘調査で検出した遺構は、平安時代の建物跡１棟、柱列３条（うち１条は溝跡を伴う）、焼土遺構４基、土坑５基、井戸跡２基、柱穴ないし小土坑32基である。出土遺物には平安時代の遺物ほかに縄文～弥生時代の土器および石器が含まれるが、それらを伴った遺構は確認されなかった。

１　建物跡

SB07建物跡（第７図・第８図、図版１－３・図版２－１）

調査区中央西寄り、ＭＢ・ＭＣ49～52の第Ⅴ層地山面で確認した。梁行２間（総長6.544ｍ）、桁行５間（総長11.965ｍ）で桁行の方向ははN-14.5°-Ｅを指す。柱穴は調査区外にのびた南西隅および桁側の１箇所を除く12箇所を確認した。各柱穴の規模は、Ｐ１；長径0.72×短径0.48×深さ0.34ｍ、Ｐ２；0.64×0.48×0.43ｍ、Ｐ３；0.80×0.74×0.22ｍ、Ｐ４；0.72×0. 6×0.19ｍ、Ｐ５；0.64×0.53×0.48ｍ、Ｐ６；0.69×0.68×0.61ｍ、Ｐ７；0.92×0.59×0.36ｍ、Ｐ８；１.06×0.58×0.56ｍ、Ｐ９；0.62×0.61×0.45ｍ、P10；0.78×0.73×0.20ｍ、P11；0.96×0.60×0.33ｍ、P12；0.94×0.50×0.65ｍである。建物跡は一度建て替えられており、Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ８・P11では２基の柱穴が重なっている。Ｐ４からは土師器坏（第24図20）、Ｐ６からは須恵器甕（第24図21～23）が出土した。Ｐ６に納められた大甕の口縁～胴部上半（第24図23）は、柱穴底面に拳大の石を置いたのち、埋土の中層から上層にかけて分割された数片を重ねて納めたもので、建物跡の廃絶に関わって埋納されたと判断される。

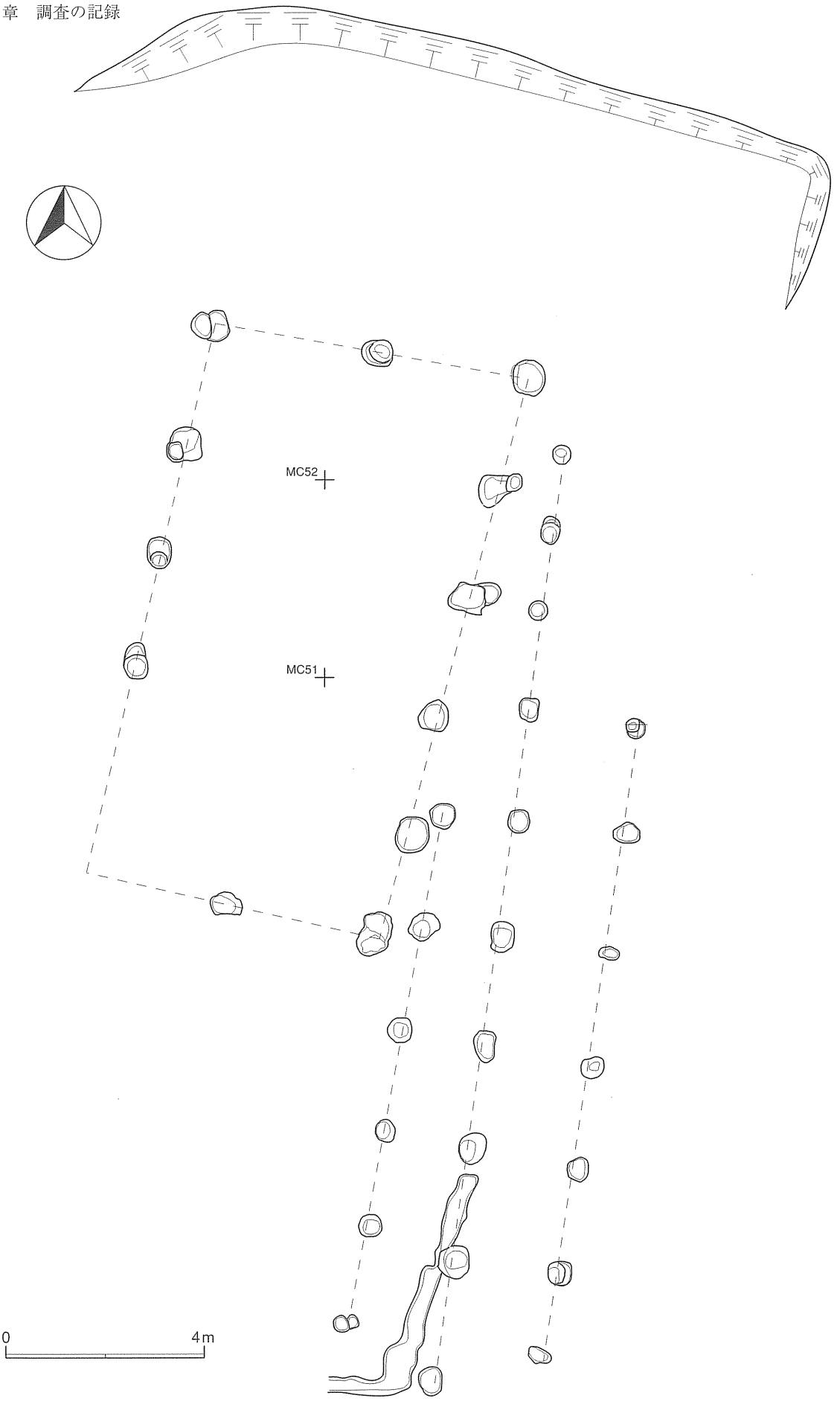
２　柱列

SA15・SA16・SA17柱列（第７図、第９図、図版１－３・図版２－１）

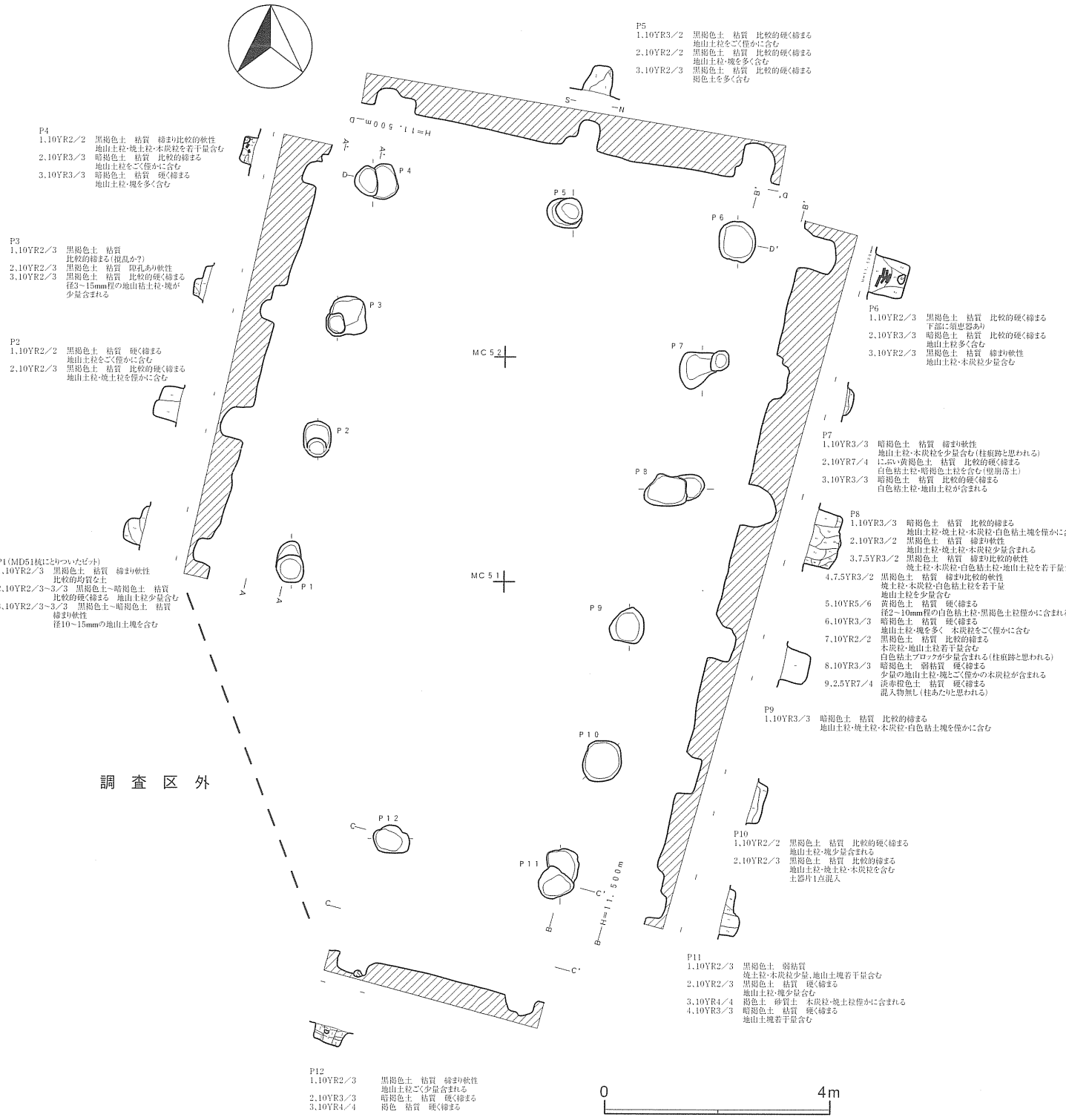
ＳＢ07建物跡の東側、第Ⅴ層地山面で確認した。建物跡の東辺に沿うように３列の柱列が並んでいた。建物跡に最も近いＳＡ15は６個の柱穴が総長13.07ｍでN-11°-Ｅの方向に延びている。その東側にあるＳＡ16は10個の柱穴が総長23.67ｍでN-7.5°-Ｅの方向に延び、さらにその東側にあるＳＡ17は７個の柱穴が総長12.92ｍでN-8.5°-Ｅの方向に延びている。それぞれ柱穴の大きさはＰ１；0.50×0.33×0.17ｍ、Ｐ２；0.47×0.48×0.32ｍ、Ｐ３；0.46×0.40×0.22ｍ、Ｐ４；0.50×0.50×0.40ｍ、Ｐ５；0.65×0.54×0.24ｍ、Ｐ６；0.51×0.50×0.33ｍ、Ｐ７；0.58×0.48×0.45ｍ、Ｐ８；0.67×0.66×0.36ｍ、Ｐ９；0.66×0.52×0.25ｍ、P10；0.65×0.43×0.24ｍ、P11；0.63×0.48×0.21ｍ、P12；0.49×0.45×0.16ｍ、P13；0.49×0.40×0.34ｍ、P14；0.40×0.40×0.14ｍ、P15；0.55×0.39×0.40ｍ、P16；0.39×0.38×0.33ｍ、P17；0.49×0.32×0.16ｍ、P18；0.53×0.51×0.35ｍ、P19；0.50×0.43×0.24ｍ、P20；0.52×0.45×0.34ｍ、P21；0.40×0.28×0.25ｍ、P22；0.54×0.43×0.11ｍ、P23；0.41×0.38×0.22ｍである。ＳＡ15のＰ５からは第24図25の土師器坏が、ＳＡ16のP14からは同図24の土師器坏が、ＳＡ17のP20からは同図26の須恵器甕口縁部片が出土している。

MF
ME
MD
MC
MB
MA
LT
LS
LR
LQ
61
60
59
58
57
56
55
54
53
52
51
50
49
48
47
46
45
44
43
42
41
05
219
220
222
215
03
119・120
91
83
07
82
06
27
22
02
18
90
108
194
01
38
95
112
114
115
72
103
57
143
13
139
10
159
228
17
15
16
14
205
105
106
09
134
137
135
138
225
172
12
0
20m

第６図　遺構全体図



第７図　建物跡（SB07）と柱列（SA15・16・17）


P5
1.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む
2.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む
3.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
褐色土を多く含む
P4
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
地山土粒・焼土粒・木炭粒を若干量含む
2.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒をごく僅かに含む
3.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む
P3
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質
比較的締まる(撹乱か?)
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　脆孔あり軟性
3.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径3～15mm程の地山粘土粒・塊が
少量含まれる
P2
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・焼土粒を僅かに含む
P1(MD51杭にとりついたピット)
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
比較的均質な土
2.10YR2／3～3／3　黒褐色土～暗褐色土　粘質
比較的硬く締まる　地山土粒少量含む
3.10YR2／3～3／3　黒褐色土～暗褐色土　粘質
締まり軟性
径10～15mmの地山土塊を含む
P6
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
下部に須恵器あり
2.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒多く含む
3.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒・木炭粒少量含む
P7
1.10YR3／3　暗褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒・木炭粒を少量含む(柱痕跡と思われる)
2.10YR7／4　にぶい黄褐色土　粘質　比較的硬く締まる
白色粘土粒・暗褐色土粒を含む(壁崩落土)
3.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
白色粘土粒・地山土粒が含まれる
P8
1.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒・白色粘土塊を僅かに含
2.10YR3／2　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒・焼土粒・木炭粒少量含まれる
3.7.5YR3／2　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
焼土粒・木炭粒・白色粘土粒・地山土粒を若干量
4.7.5YR3／2　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
焼土粒・木炭粒・白色粘土粒を若干量
地山土粒を少量含む
5.10YR5／6　黄褐色土　粘質　硬く締まる
径2～10mm程の白色粘土粒・黒褐色土粒僅かに含まれる
6.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を多く　木炭粒をごく僅かに含む
7.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
木炭粒・地山土粒若干量含む
白色粘土ブロックが少量含まれる(柱痕跡と思われる)
8.10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
少量の地山土粒・塊とごく僅かの木炭粒が含まれる
9.2.5YR7／4　淡赤橙色土　粘質　硬く締まる
混入物無し(柱あたりと思われる)
P9
1.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒・白色粘土塊を僅かに含む
P10
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊少量含まれる
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
土器片1点混入
P11
1.10YR2／3　黒褐色土　弱粘質
焼土粒・木炭粒少量,地山土塊若干量含む
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・塊少量含む
3.10YR4／4　褐色土　砂質土　木炭粒・焼土粒僅かに含まれる
4.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
地山土塊若干量含む
P12
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒ごく少量含まれる
2.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
3.10YR4／4　褐色　粘質　硬く締まる
調　査　区　外
MC 5 2
MC 5 1
H=11.500m
0
4m

第８図　建物跡(SB07)

SA16註記

P16
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　地山土粒・木炭粒をごく僅かに含む
2.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　径2～20mm程の地山土粒・塊が多く含まれる
3.2.5YR7／4　浅黄色土　粘質　硬く締まる
　　黒褐色土粒・地山土粒を僅かに含む

P15
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土粒・塊を含む　礫一点混入
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む
3.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む　土器一点混入
4.10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
　　地山土粒・塊若干量含まれる

P14
1.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　径2～15mm程の地山土粒・塊が多く含まれる
2.2.5YR7／4　浅黄色土　粘質　硬く締まる
　　黒褐色土粒・地山土粒を僅かに含む

P13
1.10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　白色粘土粒・黄褐色土粒・焼土粒が若干含む
2.10YR3／4　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　径10～15mmの黄褐色土塊の隙間に暗褐色土が含まれる

P12
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　隙孔少なく硬く締まる
　　地山土粒・木炭粒を少量含む
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　隙孔少なく締まる
　　地山土に暗褐色土が少量含まれる

P11
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　焼土粒・木炭粒少量含む
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　僅かに暗褐色土粒が含まれる

P10
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　径5mm程の地山土粒若干量含む
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土塊中に暗褐色土が含まれた土

P9
1.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒・塊を少量含まれる（裏込め土と思われる）
3.10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土粒・塊を若干量含む（撹乱か?）

P7
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒・焼土粒・木炭粒を若干量含む
　　礫1点混入
2.10YR2／1　黒色土　粘質　締まり比較的軟性
　　地山土粒をごく僅かに含む（木根腐食土と思われる）
3.10YR3／4　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　10YR6/8明黄褐色土を少量含む（裏込め土）
4.10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む（撹乱か?）

SA15註記

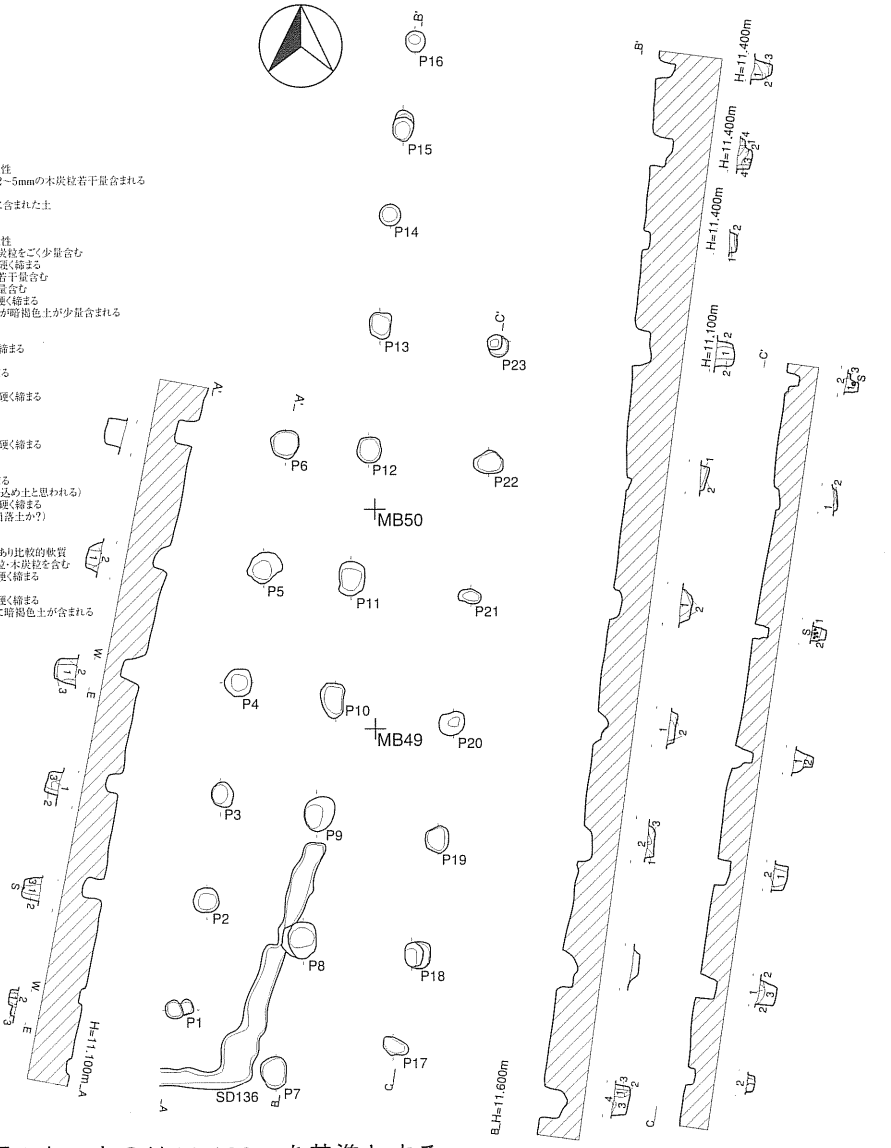
P5
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　径1～2mmの地山土粒・径2～5mmの木炭粒若干量含まれる
2.10YR4／4　褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土と暗褐色土が均質に含まれた土

P4
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　径1～2mmの地山土粒・木炭粒をごく少量含む
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径5～10mmの地山土塊を若干量含む
　　径5～10mmの木炭粒を少量含む
3.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　基本的に地山土塊からなるが暗褐色土が少量含まれる

P3
1.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む
2.10YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土粒をごく僅かに含む
3.10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒・塊を含む

P2
1.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒を僅かに含む
　　底部に土器片1点混入
2.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土粒・塊を多く含む（裏込め土と思われる）
3.10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　地山土粒・塊を含む（壁の崩落土か?）

P1
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　隙孔があり比較的軟質
　　ごく僅かの地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　暗褐色土が少量含まれる
3.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土からなるがごく僅かに暗褐色土が含まれる



※レベル表記のないものは11.100ｍを基準とする

SA17註記

P23
1.10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　隙孔が多く均質な土
　　須恵器碗1点混入
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径10mm程の白色粘土塊を多く含む
3.10YR4／4　黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土塊からなる土

P22
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径5～30mmの地山土塊が上部に多く含まれる
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土からなる土

P21
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　径10～30mmの地山土塊が多く含まれる
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質

P20
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径5～15mmの地山土粒・塊が多く含まれる
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　地山土粒少量含まれる

P19
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
　　黄褐色地山土塊が若干量含まれる
2.10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　比較的締まる
　　地山土塊を主体とし暗褐色土が僅かに含まれる

P18
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
　　径5～10mmの木炭粒・径2～5mmの焼土粒が少量含まれる
2.10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　地山漸移層
3.10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径3～5mmの焼土粒・径2～7mmの粘土粒・径5mmの木炭粒が少量含まれる

P17
1.10YR2／3　黒褐色土　粘質　隙孔少なく硬く締まる
　　黄褐色土粒がごく少量含まれる
2.10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　黄褐色粘土塊径10mm程が若干量含まれる

第９図　柱列（SA15・16・17）

ＳＢ07建物跡およびＳＡ15･16･17の北側、ＳＢ07建物跡の梁行部分から約８ｍ離れてＮ-77°-Ｗの方向に直線的に延びる段差が認められた。東側ではほぼ直角に近く南に折れ曲がり、西側も南西側に緩く湾曲するが、延長24ｍにわたって0.4ｍほど地山が削り出され、その南側はほぼ平坦に近く作られている。人工的な地形改変の痕跡である。当初は耕地造成のための痕跡と考えていたが、ＳＢ07およびＳＡ15･16･17ほかの遺構との位置関係を確認すると、ＳＢ07の梁行方向N-79°-Ｗにほぼ平行し、かつＳＢ07、ＳＡ15･16を北側で取り囲み、さらに削り出しの東端部屈曲の延長は後述するＳＡ16南端に確認した溝跡がのびる方向にほぼ重なる。このような事実からこの地形改変は耕地造成に伴う最近のものではなく、ＳＢ07ないしＳＡ15･16･17ほかの構築に伴い一連で行われた整地痕跡と判断した。ちなみに、第４図遺跡基本層位（１）に作図すると、改変前の地山はおよそ６°の斜度をもって南に傾斜していたと推定され、また、整地にあたっては削り出しの始まりから南へ４ｍほどの範囲が平坦に造成されている。したがって、少なくとも地山の削り出しの範囲はＳＢ07の梁行部柱穴の位置には達しない。しかし、地山の削り出しを受けていない建物に接した部分も含め北外周には幅８ｍにもわたり広い平坦な空間があったことになる。

ＳＡ16の南端には幅0.3～0.6ｍ、長さ5.8ｍにわたって溝跡が確認された。ＳＡ16の柱穴との関係ではＰ８が溝跡を切っている。埋土に板材の痕跡は残っていないが、板塀の基礎部分と推定された。溝跡の大半はＳＡ16に沿う形でＮ-18°-Ｅの方向にのびるが、南端は西に向かって折れ曲がり、この折れ曲がった位置がＳＡ16･17･18の柱穴列が切れる位置に重なる。この位置はＳＢ07の南梁行から11.5ｍ南側にあたる。

以上の事実からこれら遺構群周辺を復元的に考えると、桁行５間梁行２間の建物跡の両梁側に南北それぞれ11.5ｍ、８ｍの広い空間があり、東側から南側にかけては柵ないし板塀で囲まれていた様子が分かる。ただし、東側の柱列うちＳＡ15はその延長がＳＢ07建物跡東桁と交差し、ＳＡ16もまた北梁に近い部分で建物柱穴にきわめて接近する。これらとＳＢ07との同時存在には無理がある。したがって、地山削り出しによる整地、柵、板塀によって北、東、南を区画し、かつ建物が建っていたのはＳＡ17の存在した時期となる。ＳＡ15･16はその西側空間に他の建物を擁して作られていた可能性があるが、今回の調査ではそれを明らかにすることはできなかった。

３　焼土遺構

ＳＢ07建物跡の東外側で４箇所の焼土遺構を確認した。確認したレベルは第Ⅴ層上位20～30㎝である。４基のうち１基は建物跡東側の柱列のうちＳＡ15北端のＰ６と重なる位置に、２基はＳＡ17と重なる位置にあたり、残り１基はＳＡ17の東外側に位置する。ＳＡ17の東外側にある１基を除いた他の３基はいずれも柱列が無くなった後に作られたものでありそれより新しい。また、焼土遺構内および周辺からは多量の土師器坏等が出土している。

SN139A・Ｂ焼土遺構（第10図、第11図）

ＬＴ・ＭＡ50の地山上30㎝ほど上位のレベルで確認した。東側に径1.04ｍの円形プランの焼土層の広がり（ＳＮ139A）があり、その西側に径1.15×1.43ｍの楕円形プランの焼土の広がり（ＳＮ139B）があり、断面によって前者を後者が切っていることを確認した。断面形はいずれも鍋底形を呈し焼土層の底部は地山面直上に近いレベルに作られている。

遺構内及び周辺からは内外面黒色処理例２点を含む土師器坏（第25図49～53・第27図82～90）、須恵器壺高台部（第27図91）、また、ＳＫ10土坑資料と接合した須恵器壺頸部～胴上部片（第25図41）が出土している。

SN13焼土遺構（第10図、第11図）

ＭＢ50の地山上10～15㎝ほどのレベルで確認した。ＳＡ15北端の柱穴Ｐ６と重なる位置にあたる。1.16×0.92ｍの不整な楕円形を呈し、断面は扁平な鍋底形に近い。焼土層の厚さは最も厚い部分で８㎝ほどであり、底部は地山から４㎝程のレベルに作られている。

遺構内及び周辺からは第26図54・55の土師器坏が出土している。

SN105・106焼土遺構（第10図、第11図）

ＭＡ48の地山上27㎝ほどのレベルで確認した。径1.75×0.95ｍの不整楕円形のプラン（105）と、1.1×0.78ｍの不整形のプラン（106）が南北に連なるように見つかった。焼土の厚さは最大20㎝、断面形は鍋底形を呈し、底面は地山面から12㎝前後のレベルにあたる。

遺構内及び周辺からは第26図63～71、第27図74～81の内面黒色処理５点を含む土師器坏、須恵器坏のほか、土師器甕（第26図72）、土師器鍋（第27図73）が出土している。

SN14焼土遺構（第10図、第11図）

ＭＡ49の地山上37㎝のレベルで確認した。径1.89×1.34ｍの略楕円形を呈していたものと思われるが、南側のほぼ半分が確認調査のトレンチで失われている。焼土は最大32㎝ほどの厚さがある。

以上の焼土遺構の周辺では、確認レベルで第10図に示すように多くの土師器片が出土している。そのほとんどは第28図以下に示す坏類であるが、建物跡の東側に一括廃棄されたような状況であり、これら焼土遺構もこうした坏類の廃棄に絡んで執り行われた儀礼痕跡を示すものと考えられる。

４　土坑

ＳＢ07建物跡およびその区画施設の北東側、区画の内側に１基外側に４基の土坑を確認した。形状から墓坑と推測されるものも含まれるが、遺体痕跡、副葬品などは確認されず、その性格は不明である。また、ＬＳ49の地山面ではこれらよりもやや大形の土坑１基を確認した。土坑内に須恵器大甕が打ち割られて埋納されたもので、県内に類例はあるものの、その性格はやはり不明である。

SK01土坑（第12図）

ＬＳ51の地山面で確認した。1.08×0.93ｍの楕円形プランである。断面形は浅い鍋底形を呈する。埋土内からは小礫と土師器細片が出土した。底面には幾分焼土化した範囲が認められる。

SK02土坑（第12図）

ＬＳ52の地山面で確認した。2.31×1.31ｍのほぼ方形のプランであるが、西側に張り出し部分があり、この張り出し部分を挟んで土坑内に２箇所の浅いピットがある。断面形は浅い鍋底形を呈する。

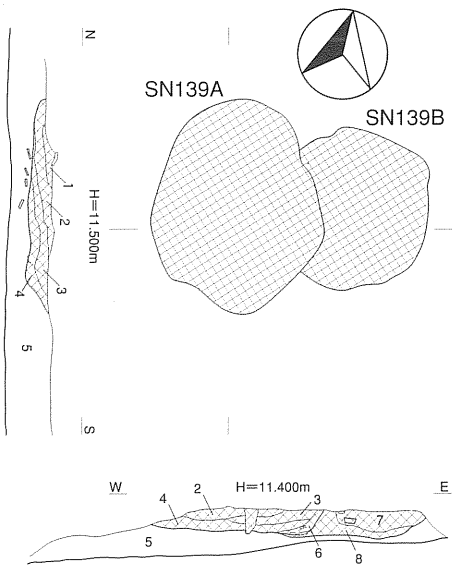
SK03土坑（第12図）

ＬＳ53・54の地山面で確認した。2.11×1.46ｍの卵形に近いプランを呈するが、西側に径0.8ｍ程の攪乱の痕跡がある。断面形は浅い鍋底形を呈する。埋土内から小礫と土師器片が出土した。

SK05土坑（第12図）

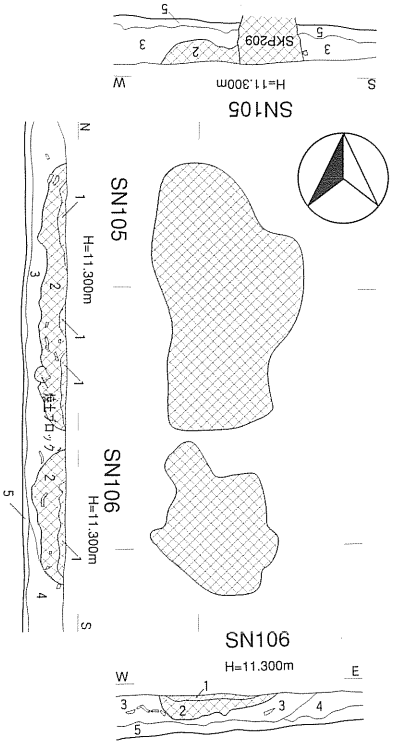
ＬＴ49・50の地山面で確認した。1.53×1.2ｍの隅丸方形のプランを呈する。断面は鍋底形を呈す

第10図　焼土遺構および周辺の遺物出土状態

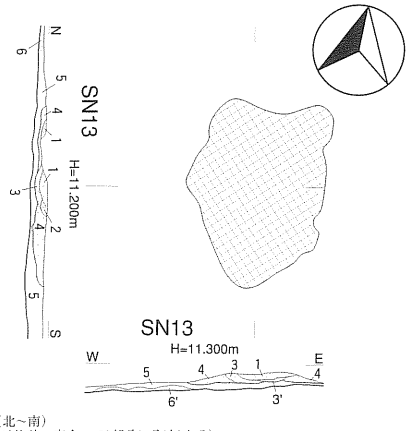


SN139A
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　孔隙少なく硬く締まる
　　径3～7mmの焼土粒・2～3mmの木炭粒を若干量含む
2、7.5YR4／4　褐色土　粘質　孔隙少なく硬く締まる
　　黄褐色粘土・赤褐色焼土が径5～30mmのブロック状に入る土
　　径3～5mmの木炭片も少量含まれる
3、10YR2／3　黒褐色土　粘質　孔隙少なく硬く締まる
　　径10～20mmの黄褐色粘土塊・径5～10mmの木炭片を少量含む
4、10YR6／6　明黄褐色土　粘質　硬く締まる
　　暗褐色土粒少量・径1～2mmの木炭粒ごく少量含む
　　(底面に貼られたものか?)
5、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　地山土粒・焼土粒・木炭粒ごく少量含まれる
　　(縄文晩期末の包含層)
6、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　　2～3mmの地山土粒・木炭粒がごく僅かに含まれる

SN139B
7、10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径5～10mmの木炭粒がごく僅かに含まれる
8、7.5YR4／6　褐色土　粘質　締まり比較的軟性
　　径1mm程の砂粒が含まれる焼土層

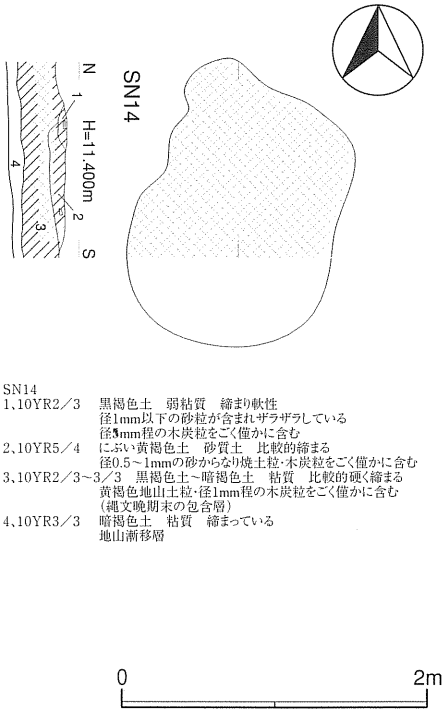


SN105、106(焼土層)
1、7.5YR4／3　褐色土　砂質土　硬く締まる
　　黄褐色の砂が焼けた赤色土となる部分もある
　　木炭粒をごく少量含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
　　径5～10mmの木炭粒・径2～5mmの焼土粒が少量含まれる
3、10YR2／3～3／3　黒褐色土～暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　木炭粒をごく僅かに含む
4、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径2～3mmの木炭粒をごく少量含む
5、10YR3／4～4／4　暗褐色土～褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山漸移層



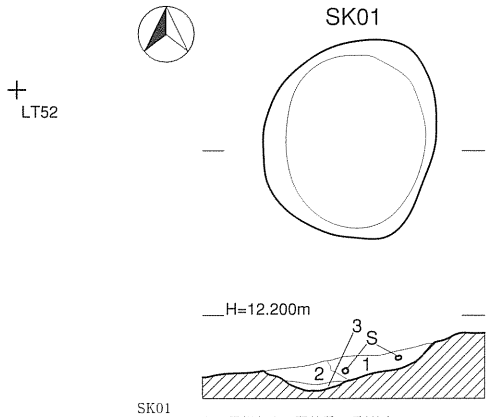
SN13(北～南)
　(1層は比熱の度合いで3部分に分けられる)
1－上、2.5YR7／2～6／2　明赤灰～灰赤色土　砂質土　硬く締まる
　　径10mm程度の暗褐色土(10YR3／3)を斑状に含む
　　最も強く比熱変化している
　中、5YR4／6　赤褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～5mm程度の焼土粒(7.5YR6／6～6／8橙)を斑状に含む
　下、5YR4／6　赤褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～10mm程度の焼土粒・塊(5YR5／6～5／8明赤褐)を斑状に多く含む
　　径50mm程の焼土塊を1点含む
2、7.5YR4／3　褐色土　砂質土　硬く締まる
　　径1～5mm程度の焼土粒・塊(5YR5／6～7.5YR6／6)を僅かに含む
　　粘質の強い暗褐色土(10YR3／3)をマーブル状に多く含む
3、7.5YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～2mm程度の焼土塊(5YR5／6)をごく僅かに含む
　　径1～3mm程度の地山土粒(10YR7／3～6／3)を斑状に少量含む
4、10YR3／4　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
　　径1～3mm程度の焼土粒・木炭粒を若干量含む
　　2・3層と接している部分が被熱のためか1部白色化している
5、10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～5mm程度の焼土粒・木炭粒を斑状に若干量含む
6、10YR4／4～4／6　褐色土　弱粘質　硬く締まる
　　径1mm程度の焼土粒・木炭粒をごく僅かに含む　地山漸移層

SN13(西～東)
3'、10YR4／4　褐色土　弱粘質　硬く締まる
　　径1mm程の焼土粒をごく僅かに含む　3層の土がより強く被熱変化した土
6'、10YR3／4～4／4　暗褐～褐色土　弱粘質　硬く締まる
　　径1～2mm程度の焼土粒・木炭粒をごく僅かに含む
　　黒褐色土(10YR2／2)をブロック状に多く含む

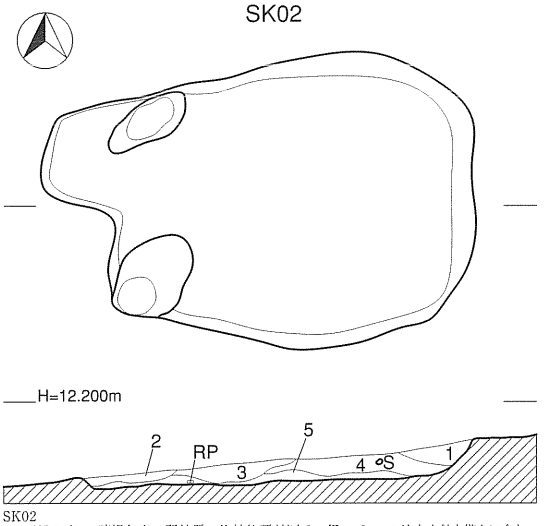


SN14
1、10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　締まり軟性
　　径1mm以下の砂粒が含まれザラザラしている
　　径5mm程の木炭粒をごく僅かに含む
2、10YR5／4　にぶい黄褐色土　砂質土　比較的締まる
　　径0.5～1mmの砂からなり焼土粒・木炭粒をごく僅かに含む
3、10YR2／3～3／3　黒褐色土～暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　黄褐色地山土粒・径1mm程の木炭粒をごく僅かに含む
　　(縄文晩期末の包含層)
4、10YR3／3　暗褐色土　粘質　締まっている
　　地山漸移層

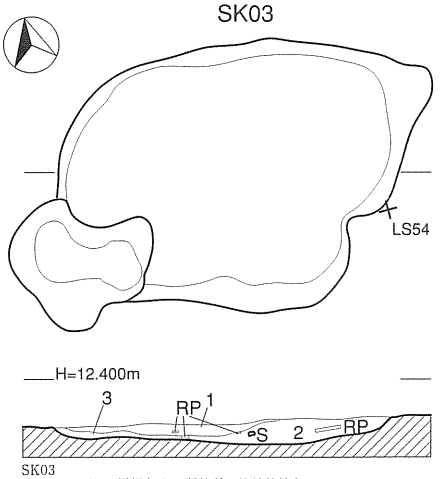
第11図　焼土遺構(SN13・14・105・106・139)



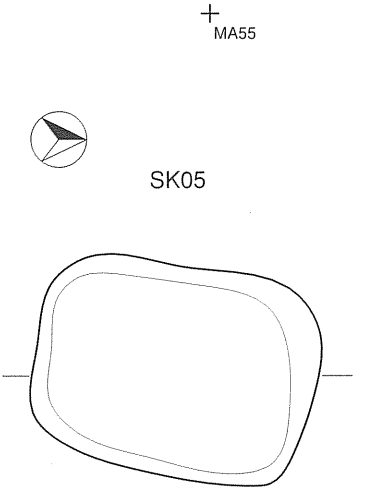
SK01
1、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
径1～2及び5～10mmの地山土を斑状に含む
僅かの木炭粒・焼土粒を含む
2、10YR4／3～3／3　にぶい黄褐色～暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を少量と僅かの焼土粒を含む
3、10YR4／3　にぶい黄褐色土　弱粘質　硬く締まる
径2～5mmの地山土粒・塊を少量と木炭粒をごく僅かに含む

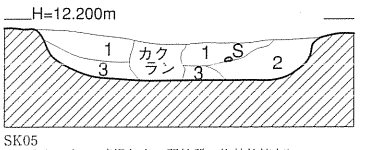


SK02
1、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる　径1～3mmの地山土粒を僅かに含む
2、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる　地山土粒・木炭粒をごく僅かに含む
3、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる　地山土粒塊・木炭粒・焼土粒を含む
4、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる
径1～3mmの地山土粒と径1～2、5～10mmの木炭粒を斑状に含む　土器片　1点混入
5、10YR6／6　明黄褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる
多量の黒褐色土中にごく僅かの焼土粒・木炭粒を含む　土器片1点混入（地山漸移層）

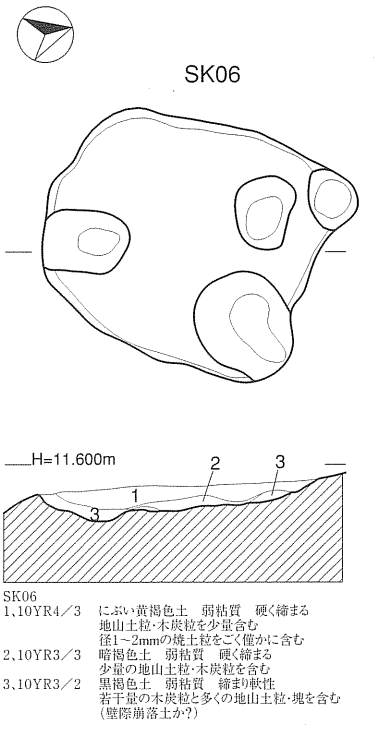


SK03
1、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　比較的締まる
径1～5mm程度の焼土粒・木炭粒を僅かに含む
土器片1点混入
2、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる
ごく僅かの地山土粒と多量の木炭粒を含む
3、10YR4／4　褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山漸移層





SK05
1、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　比較的締まる
径5～20mm程度の地山土粒・木炭粒を少量含む
径1～2mm程度の焼土粒をごく僅かに含む
2、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
3、10YR4／3　にぶい黄褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む



SK06
1、10YR4／3　にぶい黄褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒・木炭粒を少量含む
径1～2mmの焼土粒をごく僅かに含む
2、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
少量の地山土粒・木炭粒を含む
3、10YR3／2　黒褐色土　弱粘質　締まり軟性
若干量の木炭粒と多くの地山土粒・塊を含む
（壁際崩落土か?）

0　2m

第12図　土坑（SK01・02・03・05・06）

るが、中央部で25㎝ほどの深さがあり他の土坑に比べやや深い。土坑内からの出土遺物はない。

SK06土坑（第12図）

ＭＡ51・52の地山面で確認した。1.48×1.34ｍの方形に近いプランを呈する。断面は浅い鍋底形を呈する。土坑内には４箇所に浅いピットがある。土坑内からの出土遺物はない。

SK10土坑（第13図）

ＬＳ49・50の地山面上で確認した。2.18×1.92ｍの略円形プランを呈する。断面形は鍋底形を呈し、中央部は23㎝程の深さがある。底面は土坑の位置する斜面の傾斜方向にしたがって、北東から南西に向かって緩く傾斜している。

須恵器大甕（第25図41）は土坑の西側に寄った位置に埋納されていた。大甕の体下半部を底部をかけて大きく２分割し、その南側には別個体の口頸部が逆位に置かれている。須恵器大甕のほかに拳大の礫２、鉄滓１も大甕とともに出土した。

５　井戸跡

ＳＢ07建物跡の南東側、柱列ＳＡ17の外側に１基、また、調査区南端に近い部分１基の２基の井戸跡を確認した。いずれの位置も東側の尾根状地形から下りた斜面が緩く傾斜を変える地点にあり、地山面を露出しただけで含水性の土壌から水がしみ出すような箇所に作られている。

SE09井戸跡（第14図～第18図）

ＭＥ47の地山面で径2.43×2.22ｍの円形のプランとして確認した。断面形は２段の構造であり、確認面から1.35ｍほどは開口部と同じく円形に掘りくぼめ、さらにそこからは約0.9㎝四方に方形に0.53ｍほど掘り下げている。井戸枠材は杉を用い（第５章第２節）、２段目の掘り込み口から上に横板を２段にわたし、さらにその外側に縦板を打ち込んで補強している。枠材の設置にあたっては２段目の掘り込み口の南北辺に両端片側のみに仕口を設けた材を用い（第15図３・４）、それに組み合わせるように両端両側に仕口を設けた材（第15図１・２）を架ける。さらにその上に内外２重に両側両端に仕口を設けた材（第16図５～８、第17図９～12）を組ませ、その外側に縦板（第17図13～15、第18図16～19）を打ち込んでいる。縦板の下部には本来必要のない仕口が残されている。したがって、これらの材も本来横板として用いられていたものであり、ＳＥ09が作り替えられたかあるいは他の井戸からの転用されたものと推測される。なお、本井戸に用いられた横板のうち上段の材はかなり腐朽が進み仕口部分が失われているものが多い。

遺構の埋土としては、１段目の掘り込みと枠材との間30～40㎝の間は地山土塊を多く混じえた土（７層）が裏込めされ、井戸枠材から下位の水分を多く含んだ土（８層）を水洗篩別した結果、多量の種実を得ることができた（第５章第１節）。

井戸内および周辺から第24図30～32の須恵器甕口縁部片や33の大甕胴上部片、34の土師器坏が出土している。このうち、33は井戸跡の西１ｍ地点から出土した甕破片であるが、表面を平行叩目で覆い内面には青海波文状の当具痕を残す資料である。表面には径65㎜程の円形文がその外側に弧状の帯文を伴って３個並列する。被熱の程度差によって生じた痕跡と考えられ、円形文の径はほぼ本遺跡出土の坏の底部径に近い。坏類の焼成時に台として使用されたものと判断される。

SE12井戸跡（第19図）

ＭＡ43の地山面で一辺1.5ｍほどの方形プランとして確認した。甚しい湧水のため基底まで調査することはできなかったが、断面に現れた埋土の状態が深さ１ｍ程までレンズ状の堆積状況を示すため、枠材等を用いない素掘りの井戸と推定される。確認面に近い埋土上層から第25図46の土師器坏が出土しているほか、43、44の須恵器甕口縁部片、45の須恵器壺頸部片が埋土内から出土している。

6　柱穴ないし小土坑（第20図～第23図）

調査区のうち54ラインから南側の地山面では、ＳＢ07建物跡、ＳＡ15・16・17柱列のほか、柱穴ないし小土坑と判断される遺構が19基確認された。それらの中にはＳＫＰ18、ＳＫＰ91、ＳＫＰ137、ＳＫＰ115のように断面によって柱痕跡の確認された例もあるが、相互の位置関係や組み合わせを確認することはできなかった。

第２節　遺構外出土遺物

1　平安時代の遺物（第28図～第33図）

ＳＢ07建物跡、ＳＡ15・16・17柱列周囲からは第28図～第33図の土師器皿・坏・耳皿・小壺・甕・支脚、須恵器坏・壺・甕、砥石が出土している。

土師器皿・坏・耳皿は内外面黒色処理を施したもの（152～157）、内面のみ黒色処理を施したもの（139～151）、無処理のもの（92～138）がある。皿には無高台と高台付のものがあるが、いずれも口縁端が外反する。高台部は比較的高いもの（94）と低いもの（153）とがあるが、いずれも下端が外に広がった台形のプロポーションを呈する。なお、皿の中には154のように口縁が直立屈曲する特殊な器形が含まれている。坏のうち内外面無処理のものは回転糸切り底部無調整・無高台であるが、内面黒色処理・内外面黒色処理のものは底部調整が施され（140～151・155～157）、また、高台付も（139・153）含まれる。耳皿（152）は内外面黒色処理を施した無高台のものである。底部底面をのぞいて丹念にミガキ調整が施されている。小壺（158・159）はロクロ水挽成形のものである。甕は回転台上での調整を施したもの（161～166・168）と、ナデ調整を施したもの（160・167）がある。口縁形状は頸部からゆるやかに外反するもの（160）と頸部で屈曲し口縁端が直立するもの（161～164）がある。支脚（169）は粘土帯を４段に積み重ねて成形し、下端部にＶ字の切り込みを入れている。上部には指頭による調整痕が残されている。

須恵器には坏（170～173）と壺（174・193～197）、甕（175～192）がある。坏の器形は基本的に土師器と変わりないが、171は口径に対し器高が低くまた底径が大きいという特徴がある。甕は口縁端が外ソゲになって下端が張り出すもの（180～182・189・190）や、口縁端が水平に近くなるもの（178・179・186・192）、斜めになるもの（175・183・185・187）、丸あるいは尖るもの（176・177）、屈曲するもの（188・191）がある。長頸壺の頸部から胴部の破片（193）があるが、胴部は球胴となろう。壺の底部には細い粘土紐をまわし低い高台を作り出したもの（196）のほか、無高台（197）、厚い粘土帯による高い高台部（195）の破片がある。

砥石（198）は凝灰岩質の礫を用い、二面に砥面が作られている。

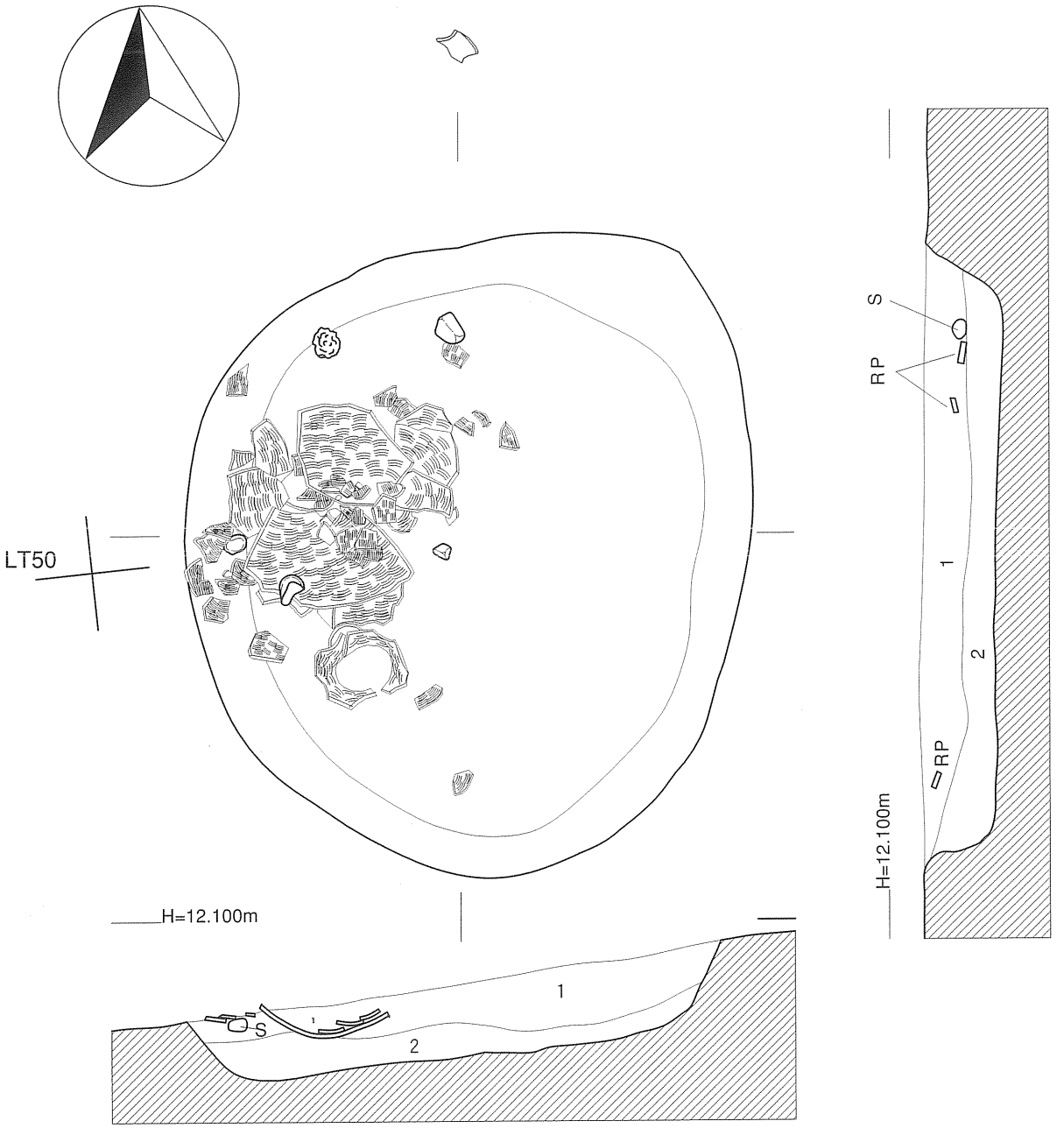
２　縄文時代・弥生時代の遺物（第34図～第37図）

調査区内からは平安時代の遺物のほかに縄文時代および弥生時代の土器・石器が出土している。

199～204は同一個体である。口縁から胴部上半にかけて緩く湾曲しながら下りる深鉢形土器である。波状になる口縁部には波頂部に渦巻き文を施し、この渦巻き文から口縁端に沈線が巡る。胴部には３条の平行沈線が水平に巡り、地文にはＲＬ縄文を縦位回転施文している。大木８ｂ式に比定される。205は縄文施文の深鉢形土器胴部片である。原体は０段多条のRLを用い横位回転施文している。縄文時代早期末あるいは前期初頭頃のものか？

206～207は同一個体である。台付浅鉢となろう。口縁端には斜位の刻目を施し、口縁下に３条１単位の沈線で変形工字文を描く。内面にも口縁下に沿って３条の沈線を巡らしている。208～210も同様の土器である。210の変形工字文は沈線を反転させて描く方法で構成されている。211の浅鉢もおそらくは台付となるものであるが、４条１単位の沈線で変形工字文を描く。体部下半には細密なRL縄文を横位ないし左上－右下の方向で斜位回転施文している。212は球胴になる壺形土器である。RL縄文が施され、器面には煤状の炭化物が膠着している。213はRL縄文を左上－右下方向で斜位回転施文した深鉢形土器である。214のは全面にRL縄文を施し口縁端と台端に２条の沈線を巡らした小形の台付浅鉢形土器である。以上は弥生時代前期の初頭に位置づけられる。

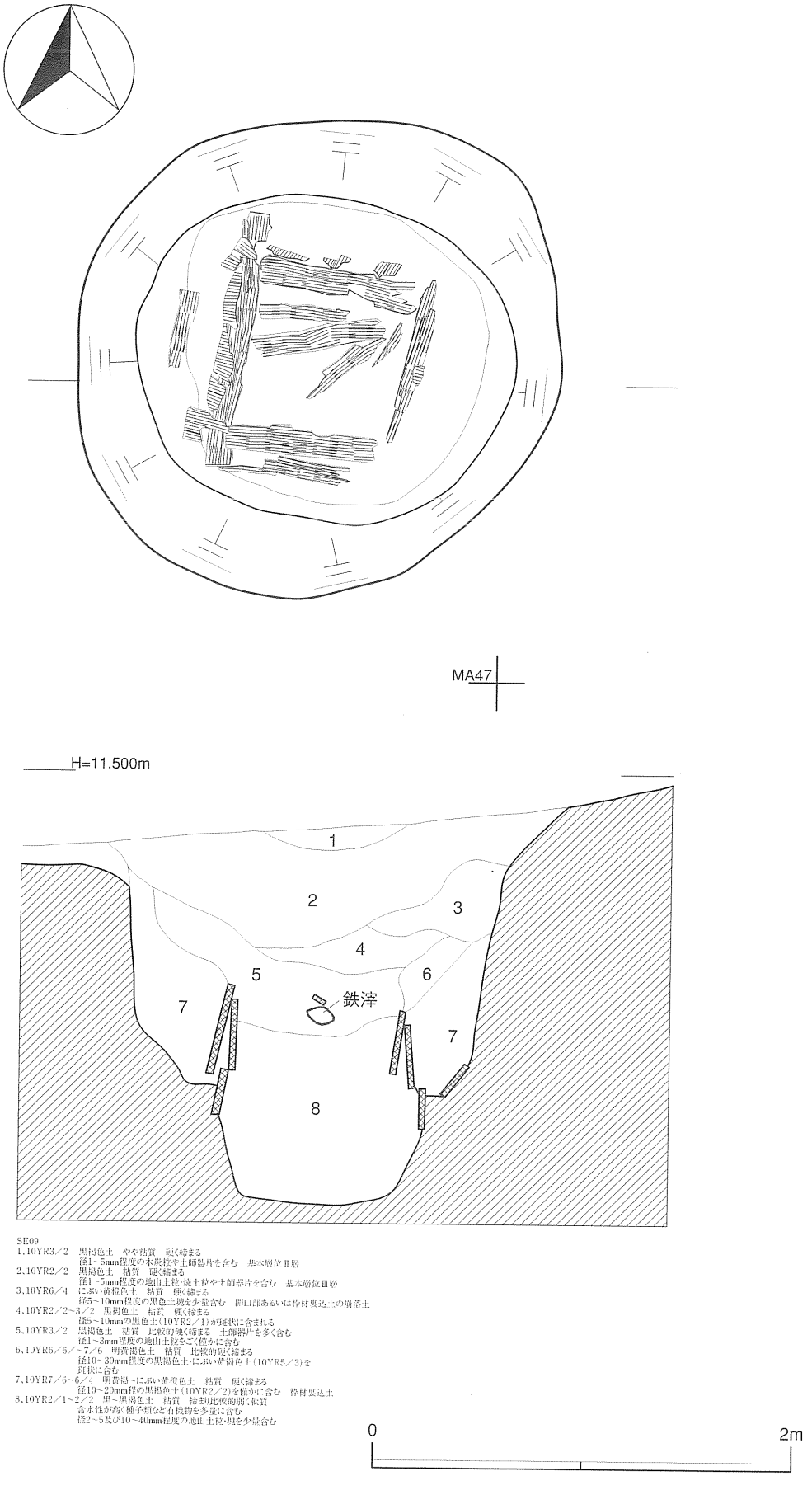
石器としては石鏃（215～216）、石匙（217～222）、箆状石器（223～224）、掻削器（225～228・230～231・233～235・237～238）、石槍（229）、調整ある剥片（232・236・239～240）、石核（241～242）、磨製石斧（243～245）がある。石鏃は２点とも両面を丹念な押圧剥離で仕上げた無茎のものである。石匙は５点のうち４点が縦長剥片を素材とした縦型であり、片面加工のものである。218～220が内反りの刃部を作るタイプのものである。222は肉厚の横長剥片を素材とした縦型石匙である。素材の主要剥離面側にも荒い成形の剥離が施されている。箆状石器は223が縦長剥片、224が横長剥片を素材としたものである。掻削器は素材に縦長剥片を用いるもの（225～228・230～231）、拇指状となるもの（223～234）、円盤状となるもの（235）、縦長剥片両端に刃部を付けたもの（237）、剥片の一側縁に刃部を設け一端を折断したもの（238）がある。調整ある剥片は素材の一側縁に剥離列を施したもの（232・236）のほか、二側縁以上に調整剥離を施して内湾刃を作り出したもの（239～240）がある。石核２点はいずれも小形盤状のものであるが、242は調整剥離を施して楔状に仕上げている。石斧は折損した２点を含めいずれも乳棒状の石斧である。243は側縁に柄への装着結縛のための抉りが設けられている。243・244の刃部は再生ための剥離が加えられている。245は使用のため刃部が潰れている。



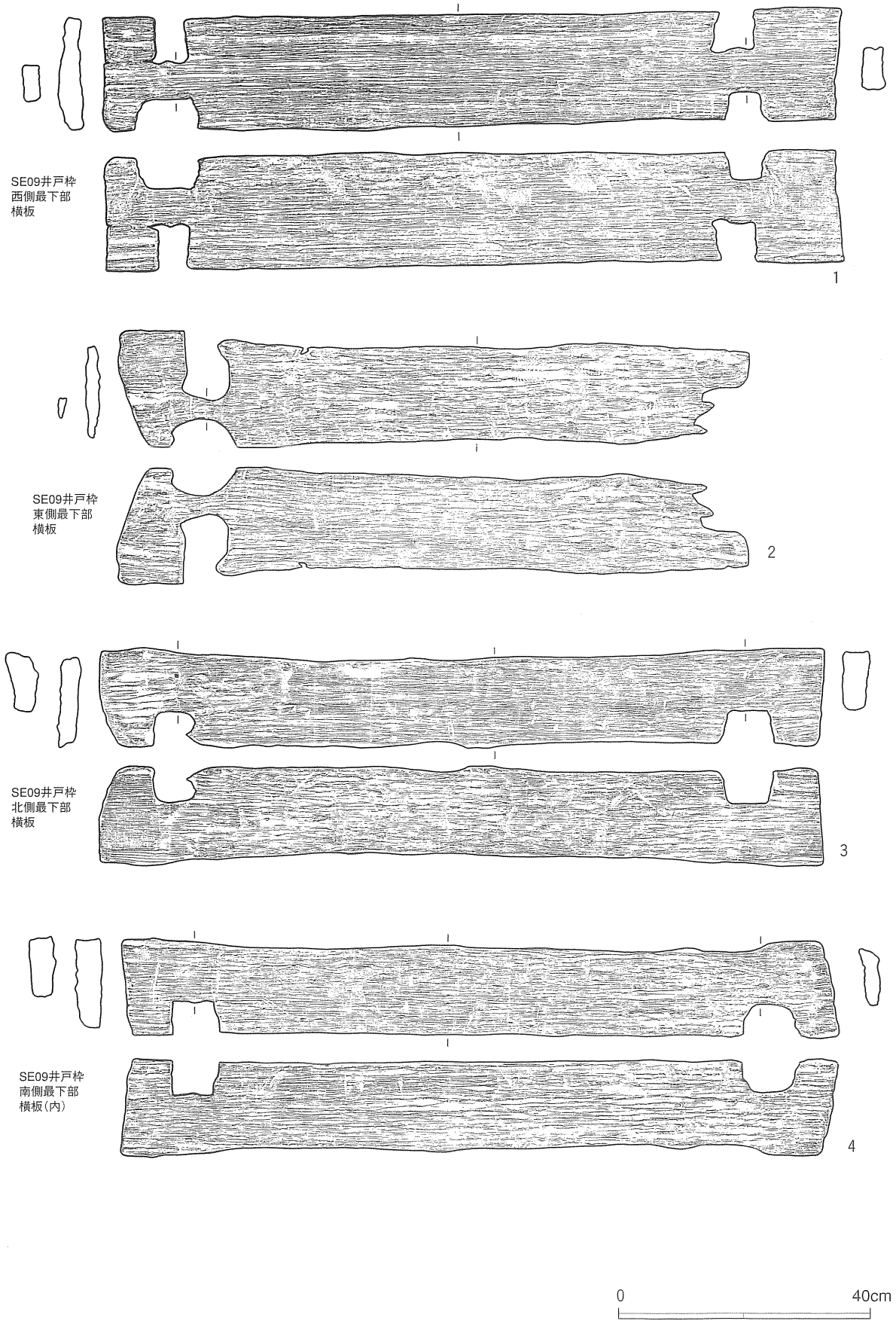
SK10
1、10YR2／2　黒褐色土　弱粘質　比較的締まる
　　若干の地山土粒･焼土粒を含む
　　須恵器の大甕片はこの層中に埋め置かれている
2、10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
　　地山土に暗褐色土が含まれる
　　水の影響のため硬く締まる　遺物は含まれていない

0　1m

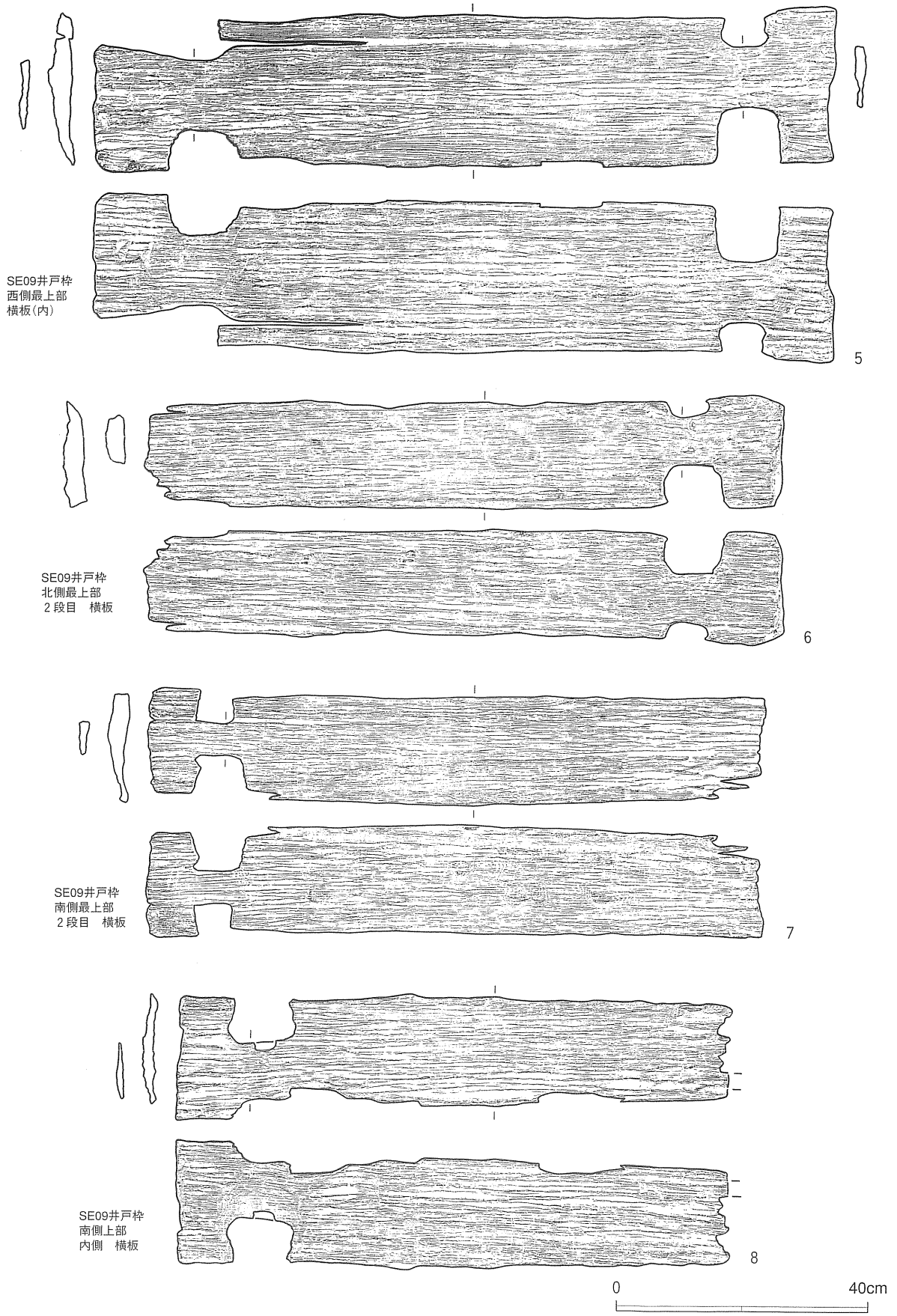
第13図　土坑（SK10）



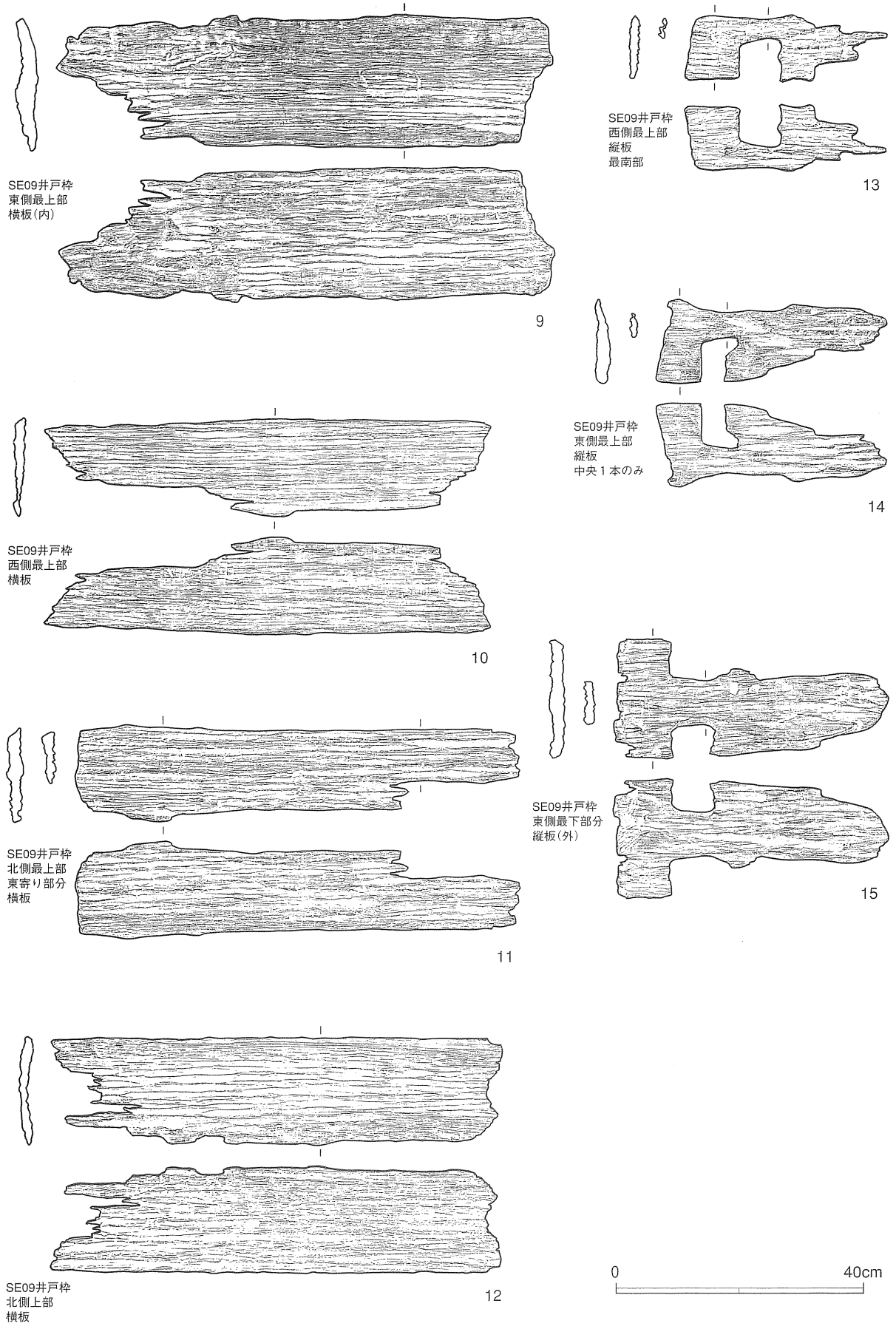
第14図　井戸跡(SE09)



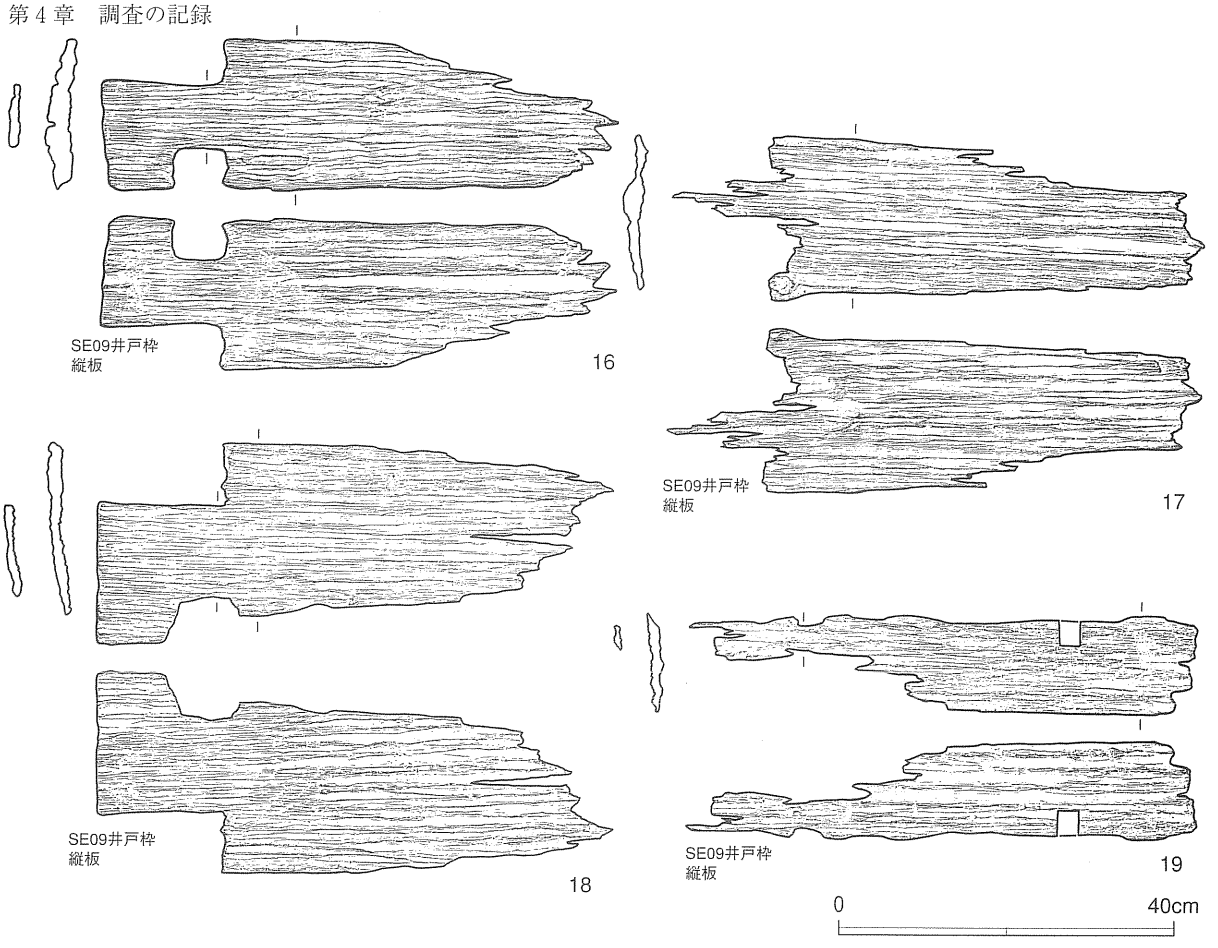
第15図　井戸跡（SE09）内出土枠材（１）



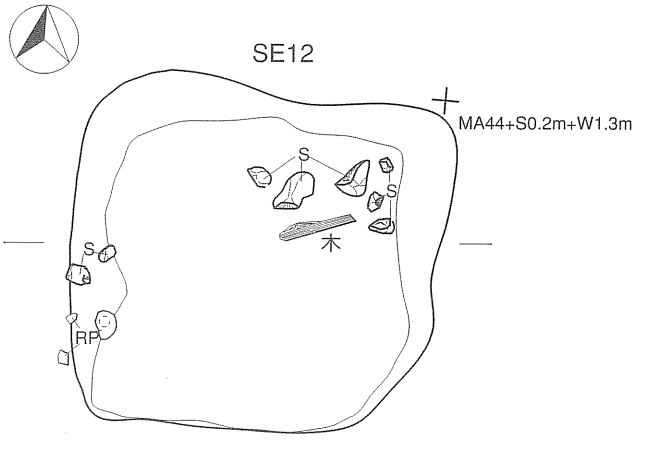
第16図　井戸跡（SE09）内出土枠材（２）



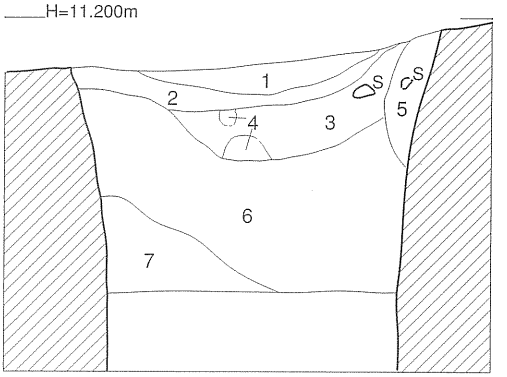
第17図　井戸跡（SE09）内出土枠材（３）



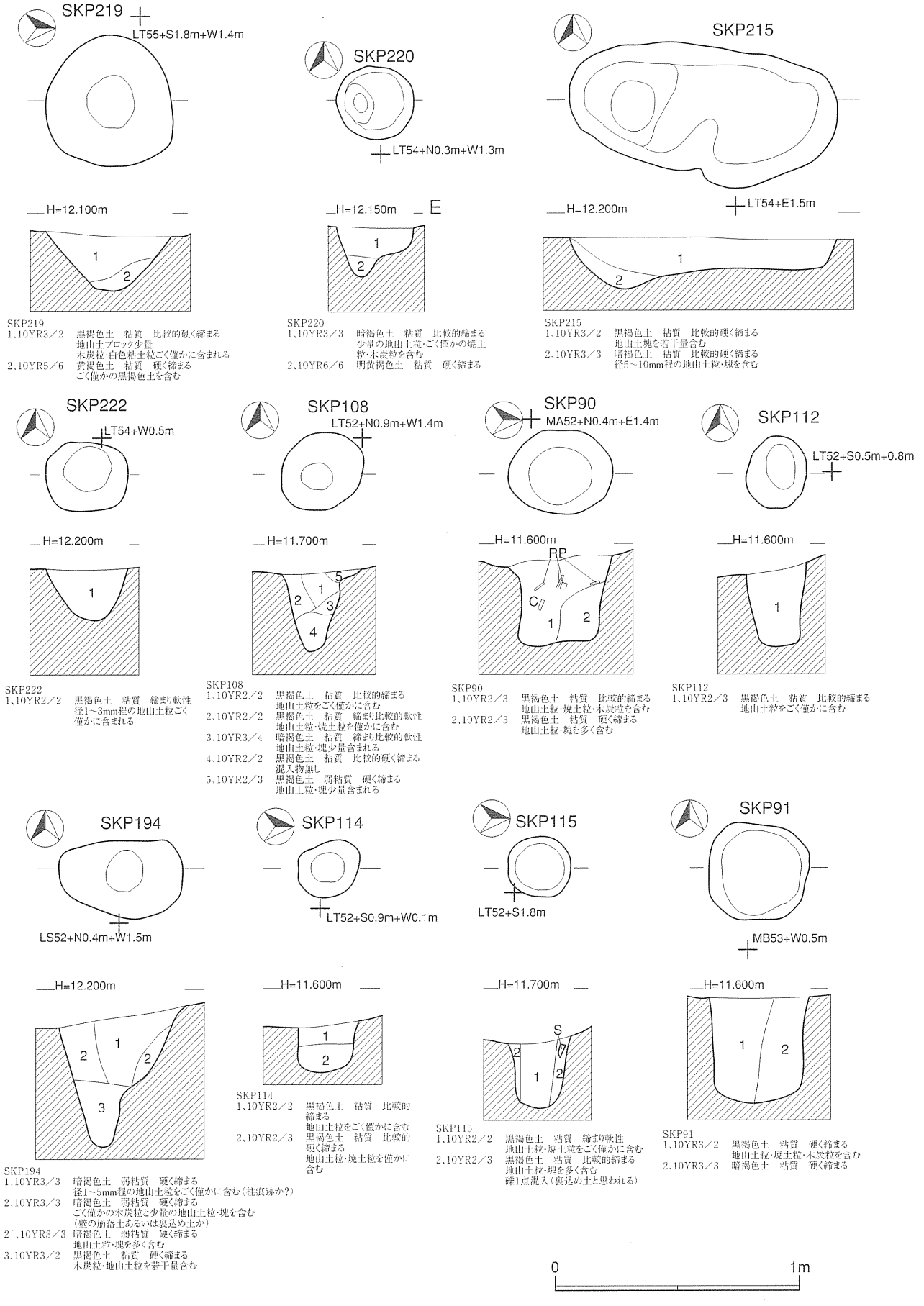
第18図　井戸跡（SE09）内出土枠材（４）



SE12
1、10YR3／1　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～5mm程度の木炭粒・白色粘土粒（10YR7／2にぶい黄褐）を僅かに含む
2、10YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～5mm程度の地山土粒・焼土粒・木炭粒を僅かの含む
3、10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　　径1～5mm程度の地山土粒・焼土粒・木炭粒を少量含む
4、10YR6／4　にぶい黄橙色土　粘質　硬く締まる
　　径5～10mmの黒色土（10YR2／1）が斑状に含まれる
4'、10YR7／6～6／4　明黄褐～にぶい黄橙色土　粘質　硬く締まる
　　径10～20mm程の黒褐色土（10YR2／2）を僅かに含む
5、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径1～3mm程度の地山土粒をごく僅かに含む
6、10YR6／6／～7／6　明黄褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　　径10～30mm程度の黒褐色土・木炭粒・
　　にぶい黄褐色土（10YR5／3）を斑状に含む
7、10YR2／1～2／2　黒～黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
　　径2～5及び10～40mm程度の地山土粒・塊を少量含む



第19図　井戸跡（SE12）　0　1m



SKP219
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土ブロック少量
木炭粒・白色粘土粒ごく僅かに含まれる
2、10YR5／6　黄褐色土　粘質　硬く締まる
ごく僅かの黒褐色土を含む

SKP220
1、10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
少量の地山土粒・ごく僅かの焼土粒・木炭粒を含む
2、10YR6／6　明黄褐色土　粘質　硬く締まる

SKP215
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土塊を若干量含む
2、10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径5～10mm程の地山土粒・塊を含む

SKP222
1、10YR2／2　黒褐色土　粘質　締まり軟性
径1～3mm程の地山土粒ごく僅かに含まれる

SKP108
1、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒をごく僅かに含む
2、10YR2／2　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
地山土粒・焼土粒を僅かに含む
3、10YR3／4　暗褐色土　粘質　締まり比較的軟性
地山土粒・塊少量含まれる
4、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
混入物無し
5、10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒・塊少量含まれる

SKP90
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む

SKP112
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒をごく僅かに含む

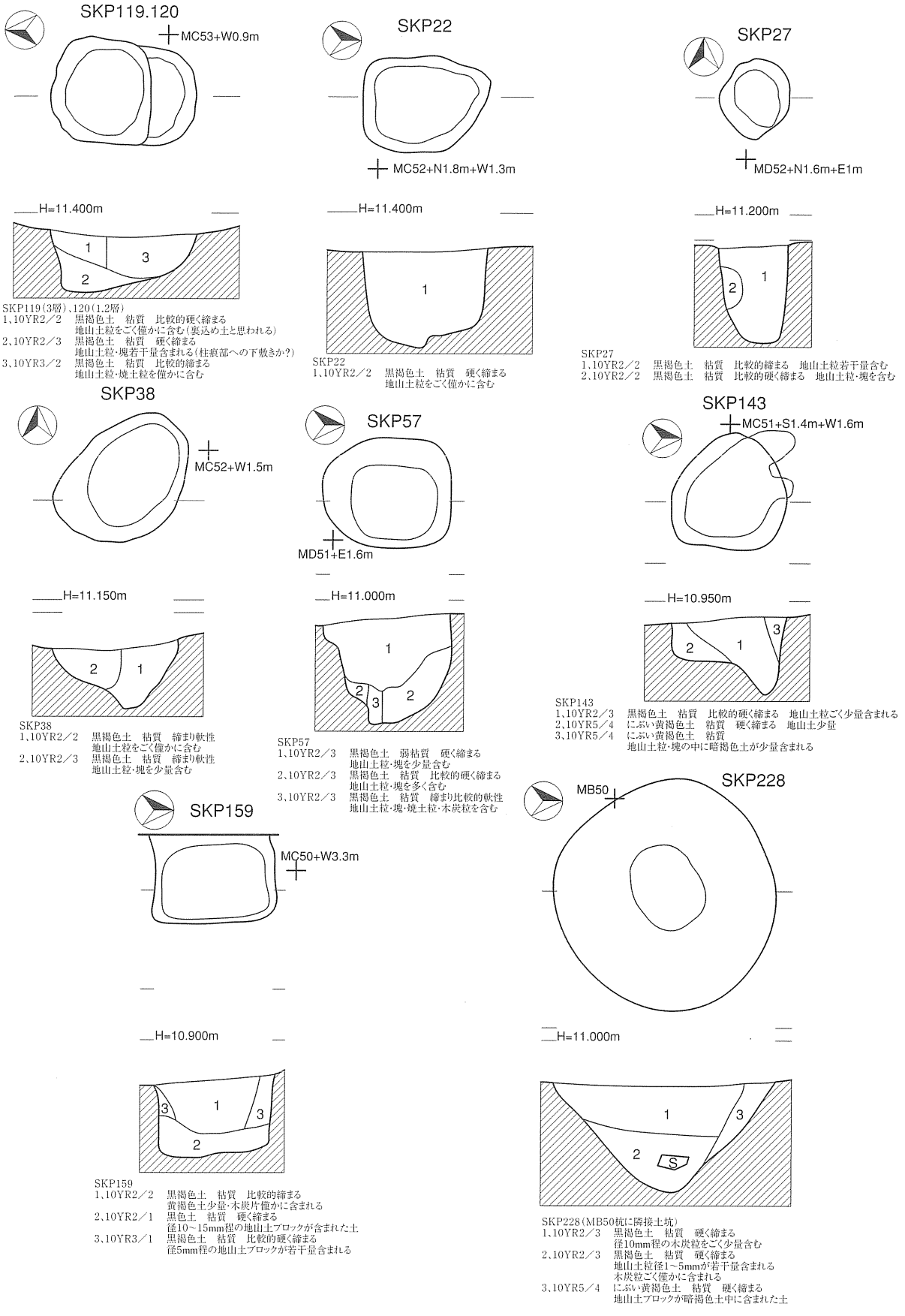
SKP194
1、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
径1～5mm程の地山土粒をごく僅かに含む（柱痕跡か？）
2、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
ごく僅かの木炭粒と少量の地山土粒・塊を含む
（壁の崩落土あるいは裏込め土か）
2′、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む
3、10YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
木炭粒・地山土粒を若干量含む

SKP114
1、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒をごく僅かに含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・焼土粒を僅かに含む

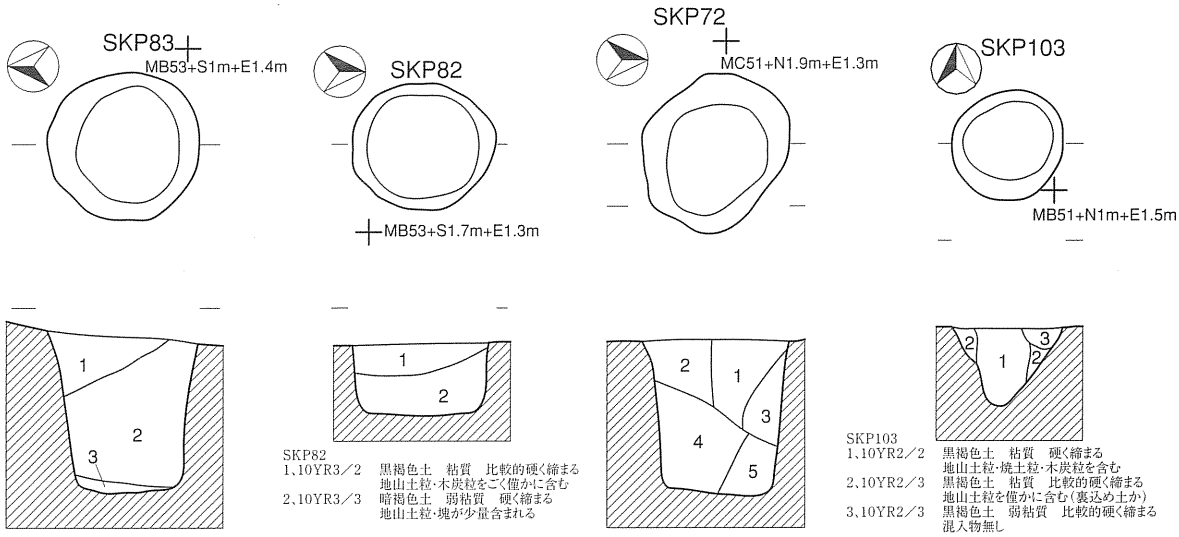
SKP115
1、10YR2／2　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒・焼土粒をごく僅かに含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・塊を多く含む
礫1点混入（裏込め土と思われる）

SKP91
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
2、10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる

第20図　柱穴（１）


SKP119.120
MC53+W0.9m
H=11.400m
1
2
3
SKP119(3層),120(1,2層)
1,10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む(裏込め土と思われる)
2,10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・塊若干量含まれる(柱痕部への下敷きか?)
3,10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒・焼土粒を僅かに含む
SKP22
MC52+N1.8m+W1.3m
H=11.400m
1
SKP22
1,10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む
SKP27
MD52+N1.6m+E1m
H=11.200m
1
2
SKP27
1,10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる　地山土粒若干量含む
2,10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる　地山土粒・塊を含む
SKP38
MC52+W1.5m
H=11.150m
1
2
SKP38
1,10YR2／2　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒をごく僅かに含む
2,10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり軟性
地山土粒・塊を少量含む
SKP57
MD51+E1.6m
H=11.000m
1
2
3
2
SKP57
1,10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒・塊を少量含む
2,10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を多く含む
3,10YR2／3　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性
地山土粒・塊・焼土粒・木炭粒を含む
SKP143
MC51+S1.4m+W1.6m
H=10.950m
1
2
3
SKP143
1,10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる　地山土粒ごく少量含まれる
2,10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる　地山土少量
3,10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質
地山土粒・塊の中に暗褐色土が少量含まれる
SKP159
MC50+W3.3m
H=10.900m
1
2
3
3
SKP159
1,10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
黄褐色土少量・木炭片僅かに含まれる
2,10YR2／1　黒色土　粘質　硬く締まる
径10～15mm程の地山土ブロックが含まれた土
3,10YR3／1　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径5mm程の地山土ブロックが若干量含まれる
SKP228
MB50
H=11.000m
1
2
3
S
SKP228(MB50杭に隣接土坑)
1,10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
径10mm程の木炭粒をごく少量含む
2,10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒径1～5mmが若干量含まれる
木炭粒ごく僅かに含まれる
3,10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質　硬く締まる
地山土ブロックが暗褐色土中に含まれた土
※レベル表記のないものは11.100ｍを基準とする。
0
1m

第21図　柱穴（２）

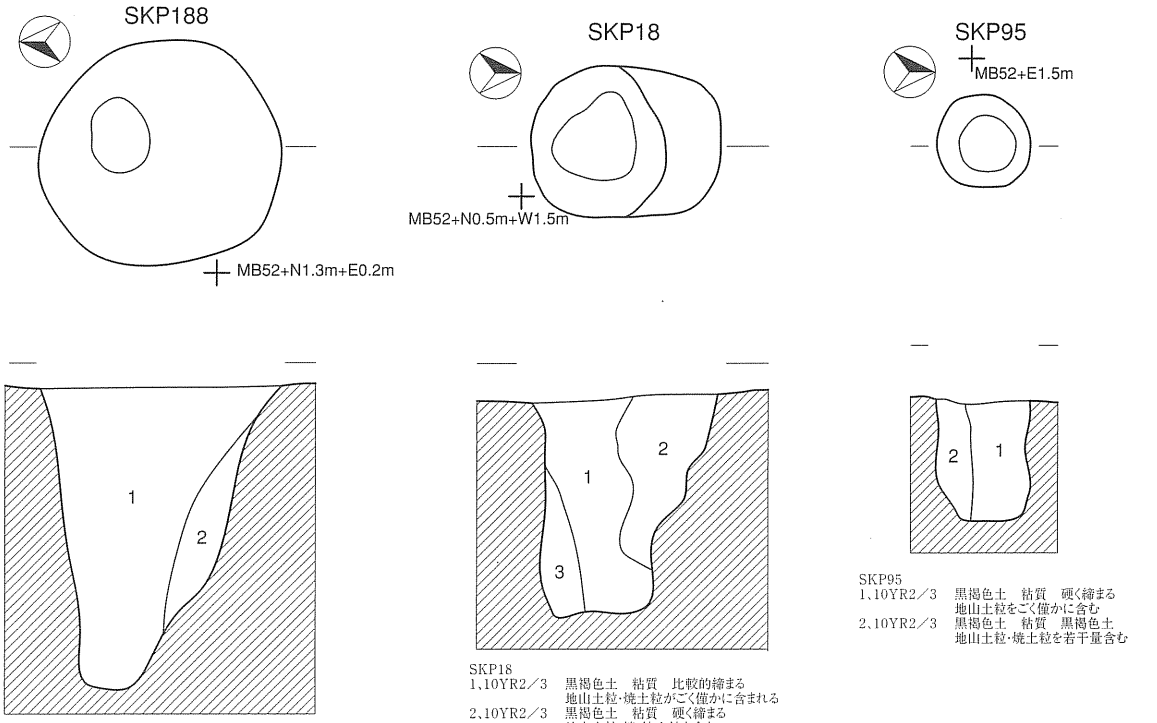


SKP83
1、10YR5／4　にぶい黄褐色土　粘質
　地山土塊からなり僅かに暗褐色土を含む
2、10YR5／4～3／3　黄褐色土～にぶい黄褐色土
　地山土塊からなり暗褐色土を多く含む
3、10YR5／4　にぶい黄褐色～灰白色土
　柱痕によってグライ化した粘土層

SKP82
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　地山土粒・木炭粒をごく僅かに含む
2、10YR3／3　暗褐色土　弱粘質　硬く締まる
　地山土粒・塊が少量含まれる

SKP72（1,2,3層は4,5層を埋め戻した後に柱を立てた跡だと思われる）
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　木炭粒・白色粘土粒・地山土粒を若干量含む（柱痕跡）
2、7.5YR3／2　黒褐色土　弱粘質　比較的締まる
　地山土粒・塊を多量に含んでいる（裏込め土か?）
3、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　地山土粒・塊・白色土粒が少量含まれる（壁崩落土か?）
4、10YR7／6　明黄褐色土　粘質　硬く締まる
　白色粘土粒が斑状に少量と黒褐色土が僅かに含まれる
　（人為的埋め戻しと思われる）
5、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　白色粘土粒・地山土粒が若干量含まれる（壁崩落土か?）

SKP103
1、10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　地山土粒を僅かに含む（裏込め土か）
3、10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　比較的硬く締まる
　混入物無し



SKP188
1、10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
　地山土粒を少量と焼土粒・木炭粒を僅かに含む
2、10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的締まる
　地山土粒・塊を多く含む

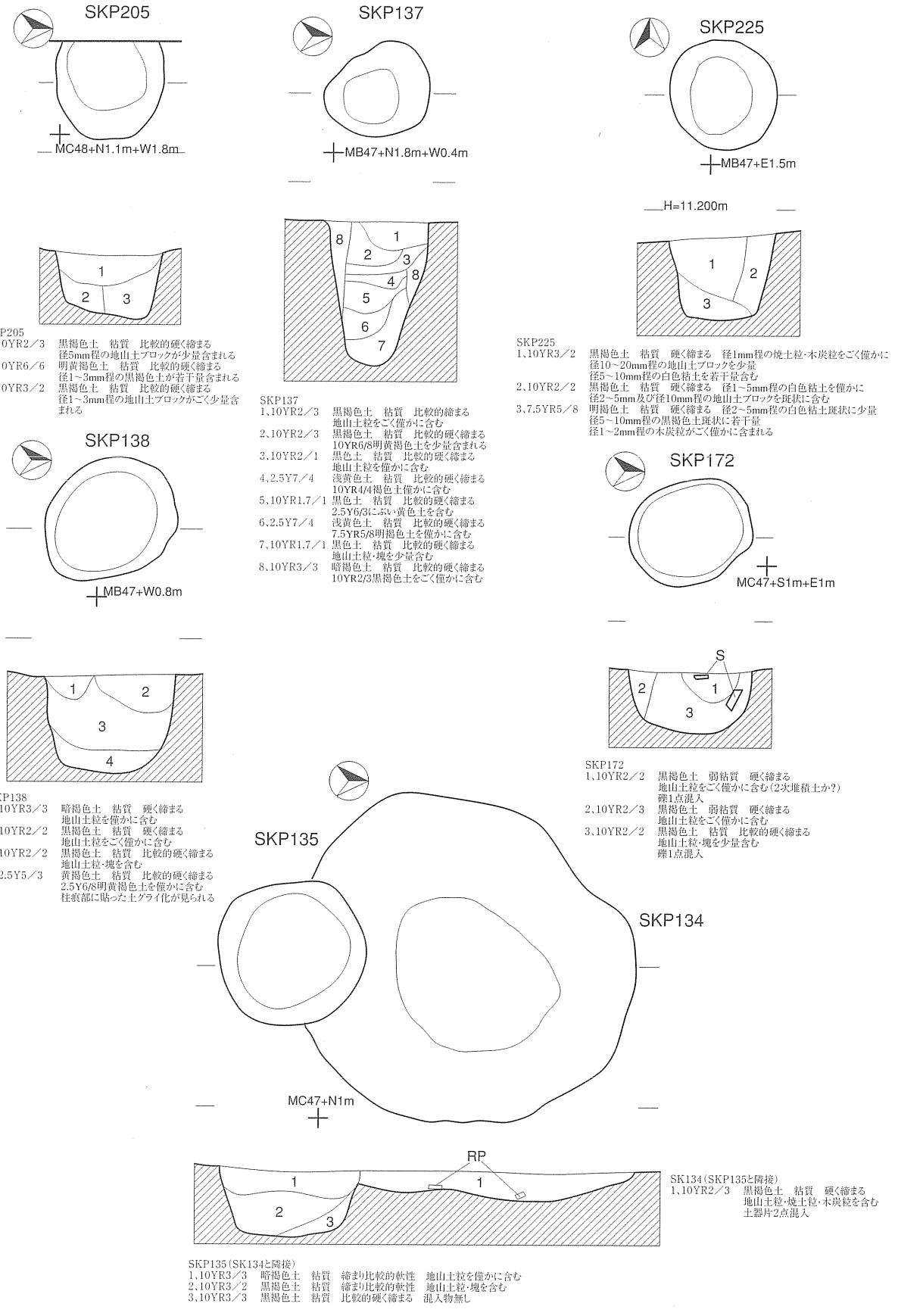
SKP18
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
　地山土粒・焼土粒がごく僅かに含まれる
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　地山土粒・塊・焼土粒を含む
3、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
　地山土粒・塊を少量含む

SKP95
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
　地山土粒をごく僅かに含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　黒褐色土
　地山土粒・焼土粒を若干量含む

レベル表記のないものは11.450mを基準とする。

0　1m

第22図　柱穴（３）



SKP205
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径5mm程の地山土ブロックが少量含まれる
2、10YR6／6　明黄褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径1～3mm程の黒褐色土が若干量含まれる
3、10YR3／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
径1～3mm程の地山土ブロックがごく少量含まれる

SKP137
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的締まる
地山土粒をごく僅かに含む
2、10YR2／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
10YR6/8明黄褐色土を少量含まれる
3、10YR2／1　黒色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒を僅かに含む
4、2.5Y7／4　浅黄色土　粘質　比較的硬く締まる
10YR4/4褐色土僅かに含む
5、10YR1.7／1　黒色土　粘質　比較的硬く締まる
2.5Y6/3にぶい黄色土を含む
6、2.5Y7／4　浅黄色土　粘質　比較的硬く締まる
7.5YR5/8明褐色土を僅かに含む
7、10YR1.7／1　黒色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を少量含む
8、10YR3／3　暗褐色土　粘質　比較的硬く締まる
10YR2/3黒褐色土をごく僅かに含む

SKP225
1、10YR3／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる　径1mm程の焼土粒・木炭粒をごく僅かに
径10～20mm程の地山土ブロックを少量
径5～10mm程の白色粘土を若干量含む
2、10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる　径1～5mm程の白色粘土を僅かに
径2～5mm及び径10mm程の地山土ブロックを斑状に含む
3、7.5YR5／8　明褐色土　粘質　硬く締まる　径2～5mm程の白色粘土斑状に少量
径5～10mm程の黒褐色土斑状に若干量
径1～2mm程の木炭粒がごく僅かに含まれる

SKP138
1、10YR3／3　暗褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒を僅かに含む
2、10YR2／2　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む
3、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を含む
4、2.5Y5／3　黄褐色土　粘質　比較的硬く締まる
2.5Y6/8明黄褐色土を僅かに含む
柱痕部に貼った土グライ化が見られる

SKP172
1、10YR2／2　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む(2次堆積土か?)
礫1点混入
2、10YR2／3　黒褐色土　弱粘質　硬く締まる
地山土粒をごく僅かに含む
3、10YR2／2　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる
地山土粒・塊を少量含む
礫1点混入

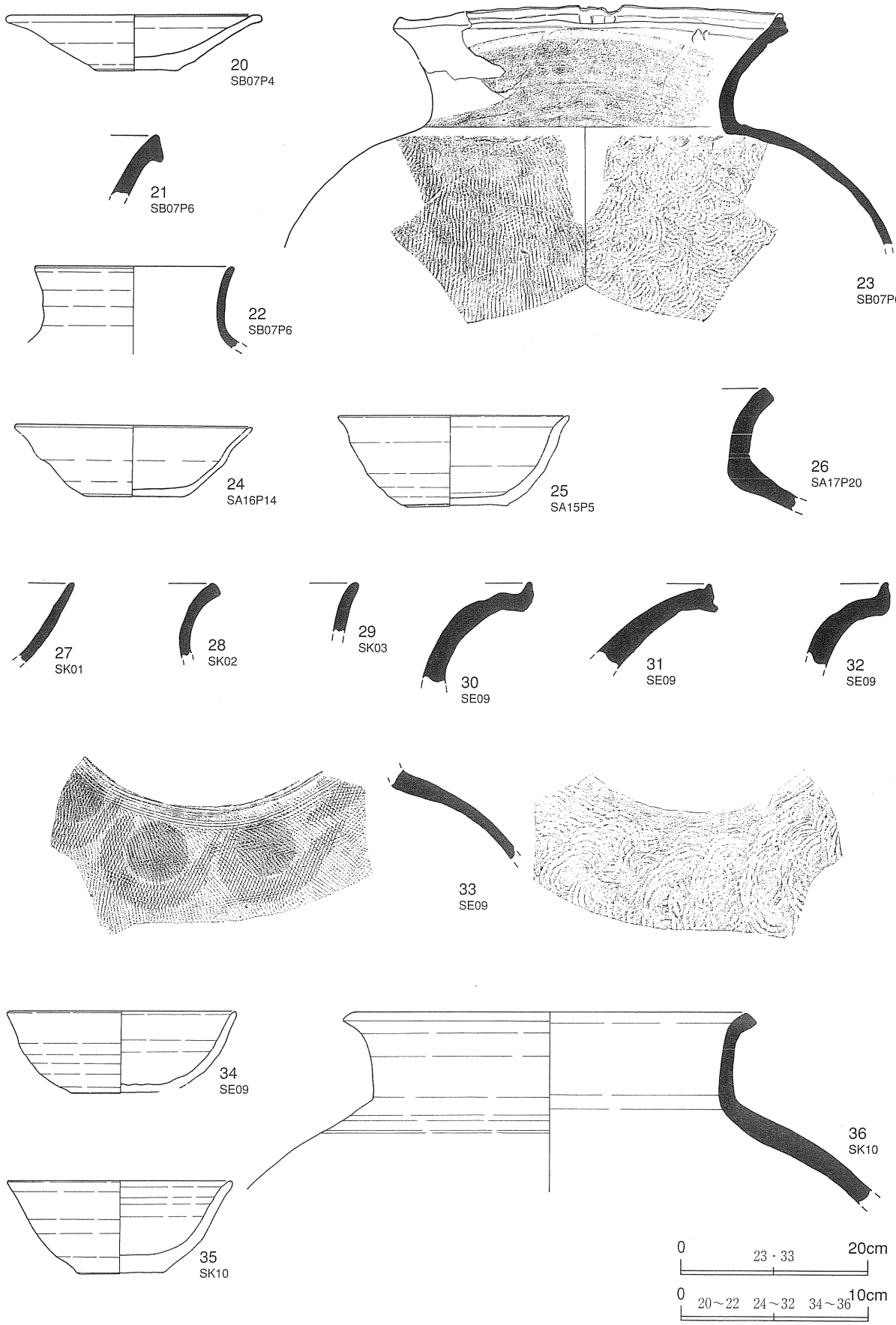
SK134(SKP135と隣接)
1、10YR2／3　黒褐色土　粘質　硬く締まる
地山土粒・焼土粒・木炭粒を含む
土器片2点混入

SKP135(SK134と隣接)
1、10YR3／3　暗褐色土　粘質　締まり比較的軟性　地山土粒を僅かに含む
2、10YR3／2　黒褐色土　粘質　締まり比較的軟性　地山土粒・塊を含む
3、10YR3／3　黒褐色土　粘質　比較的硬く締まる　混入物無し

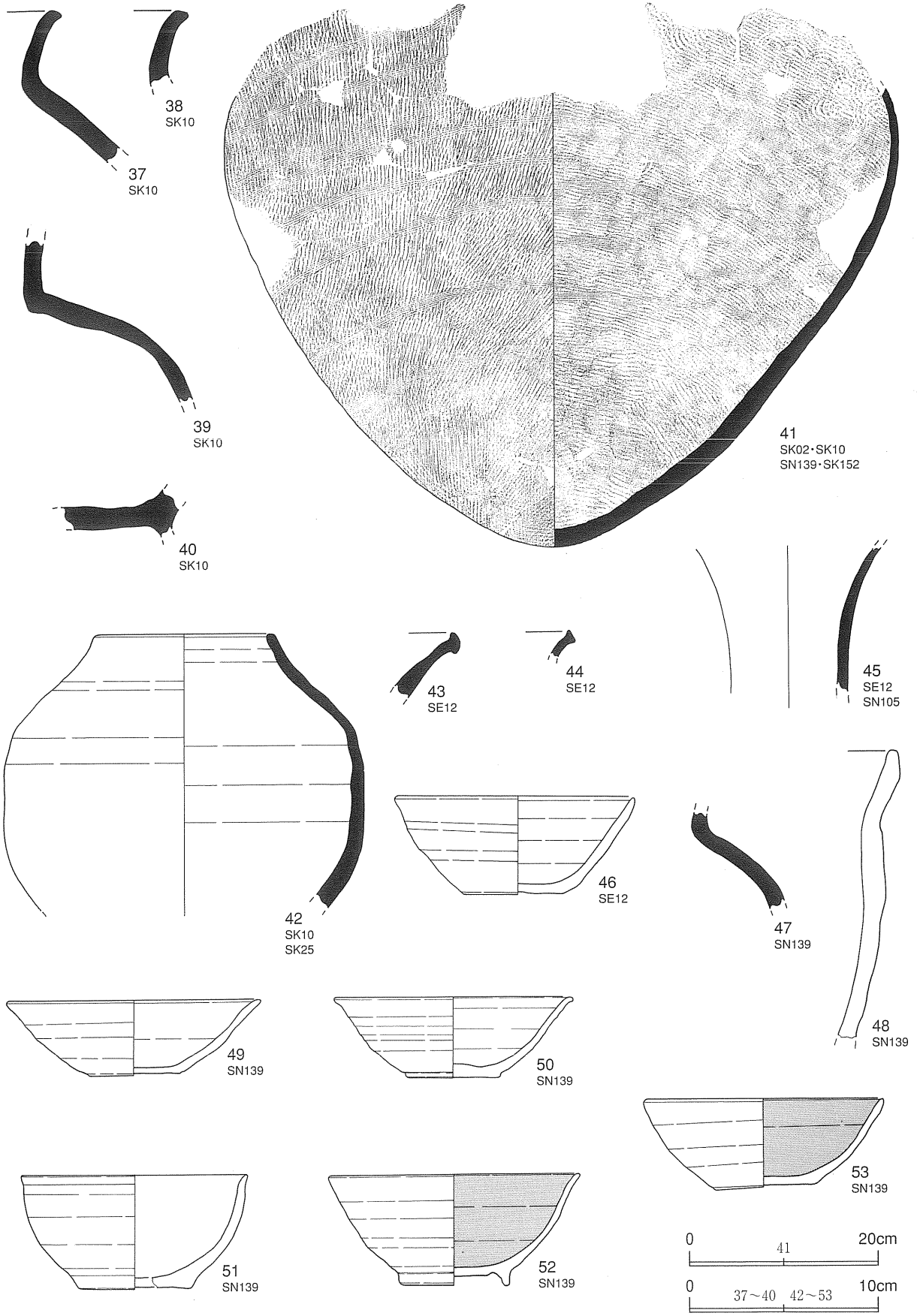
レベル表記のないものは11.100ｍを基準とする。

0　1m

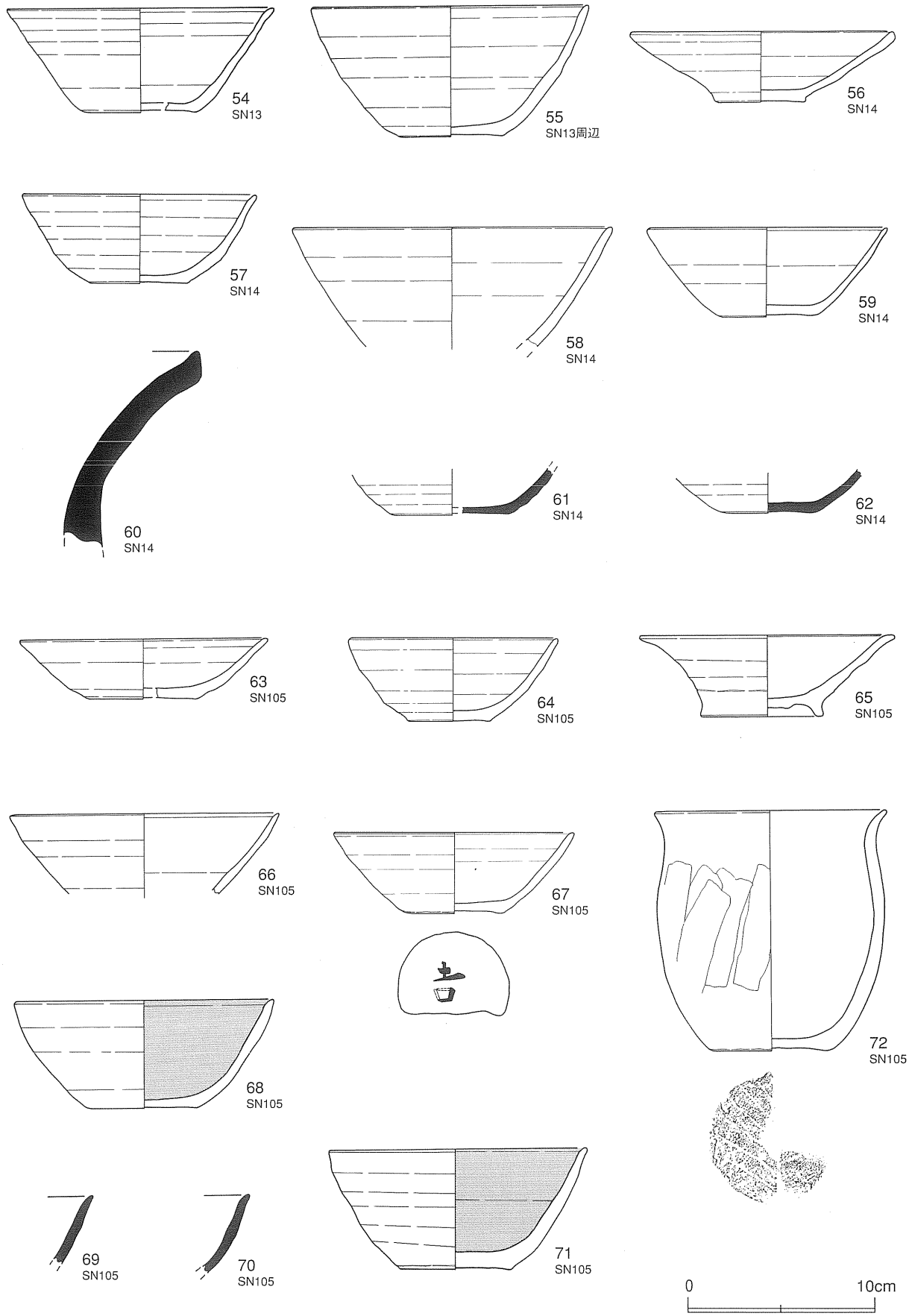
第23図　柱穴(４)



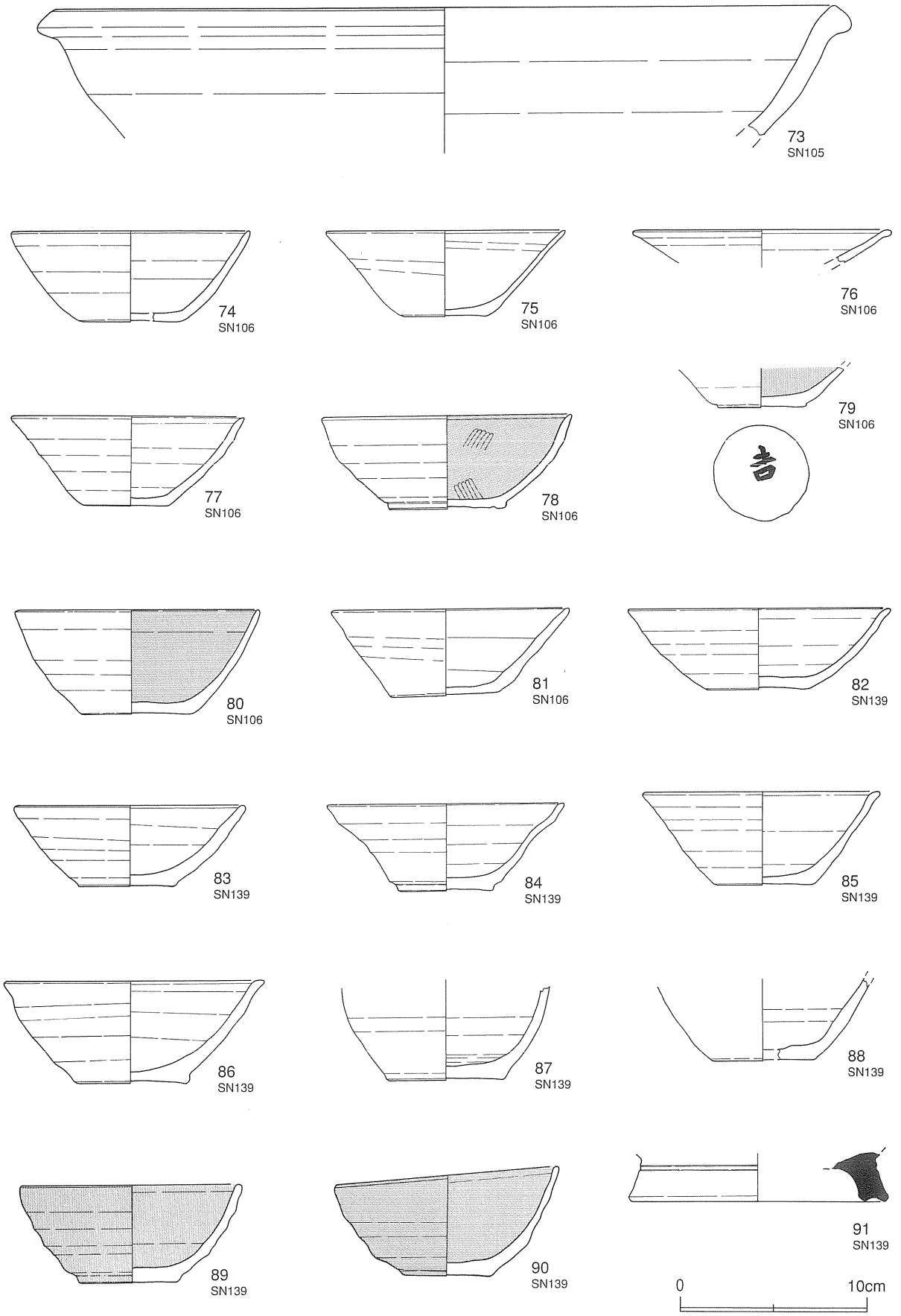
第24図　遺構内出土遺物（１）



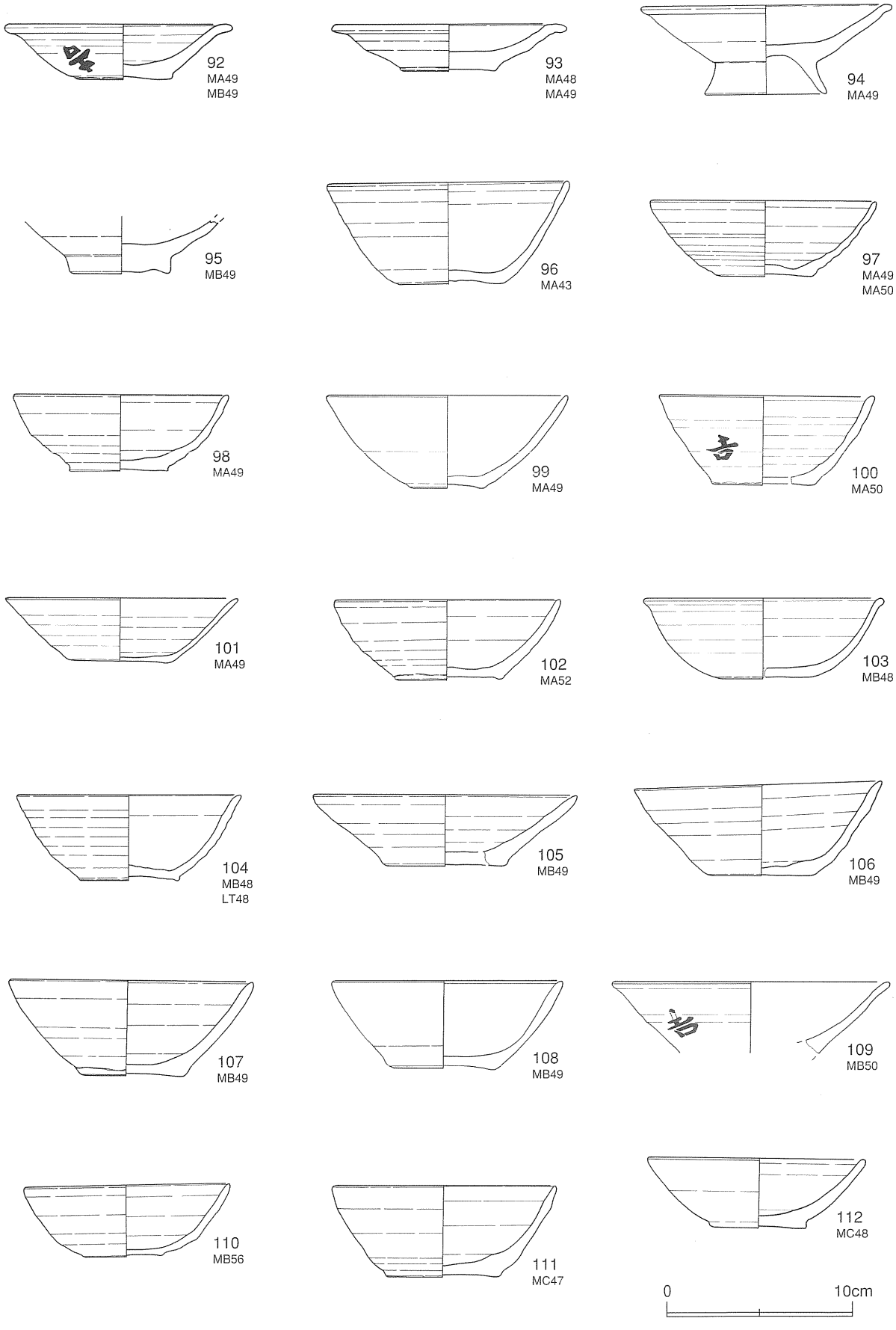
第25図　遺構内出土遺物（２）



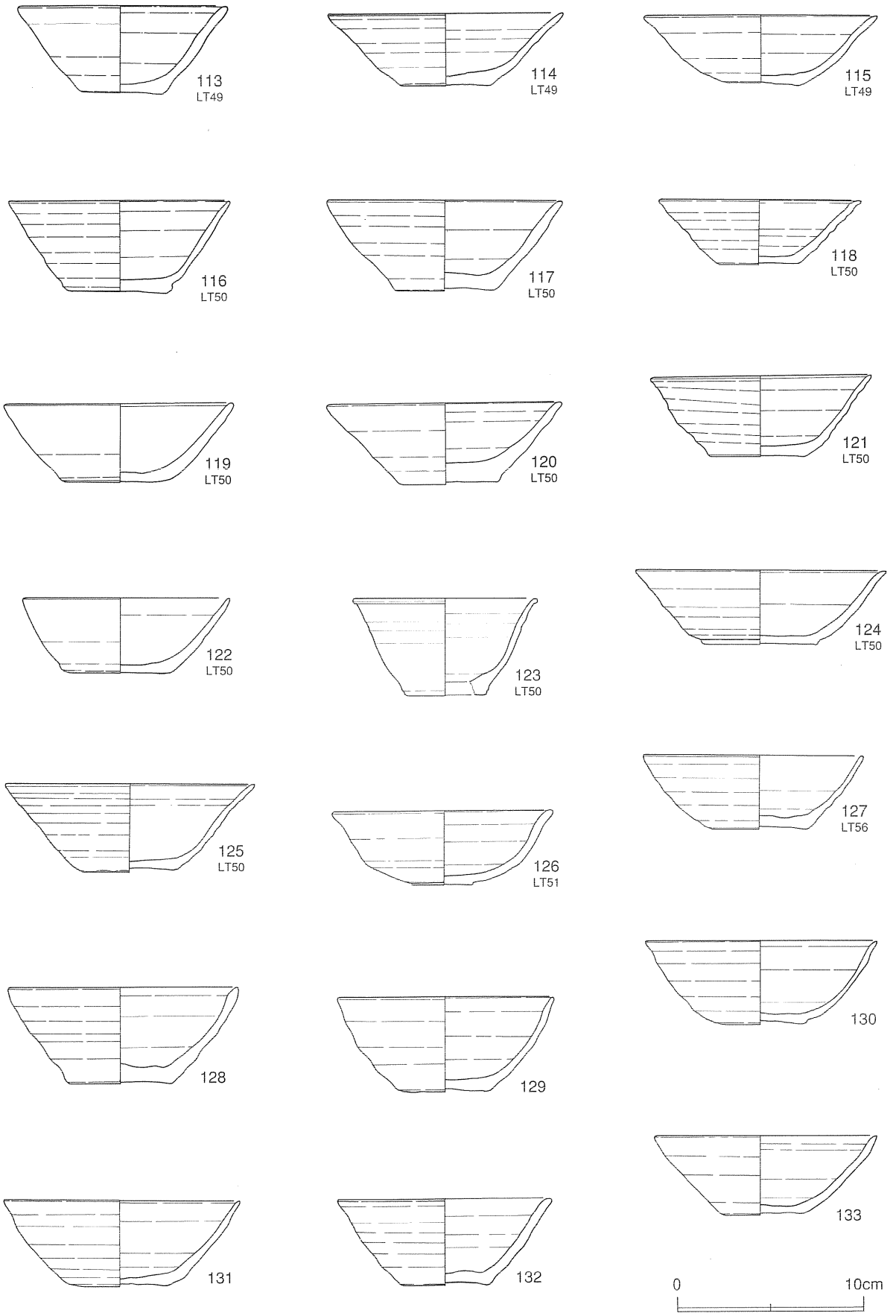
第26図　遺構内出土遺物（３）



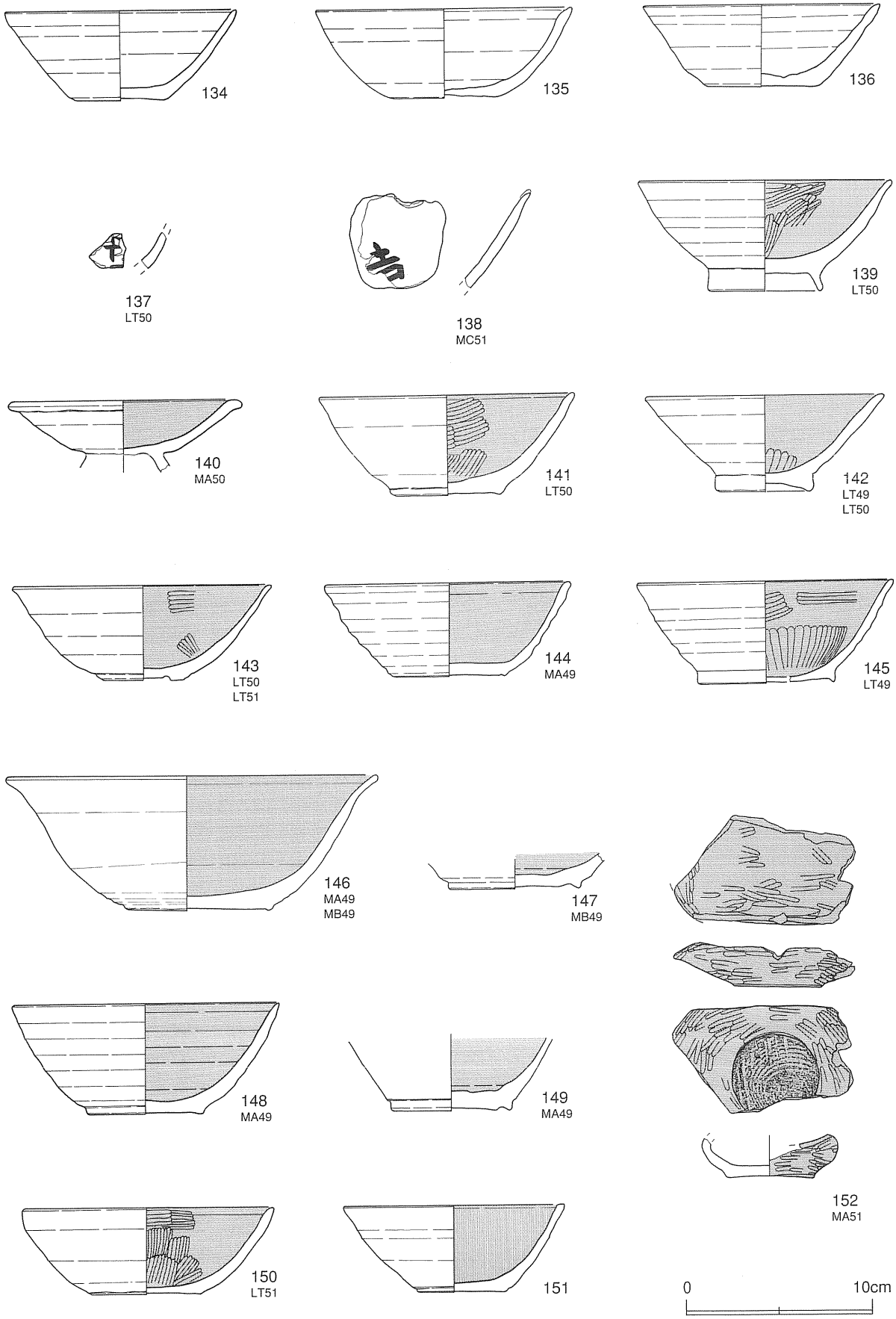
第27図　遺構内出土遺物（４）



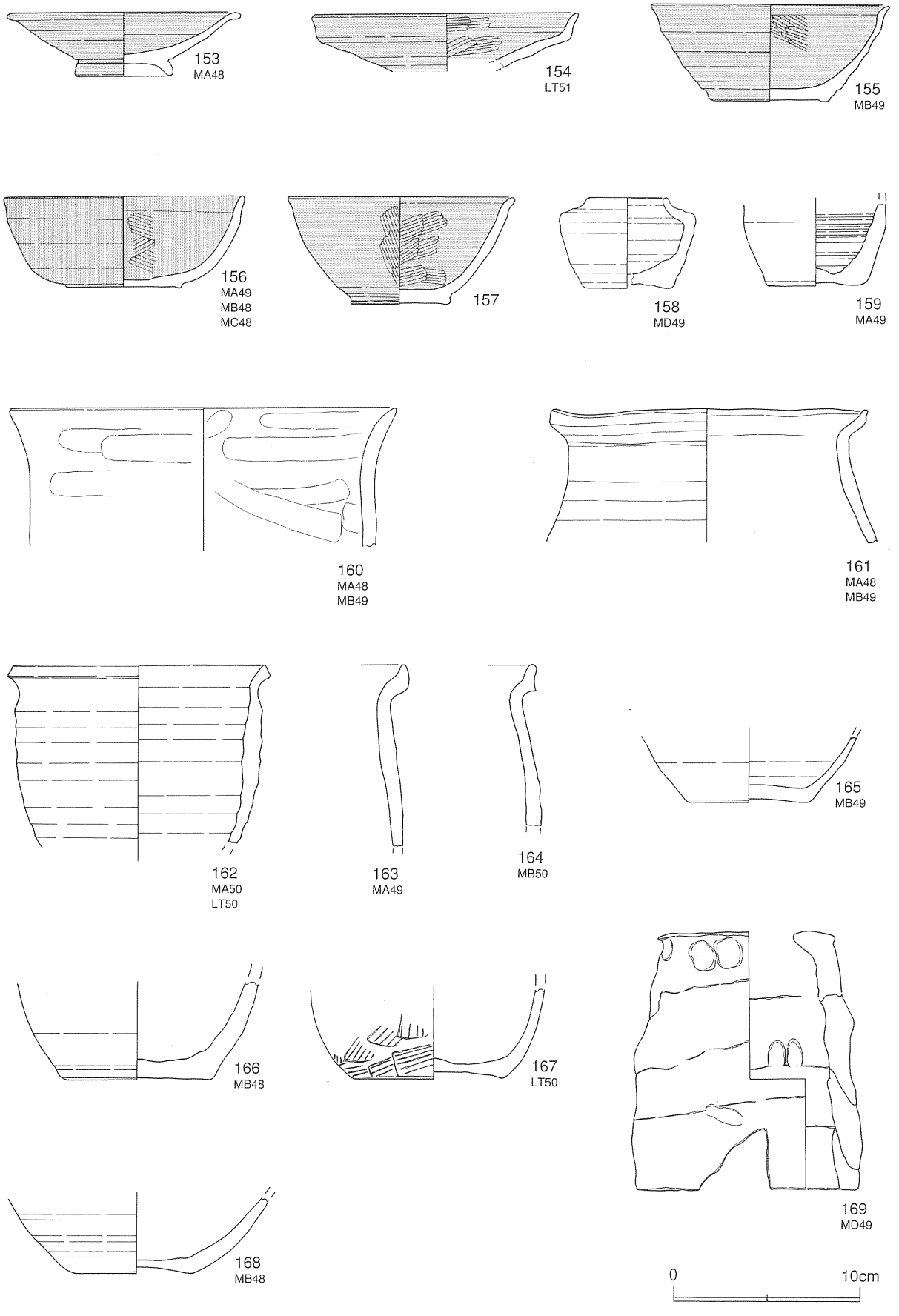
第28図　遺構外出土遺物・平安時代（１）



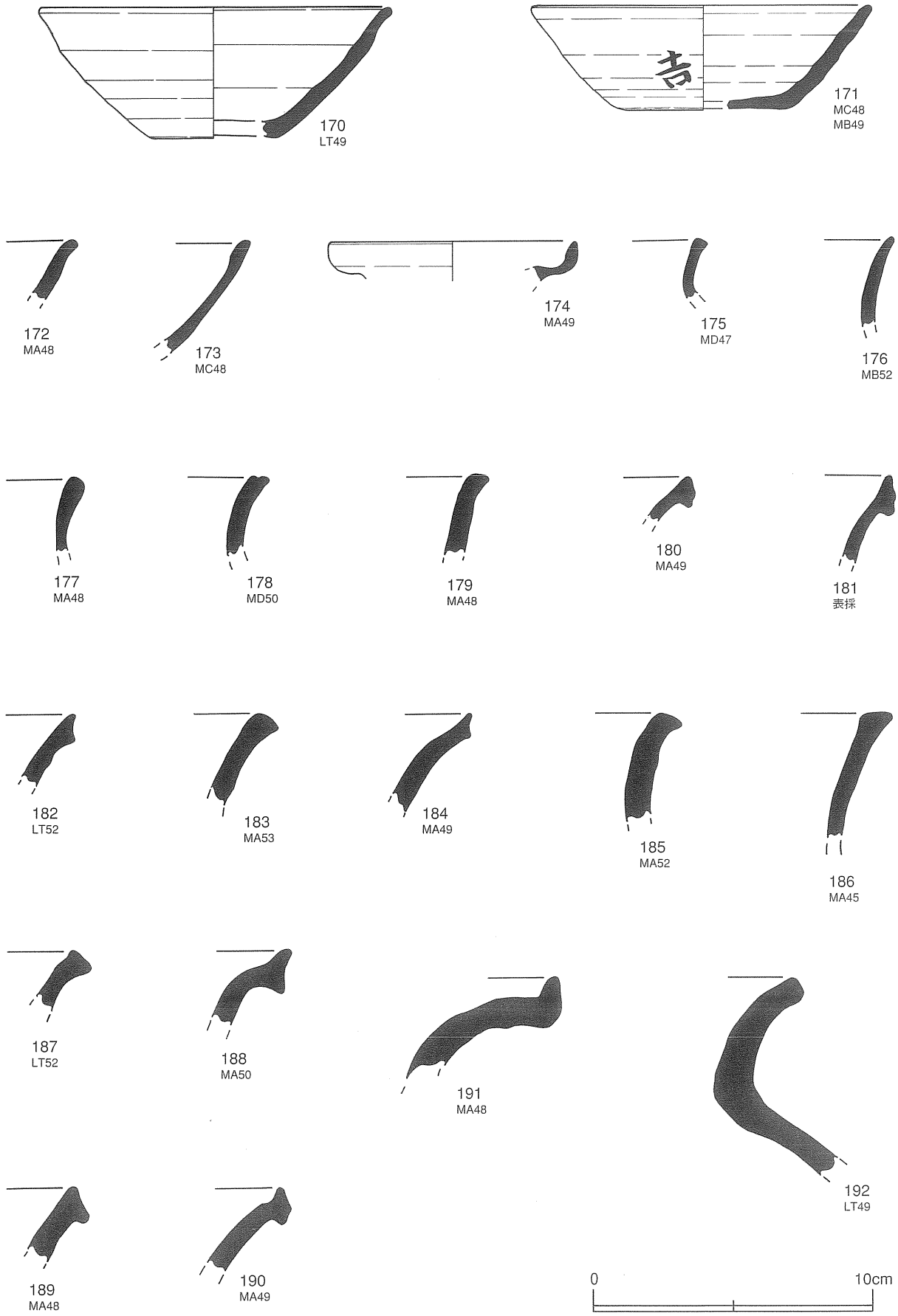
第29図　遺構外出土遺物・平安時代（２）



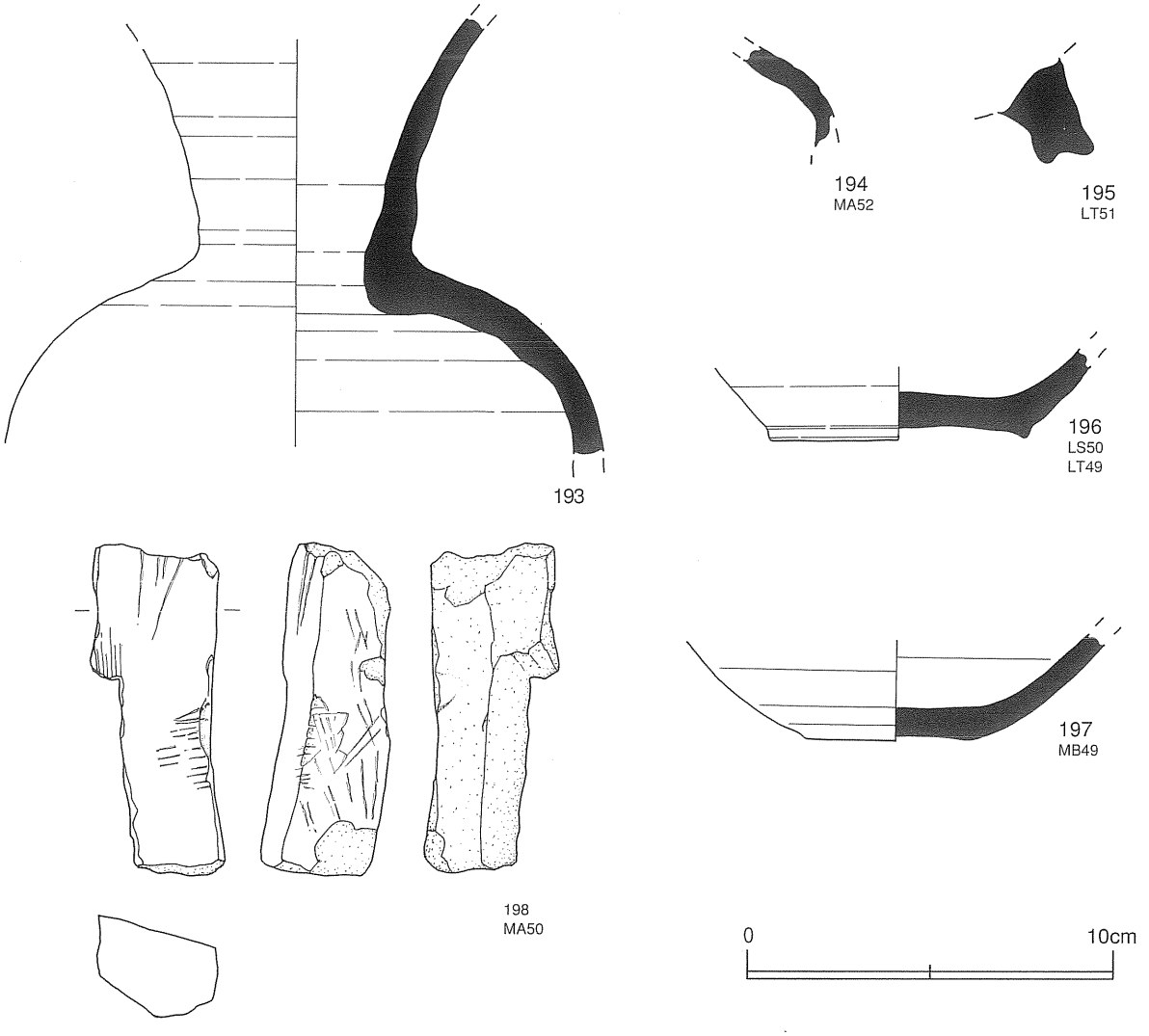
第30図　遺構外出土遺物・平安時代（３）



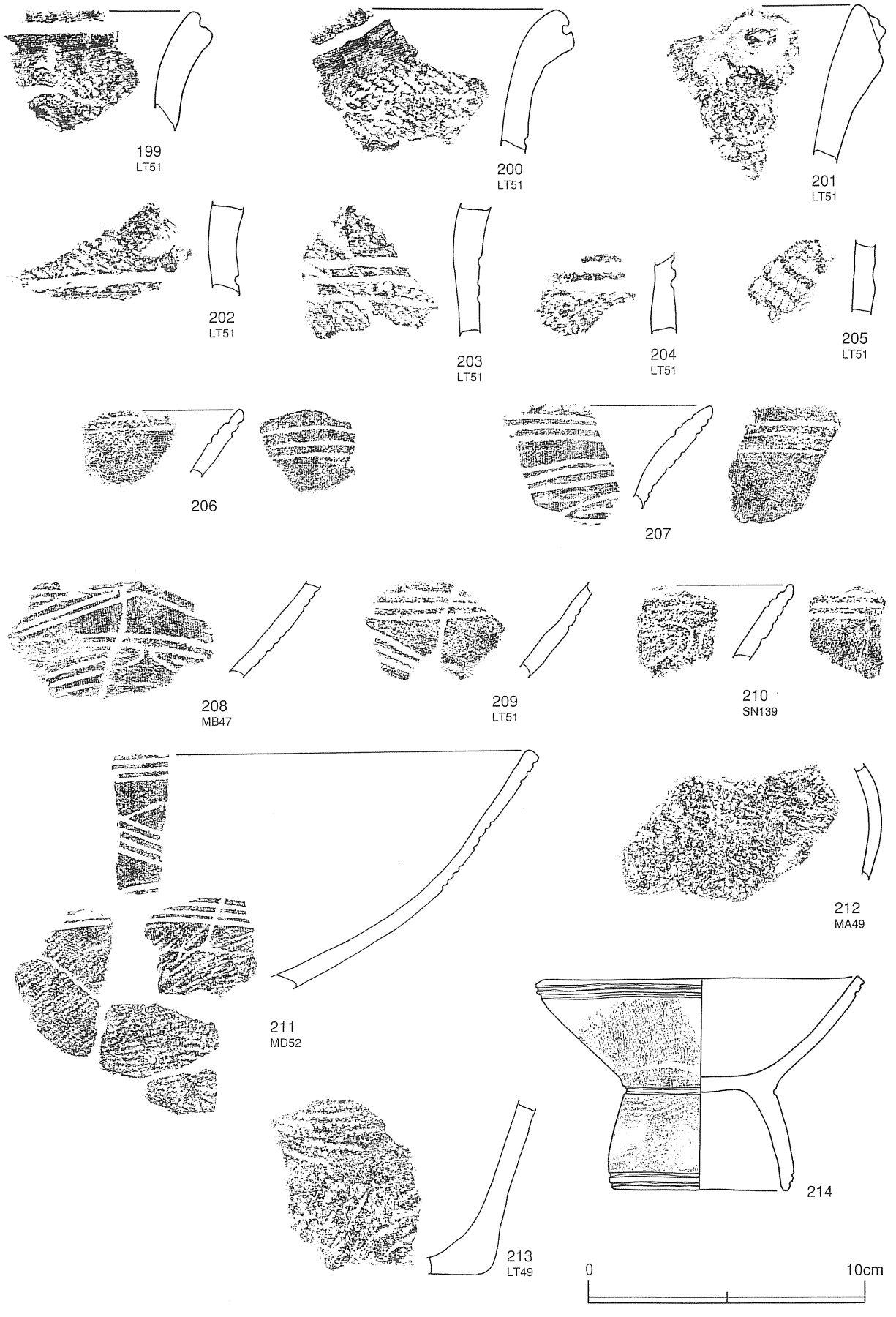
第31図　遺構外出土遺物・平安時代（４）



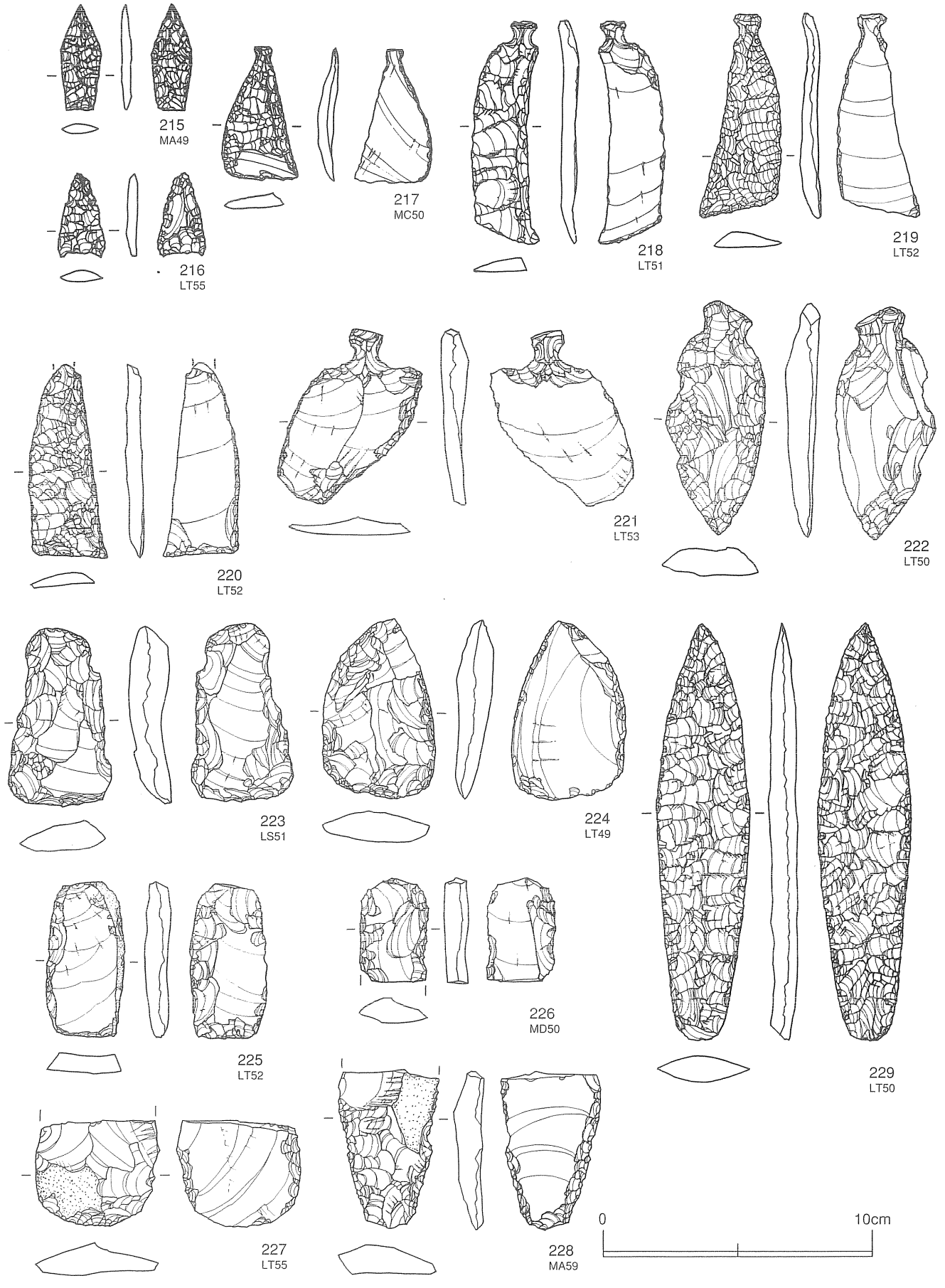
第32図　遺構外出土遺物・平安時代（５）



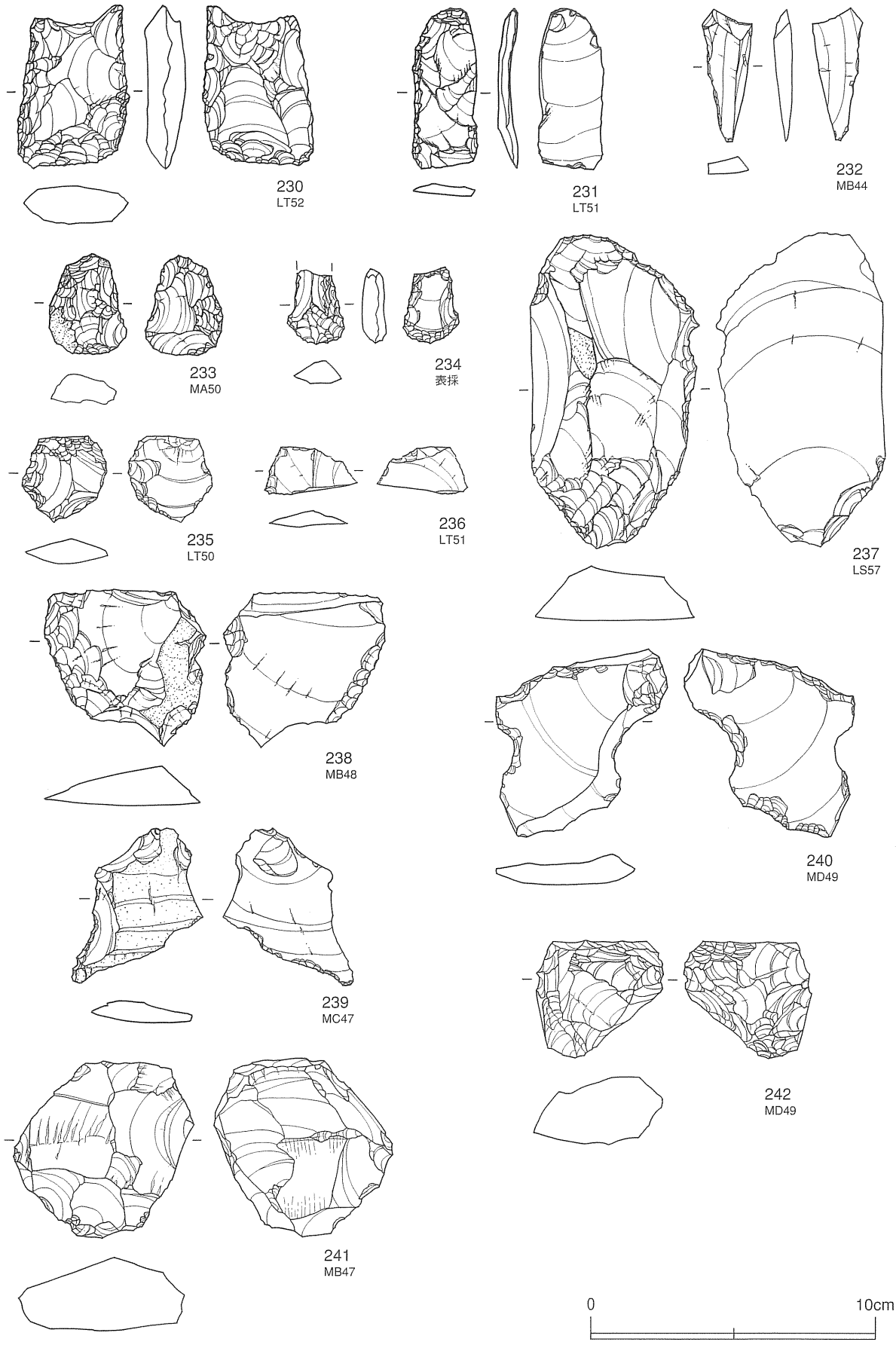
第33図　遺構外出土遺物・平安時代（６）



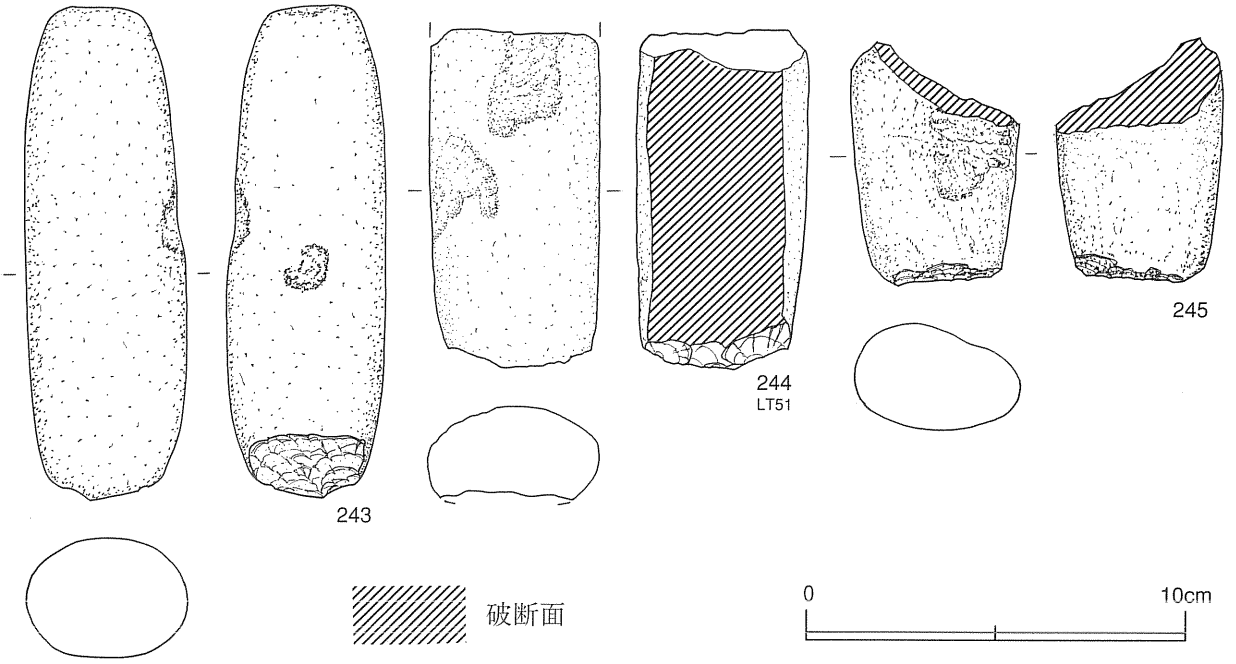
第34図　遺構外出土遺物・縄文／弥生時代（１）



第35図　遺構外出土遺物・縄文／弥生時代（２）



第36図　遺構外出土遺物・縄文／弥生時代（３）



第37図　遺構外出土遺物・縄文／弥生時代（４）

表２　出土遺物（石器）法量

（ ）内は現在値

挿図番号	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	出土地点
35-215	40	16	4	2.12	MA49
35-216	31	18	4.5	2.06	LT55
35-217	50	28	7	6.07	MC50
35-218	83.5	25	8	13.56	LT51
35-219	76.5	31	7	12.48	LT52
35-220	72.5	29	6	14.01	LT52
35-221	66	53.5	10	21.28	SK02
35-222	87.5	37.5	12	35.52	LT50
35-223	66.5	38	15.5	37.32	LS51
35-224	67	42	13.5	37.05	LT49
35-225	58	29	10	18.90	LT52
35-226	39	26	9	13.02	MD50
35-227	39	46	12	23.43	LT55
35-228	59	37.5	11.1	26.83	MA59
35-229	156	35	11	59.52	LT50
36-230	57	39	14	35.49	LT52
36-231	57	23	7	8.18	LT51
36-232	47	18	7	4.67	SK12
36-233	35	28	11	8.31	MA50
36-234	26.5	20.5	8	4.86	表採
36-235	30	30	10	8.65	LT50
36-236	16	32	7	3.05	LT51
36-237	111	59	20	110.80	LS57
36-238	55	57	18	53.92	MB48
36-239	55	46	9	15.64	MC47
36-240	66	60	13.5	39.92	MD49
36-241	60.7	60	25	95.43	MB47
36-242	41	45	26	44.71	MD49
37-243	131	42	33	265.17	MC50
37-244	(90)	45	(25)	180.35	LT51
37-245	(65)	44	(32)	101.11	SKP206

第５章　自然科学的分析

第１節　種実の同定

１　はじめに

植物の種子や果実には比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存している場合がある。堆積物から種実を検出し、その群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし、古環境の推定を行うことが可能である。

２　試料

試料は、諏訪遺跡において検出された平安時代の井戸（ＳＥ09）底部内堆積物を、１㎜メッシュで篩分けした試料１リットル（試料番号２）である。

３　方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

４　結果

（１）分類群

樹木２、樹木・草本１、草本27の計30が同定された。学名、和名および粒数を表１に示し、主要な分類群を写真に示す。１リットル中の種実数を第38図ダイアグラムに示した。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕

キイチゴ属　*Rubus*　核　バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

サルナシ　*Actinidia arguta planch. ex Miq.*　種子　マタタビ科

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。

〔樹木・草本を含むもの〕

ウコギ科　Araliaceae　種子

淡褐色ないし茶褐色で、半月状を呈する。断面は扁平、向軸側はほぼ直線状になり、肺軸側には浅い溝が２～３本走る。表面はざらつく。

〔草本〕

イネ　*Oryza sativa* L.　穎　イネ科

穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状の突起がある。

エノコログサ属　*Setaria*　穎　イネ科

穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。

イネ科　Gramineae　穎・果実

灰褐色～茶褐色で紡錘形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

ホタルイ属　*Scirpus*　果実　カヤツリグサ科

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。

カヤツリグサ科　Cyperaseae　果実

黒褐色で倒卵形を呈し、断面三角形である。

イボクサ　*Aneilema Keisak* Hassk.　種子　ツユクサ科

黒褐色～黒色で楕円形を呈す。腹部に一文字状のへそがあり、側面にくぼんだ発芽孔がある。

コナギ　*Monochoria vaginalis* Presl var. plantaginea Solms-Laub.　種子　ミズアオイ科

淡褐色で楕円形を呈す。表面には縦方向に８～10本程度の隆起があり、その間には横方向に微細な隆線がある。種皮は薄く透き通る。

アサ　*Cannabis sativa* L.　種子　クワ科

茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

カナムグラ　*Humulus scandens* Merrill　種子　クワ科

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

イラクサ科　Urticaceae　種子

黄褐色で狭倒卵形を呈す。粗面で光沢はない。

ミゾソバ　*Polygonum Thunbergii* Sieb. et Zucc.　果実　タデ科

黄褐色で三角状広卵形を呈し、基部に小突起がある。表面には微細な網目模様がある。

タデ属　*Polygonum*　果実　タデ科

黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面には光沢があり、断面は三角形である。

黒褐色で先端がとがる広卵形を呈す。表面には光沢があり、断面は両凸レンズ形である。

ギシギシ属　*Rumex*　果実　タデ科

茶褐色で頂端が尖る卵形。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

アカザ属　*Chenopodium*　種子　アカザ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

ヒユ属　*Amaranthus*　種子　ヒユ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込みへソがある。断面は両凸レンズ形である。

ナデシコ科　Caryophyllaceae　種子

黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。

カタバミ属　*Oxalis*　種子　カタバミ科

茶褐色で楕円形を呈し、上端がとがる。両面には横方向に６～８本の隆起が走る。

ツリフネソウ　*Impatiens textori Miq.*　種子　ツリフネソウ科

黒褐色で長倒卵形を呈し、下端にはやや縦長のへそがある。表面には不規則な隆起があり、隆起の部分の光沢は特に強い。

ヤブガラシ　Cayratia japonica Gagn.　種子　ブドウ科

広倒卵形を呈し、基部は嘴状に細く尖る。背面の正中線上は浅い帯状の凹みがある。

スミレ属　*Viola*　果実　スミレ科

下端が尖る倒卵形を呈す。基部の側面にへそがある。

ガガイモ科　Asclepiadaceae　種子

倒卵形を呈し、扁平である。翼状の縁がある。

アカネ科　Rubiaceae　種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。

ヤブジラミ属　*Torilis*　果実　セリ科

果実は淡褐色で紡錘形を呈す。頂端が尖る。背面は丸く、腹面はくぼんだみぞがある。

狭卵形を呈し、先端尖る。背面には隆条が並び、それらの間と両側に鉤状の剛毛が密集している。

セリ科　Umbelliferae　果実

淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に３本の肥厚した隆起が見られる。断面は半円形である。

シソ属　*Perilla*　果実　シソ科

つぶれた状態である。茶褐色で円形を呈し下端にへソがある。表面には大きい網目模様がある。

シソ科　Lamiaceae　果実

倒卵状３稜形を呈し、先端は切形で扇形。着点は扇形で斜切形である。

ナス科　Solanaceae　種子

黄褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。

ゴボウ　*Arctium lappa*　種子　キク科

種子は広倒皮針形を呈し先端は切形。表面には黒く短い縦線条斑が見られる。

メナモミ　*Siegesbeckia pubescens* Makino　果実　キク科

黒色で倒卵形を呈し、上端は切形で、下端は細く曲る。表面は粗く、断面はひし形である。

オナモミ　*Xanthium strumarium* L.　果実　キク科

黒褐色で長楕円形を呈し、先端は２本の突起が伸びる。表面にかぎ状の突起が全体に分布する。

（２）種実群集の特徴

ＳＥ09（平安時代）底部内出土の種実類は、草本が極めて多い特徴をもつ。特にメナモミ、ヒユ属、タデ属、シソ科、ギシギシ属、ミゾソバが非常に多い。他に、ヤブジラミ属、イラクサ科、ヤブガラシ、ナス科、ゴボウ、アサ、エノコログサ属、イボクサ、ナデシコ科なども比較的多い。検出数は少ないがイネ、アカザ属、ホタルイ属、コナギ、キイチゴ属、サルナシなども同定された。

５　考察

ＳＥ09（平安時代）底部内より出土した種実類は、大きく栽培植物、食用または利用された有用植物、周囲に生育する植物に分けられる。栽培植物と食用または利用された有用植物は、土坑の周囲に生育していたのではなく、利用するためにもたらされたものが堆積した可能性が高い。

１）栽培植物

明らかな栽培植物としては、イネ、アサ、ゴボウがあげられる。周囲から落ち込んで堆積したとみ

られる。アサは南アジアや中央アジア原産とされる１年草の畑作物で、食用だけでなく茎皮の繊維は麻糸になることから、麻糸の利用が示唆される。

２）有用植物

自然に生育するが食用になることから、採取し利用されたと考えられるものとして、キイチゴ属、サルナシの樹木種実があげられる。いずれも人為環境に近い林縁周辺に分布する樹木である。

３）周囲に生育していたとみられる植物

検出数の多いメナモミ、ヒユ属、タデ属、シソ科、ギシギシ属、ミゾソバや比較的検出数の多いヤブジラミ属、イラクサ科、ヤブガラシ、エノコログサ属、イボクサ、ナデシコ科やアカザ属、ホタルイ属、コナギは、人為環境に生育する人里植物ないし耕地雑草である。メナモミ、ヒユ属、タデ属、イラクサ科、ヤブガラシ、エノコログサ属、アカザ属、ナデシコ科は陽当たりのよい乾燥した人為環境に生育し、シソ科、ギシギシ属、ミゾソバ、ヤブジラミ属、ナス科、イボクサ、ホタルイ属、コナギは湿地からやや滞水や流水のある環境に生育する。また、イボクサ、ホタルイ属、コナギは水田雑草でもある。以上のことから、ＳＥ09（平安時代）の周辺は、陽当たりのよい比較的乾燥した人里（集落）や畑地のところと湿地から浅水域ないし水田のところの２つの環境が分布していたと推定される。

６　まとめ

諏訪遺跡の平安時代の井戸（ＳＥ09）から出土した種実類を同定した結果、イネ、アサ、ゴボウの栽培植物、キイチゴ属、サルナシの食用となる有用植物が同定された。雑草類は極めて多く、メナモミ、ヒユ属、タデ属、イラクサ科、ヤブガラシ、エノコログサ属、アカザ属、ナデシコ科の比較的乾燥した人里（集落）や畑地に生育する草本とシソ科、ギシギシ属、ミゾソバ、ヤブジラミ属、ナス科、イボクサ、ホタルイ属、コナギの湿地から浅水域ないし水田に生育する草本が主に同定された。

参考文献

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣　出版，p.131-139.
南木睦彦（1991）栽培植物．古墳時代の研究第４巻生産と流通Ⅰ，雄山閣出版株式会社，p.165-174.

第２節　樹種同定

１　はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、その構造は年輪が形成され針葉樹材や広葉樹材で特徴ある組織をもつ。そのため、解剖学的に概ね属レベルの同定が可能となる。木材は大型の植物遺体であるため移動性が少なく、堆積環境によっては現地性の森林植生の推定が可能になる。考古学では木材の利用状況や流通を探る手がかりになる。

２　試料

試料は、平安時代の井戸枠に用いられている井戸側板１点（試料番号１）である。

３　方法

カミソリを用いて、木材の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本的三断面を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。樹種の同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

４　結果

スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don　スギ科

以下に同定根拠となった特徴を記す。なお各断面の顕微鏡写真を第41図に示す。

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するのもがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

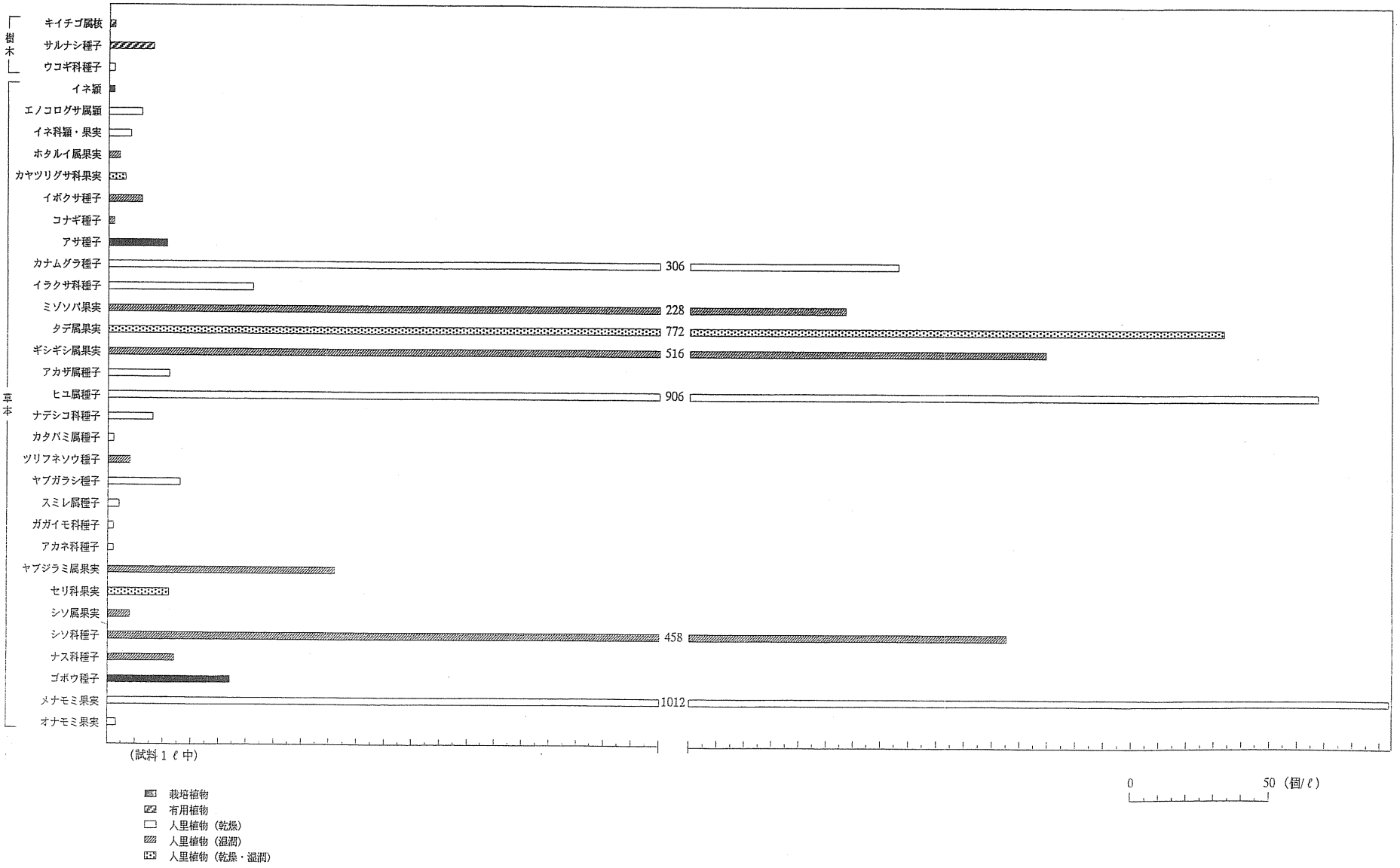
以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径２ｍに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

５　所見

同定の結果、諏訪遺跡より出土した平安時代の井戸枠材はスギであった。スギは、温帯に広く分布し、特に中間域の積雪地帯で純林を形成する針葉樹である。スギ材は、木理直通であり軽軟だが、強靱であるためよく用いられている。

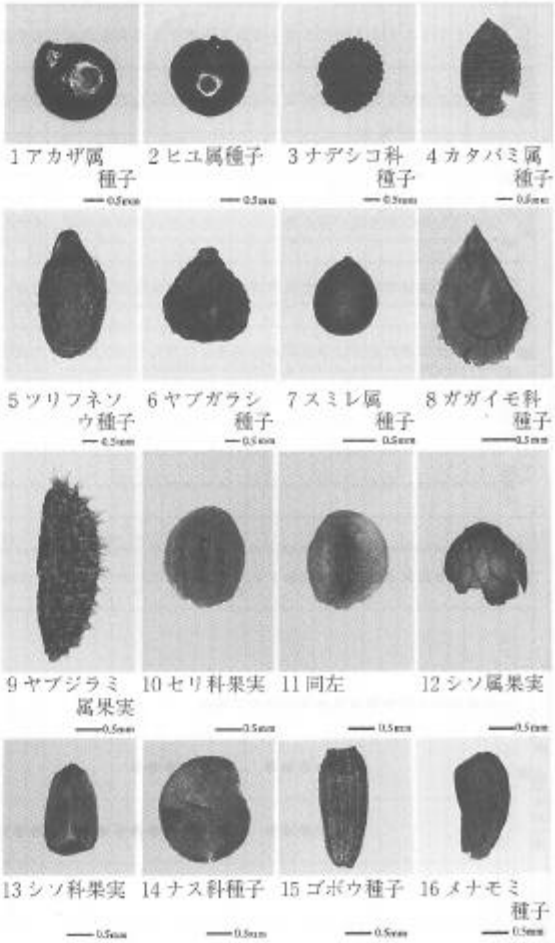
参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.



第38図　諏訪遺跡における種実ダイアグラム

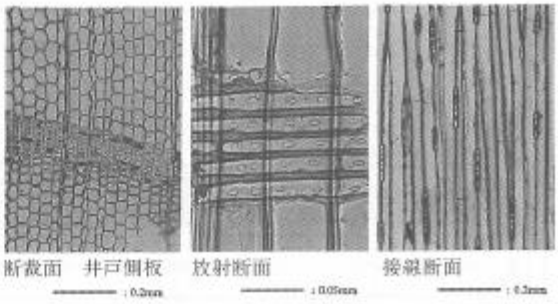
第39図　諏訪遺跡の種実Ⅰ



第40図　諏訪遺跡の種実Ⅱ

表3　諏訪遺跡における種実同定結果

分類群 学名	和名	部位	SE09内出土 試料番号2
Arbor	樹木		
Rubus	キイチゴ属	核	2
Actinidia argata Planch. ex Miq.	サルナシ	種子	16
Arbor·Herb	樹木・草本		
Araliaceae	ウコギ科	種子	2
Herb	草本		
Oryza sativa L.	イネ	穎	2
Setaria	エノコログサ属	穎	12
Gramineae	イネ科	穎・果実	8
Scirpus	ホタルイ属	果実	4
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	6
Aneilema keisak Hassk.	イボクサ	種子	12
Monochoria vaginalis Presl var plantaginea Solms Laub.	コナギ	種子	2
Cannabis sativa L.	アサ	種子	21
Humulus scandens Merr.	カナムグラ	種子	306
Urticaceae	イラクサ科	種子	52
Polygonum Thunbergii Sieb. et Zucc.	ミゾソバ	果実	228
Polygonum	タデ属	果実	772
Rumex	ギシギシ属	果実	516
Chenopodium	アカザ属	種子	22
Amaranthus	ヒユ属	種子	906
Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子	16
Oxalis	カタバミ属	種子	2
Impatiens textori Miq.	ツリフネソウ	種子	8
Cayratia japonica Gagn.	ヤブガラシ	種子	26
Viola	スミレ属	種子	4
Asclepiadaceae	ガガイモ科	種子	2
Rubiaceae	アカネ科	種子	2
Torilis Adans.	ヤブジラミ属	果実	82
Umbelliferae	セリ科	果実	22
Perilla	シソ属	果実	8
Labiatae	シソ科	果実	458
Solanaceae	ナス科	種子	24
Arctium lappa	ゴボウ	種子	44
Siegesbeckia pubescens Makino	メナモミ	果実	1012
Xanthium Strumarium L.	オナモミ	果実	3
Total	合計	4602	
Unknown	不明	10	



第41図　諏訪遺跡の木材

表４　県内平安時代掘立柱建物跡一覧（１）

県内平安時代　掘立柱建物跡一覧

No.	遺跡名	建物名	時期	8C後	9C前	9C中	9C後	10C前	10C中	10C後	11C～	桁方向	大きさ(m) 桁間数	大きさ(m) 梁間数	総寸(m) 桁行	総寸(m) 梁行	間尺平均(m) 桁行	間尺平均(m) 梁行	柱尺規模(径cm) 柱穴	柱尺規模(径cm) 柱痕
1	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００１	10C後							●		Ｗ－Ｅ	2	1	3.69	1.50	1.85	1.50	40	—
2	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００２	10C後							●		Ｎ－Ｓ	2	2	3.10	2.45	1.55	1.23	51	—
3	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００３	10C後							●		Ｎ－Ｓ	2	1	3.10	1.68	1.55	1.68	41	—
4	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００４	10C後							●		Ｗ－Ｅ	2	2	6.74	5.66	3.37	2.83	91	—
5	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００５	10C後							●		Ｗ－Ｅ	2	2	4.77	4.54	2.39	2.27	35	—
6	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００６	10C後							●		Ｎ－Ｓ	2	2	3.36	3.25	1.68	1.63	38	—
7	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００７	10C後							●		Ｎ－Ｓ	2	1	4.10	2.10	2.05	2.10	60	—
8	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００８	10C後							●		Ｗ－Ｅ	1	1	2.05	2.06	2.05	2.06	30	—
9	北の林Ⅰ遺跡	ＳＢ００９	10C後							●		Ｎ－Ｓ	1	1	2.43	2.45	2.43	2.45	38	—
10	北の林Ⅱ遺跡	ＳＢ００１						●	●	●		Ｎ－Ｓ	2	2	5.82	4.78	2.91	2.39	47	25
11	北の林Ⅱ遺跡	ＳＢ００２						●	●	●		Ｗ－Ｅ	2	1	2.80	2.48	1.40	2.48	40	15
12	北の林Ⅱ遺跡	ＳＢ００３						●	●	●		Ｎ－Ｓ	2	2	5.58	4.99	2.79	2.50	55	19
13	北の林Ⅱ遺跡	ＳＢ００４						●	●	●		Ｗ－Ｅ	2	1	4.76	4.20	2.38	4.20	49	19
14	北の林Ⅱ遺跡	ＳＢ００５						●	●	●		Ｎ－Ｓ	2	1	5.26	5.19	2.63	5.19	61	—
15	上葛岡Ⅳ遺跡	掘立柱建物跡	10C後							●		Ｎ－Ｓ	2	2	3.52	3.26	1.76	1.63	30	18
16	一本杉遺跡	ＳＢ００１	10C後							●		ＮＥ－ＳＷ	4	2	7.20	4.48	1.80	2.24	28	32
17	一本杉遺跡	ＳＢ００２	10C後							●		Ｎ－Ｓ	3	2	7.06	5.25	2.35	2.63	50	29
18	一本杉遺跡	ＳＢ００３	10C後							●		ＮＷ－ＳＥ	5	3	5.07	3.33	1.01	1.11	30	20
19	中の崎遺跡	ＳＢ１１１						●	●			ＮＥ－ＳＷ	3	2	6.21	5.14	2.07	2.57	37	19
20	中の崎遺跡	ＳＢ１２０						●	●			ＮＥ－ＳＷ	2	2	3.28	3.24	1.64	1.62	41	—
21	中の崎遺跡	ＳＢ１３６						●	●			Ｎ－Ｓ	2	2	3.43	2.90	1.72	1.45	31	—
22	中の崎遺跡	ＳＢ１４９						●	●			ＮＷ－ＳＥ	2	2	3.00	2.80	1.50	1.40	27	15
23	御休堂遺跡	ＳＢ１						●				Ｎ－Ｓ	3	3	6.45	5.25	2.15	1.75	49	20
24	御休堂遺跡	ＳＢ２						●				ＮＷ－ＳＥ	5	4	6.50	5.61	1.30	1.40	60	30
25	御休堂遺跡	ＳＢ３						●				Ｎ－Ｓ	4	3	6.25	5.56	1.56	1.85	51	15
26	御休堂遺跡	ＳＢ４						●				Ｎ－Ｓ	5	3	6.12	5.44	1.22	1.81	37	16
27	御休堂遺跡	ＳＢ５						●				Ｗ－Ｅ	—	3	—	3.31	—	1.10	40	14
28	御休堂遺跡	ＳＢ６						●				Ｎ－Ｓ	4	2	5.18	4.79	1.30	2.40	42	24
29	御休堂遺跡	ＳＢ７						●				Ｎ－Ｓ	1	1	4.70	3.56	4.70	3.56	32	18
30	御休堂遺跡	ＳＢ８						●				Ｗ－Ｅ	2	—	5.05	—	2.53	—	55	24
31	御休堂遺跡	ＳＢ９						●				ＮＷ－ＳＥ	4	3	6.85	3.90	1.71	1.30	33	13
32	御休堂遺跡	ＳＢ１０						●				Ｗ－Ｅ	3	1	5.87	2.42	1.96	2.42	36	25
33	御休堂遺跡	ＳＢ１１						●				Ｗ－Ｅ	—	3	—	3.81	—	1.27	32	12
34	御休堂遺跡	ＳＢ１２						●				Ｗ－Ｅ	3	1	7.52	3.40	2.51	3.40	48	32
35	御休堂遺跡	ＳＢ１３						●				Ｎ－Ｓ	5	1	8.10	1.90	1.62	1.90	36	32
36	御休堂遺跡	ＳＢ１４						●				Ｗ－Ｅ	4	3	7.07	5.72	1.77	1.91	43	29
37	大湯遺跡	第１号掘立柱建物跡					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	2	1	3.26	1.77	1.63	1.77	60	—
38	はりま館遺跡	ＳＢ０７５								●	●	Ｎ－Ｓ	5	—	10.80	—	2.16	—	69	—
39	はりま館遺跡	ＳＢ１１１								●	●	Ｗ－Ｅ	2	1	3.43	3.30	1.72	3.30	38	20
40	はりま館遺跡	ＳＢ１８４								●	●	Ｗ－Ｅ	1	1	2.83	2.10	2.83	2.10	30	20
41	はりま館遺跡	ＳＢ１８５								●	●	Ｎ－Ｓ	2	2	6.58	6.55	3.29	3.28	35	16
42	大館遺跡	１区第一掘立柱建物跡					●	●	●	●		Ｎ－Ｓ	1	1	2.00	2.00	2.00	2.00	60	—
43	大館遺跡	１区第二掘立柱建物跡					●	●	●	●		Ｎ－Ｓ	3	2	4.71	3.04	1.57	1.52	40	—
44	大館遺跡	１区第三掘立柱建物跡					●	●	●	●		Ｎ－Ｓ	1	1	2.20	2.40	2.20	2.40	50	—
45	大館遺跡	１０区掘立柱建物跡					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	2	2	5.32	5.11	2.66	2.56	49	—
46	腹鞍の沢遺跡	ＳＢ０１					●	●	●	●		Ｎ－Ｓ	3	2	5.40	4.80	1.80	2.40	33	—
47	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０９						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	8.54	3.34	2.85	1.67	46	29
48	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ５７						●	●	●		Ｎ－Ｓ	3	1	5.77	4.00	1.92	4.00	52	24
49	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ６８						●	●	●		Ｎ－Ｓ	3	1	7.80	6.15	2.60	6.15	56	32
50	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０１						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	5.80	4.70	1.93	2.35	28	16
51	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０２						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	6.80	4.55	2.27	2.28	38	18
52	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０３						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	7.05	4.90	2.35	2.45	40	24
53	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０４						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	8.45	6.40	2.82	3.20	17	17
54	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０５						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	7.80	5.20	2.60	2.60	50	22
55	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０６						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	6.60	4.40	2.20	2.20	50	33
56	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０７						●	●	●		Ｗ－Ｅ	1	1	2.85	2.70	2.85	2.70	35	14
57	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０８						●	●	●		Ｎ－Ｓ	1	1	3.50	1.70	3.50	1.70	42	29
58	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ０９						●	●	●		Ｗ－Ｅ	3	1	5.65	3.45	1.88	3.45	58	29
59	上の山Ⅱ遺跡	ＳＢ１０						●	●	●		Ｗ－Ｅ	2	2	4.25	4.20	2.13	2.10	36	22
60	駒林遺跡	掘立柱建物跡						●	●			Ｗ－Ｅ	2	2	3.28	3.26	1.64	1.63	38	—
61	此掛沢Ⅱ遺跡	ＳＢ１０						●	●			Ｗ－Ｅ	2	2	4.93	3.90	2.47	1.95	63	—
62	館の上遺跡	ＳＢ７０					●					ＮＷ－ＳＥ	6	2	15.60	6.20	2.60	3.10	80	—
63	館の上遺跡	ＳＢ２００(A)					●					ＮＷ－ＳＥ	5	2	13.30	7.70	2.66	3.85	129	—
64	館の上遺跡	〃(B)					●					ＮＷ－ＳＥ	2	2	5.30	5.20	2.65	2.60	111	—

表4　県内平安時代掘立柱建物跡一覧（2）

県内平安時代　掘立柱建物跡一覧

No.	遺跡名	建物名	時期	8C後	9C前	9C中	9C後	10C前	10C中	10C後	11C～	桁方向	大きさ(m) 桁間数	大きさ(m) 梁間数	総寸(m) 桁行	総寸(m) 梁行	間尺平均(m) 桁行	間尺平均(m) 梁行	柱尺規模(径cm) 柱穴	柱尺規模(径cm) 柱痕
65	館の上遺跡	SB440					●					W－E	4	2	8.54	5.84	2.14	2.92	92	—
66	館の上遺跡	SB450					●					W－E	3	2	7.90	5.00	2.63	2.50	72	—
67	館の上遺跡	SB453					●					N－S	3	2	8.50	5.14	2.83	2.57	88	—
68	館の上遺跡	SB454					●					NW－SE	4	2	9.20	4.20	2.30	2.10	64	—
69	館の上遺跡	SB459					●					NW－SE	3	2	8.71	6.25	2.90	3.13	49	—
70	三十刈Ⅱ遺跡	SB01					●					NE－SW	2	2	5.36	2.59	2.68	1.30	36	—
71	三十刈Ⅱ遺跡	SB02					●					NE－SW	2	2	5.51	3.19	2.76	1.60	44	—
72	三十刈Ⅱ遺跡	SB03					●					N－S	3	2	6.06	6.25	2.02	3.13	37	—
73	三十刈Ⅱ遺跡	SB04					●					N－S	3	1	6.06	4.46	2.02	4.46	58	—
74	三十刈Ⅱ遺跡	SB05					●					W－E	3	2	6.85	3.11	2.28	1.56	44	—
75	手取清水遺跡	SB022					●	●				N－S	3	1	5.05	4.64	1.68	4.64	60	—
76	手取清水遺跡	SB165					●	●				W－E	2	1	2.71	1.93	1.36	1.93	40	20
77	手取清水遺跡	SB174					●	●				W－E	3	2	6.91	5.27	2.30	2.64	60	19
78	手取清水遺跡	SB175					●	●				W－E	2	2	2.75	2.58	1.38	1.29	55	23
79	手取清水遺跡	SB190					●	●				N－S	2	1	5.23	4.95	2.62	4.95	72	30
80	手取清水遺跡	SB221					●	●				N－S	2	1	4.67	4.76	2.34	4.76	65	20
81	手取清水遺跡	SB292					●	●				W－E	3	2	5.32	3.49	1.77	1.75	32	15
82	手取清水遺跡	SB293					●	●				N－S	3	2	5.49	5.02	1.83	2.51	35	12
83	宮の前遺跡	掘立柱建物跡							●	●		N－S	5	2	12.00	9.30	2.40	4.65	72	—
84	藤木遺跡	SB05					●					NW－SE	3	2	5.74	5.91	1.91	2.96	80	20
85	藤木遺跡	SB07					●					NW－SE	3	2	5.36	5.44	1.79	2.72	56	—
86	藤木遺跡	SB11					●					NW－SE	6	0	11.70	5.24	1.95	—	40	20
87	田久保下遺跡	SB346－A				●	●					NW－SE	3	2	6.41	5.11	2.14	2.56	58	22
88	田久保下遺跡	SB346－B				●	●					NW－SE	2	1	4.10	2.20	2.05	2.20	40	20
89	田久保下遺跡	SB346－C				●	●					NW－SE	2	1	5.39	2.54	2.70	2.54	35	20
90	田久保下遺跡	SB346－D				●	●					NE－SW	2	1	5.00	1.78	2.50	1.78	48	25
91	田久保下遺跡	SB346－E				●	●					NE－SW	1	1	2.62	1.67	2.62	1.67	45	20
92	扇田谷地遺跡	SB56					●					N－S	3	2	7.84	6.24	2.61	3.12	60	32
93	扇田谷地遺跡	SB78					●					N－S	4	2	10.86	6.44	2.72	3.22	64	20
94	扇田谷地遺跡	SB80					●					N－S	2	2	3.48	2.42	1.74	1.21	44	16
95	扇田谷地遺跡	SB137					●					N－S	3	2	5.84	4.88	1.95	2.44	52	—
96	深田沢遺跡	1号建物跡			●	●	●					NW－SE	5	2	12.29	6.70	2.46	3.35	80	20
97	深田沢遺跡	2号建物跡			●	●	●					NW－SE	5	2	12.14	6.62	2.43	3.31	70	22
98	深田沢遺跡	3号建物跡			●	●	●					NW－SE	2	1	5.90	5.07	2.95	5.07	62	20
99	深田沢遺跡	4号建物跡			●	●	●					NW－SE	2	2	5.75	4.95	2.88	2.48	44	14
100	深田沢遺跡	5号建物跡			●	●	●					NW－SE	3	2	5.85	4.69	1.95	2.35	62	20
101	深田沢遺跡	6号建物跡			●	●	●					NE－SE	3	2	5.89	5.80	1.96	2.90	60	10
102	深田沢遺跡	7号A建物跡			●	●	●					NW－SE	3	2	6.26	5.75	2.09	2.88	70	15
103	深田沢遺跡	7号B建物跡			●	●	●					NW－SE	4	2	9.16	5.58	2.29	2.79	86	18
104	坂ノ上F遺跡	1号大建物跡					●	●				NE－SW	7	3	12.75	5.65	1.82	1.88	80	20
105	坂ノ上F遺跡	1号小建物跡					●	●				NW－SE	7	1	13.30	1.60	1.90	1.60	70	20
106	坂ノ上F遺跡	2号建物跡					●	●				W－E	5	2	9.50	4.70	1.90	2.35	60	18
107	坂ノ上F遺跡	3号建物跡					●	●				NW－SE	1	1	1.40	1.40	1.40	1.40	40	—
108	坂ノ上F遺跡	4号建物跡					●	●				NW－SE	6	1	11.25	2.10	1.88	2.10	40	—
109	坂ノ上F遺跡	5号建物跡					●	●				NW－SE	5	1	9.60	2.00	1.92	2.00	60	20
110	坂ノ上F遺跡	6号建物跡					●	●				NW－SE	5	1	9.60	2.00	1.92	2.00	60	20
111	烏野遺跡	(MS52付近)					●	●	●	●		W－E	3	2	6.91	5.38	2.30	2.69	56	—
112	烏野遺跡	(ML54付近)					●	●	●	●		NW－SE	3	2	8.50	6.63	2.83	3.32	50	—
113	十二林遺跡	SB141						●				N－S	5	2	8.40	6.70	1.68	3.35	30	—
114	十二林遺跡	SB144						●				NW－SE	3	2	8.30	5.55	2.77	2.78	50	—
115	十二林遺跡	SB166						●				NW－SE	4	3	8.20	5.20	2.05	1.73	45	—
116	十二林遺跡	SB167						●				NW－SE	3	1	7.25	4.95	2.42	4.95	40	—
117	十二林遺跡	SB172						●				N－S	2	2	5.90	5.10	2.95	2.55	45	—
118	福田遺跡	SB14第1号				●	●	●				N－S	4	2	7.90	5.00	1.98	2.50	50	30
119	福田遺跡	SB06第2号				●	●	●				N－S	2	1	5.10	2.00	2.55	2.00	60	22
120	福田遺跡	SB49第3号				●	●	●				N－S	3	2	8.00	6.40	2.67	3.20	90	35
121	福田遺跡	SB78第4号				●	●	●				W－E	2	2	6.00	4.50	3.00	2.25	38	—
122	福田遺跡	SB81第5号				●	●	●				N－S	—	2	—	5.00	—	2.50	30	—
123	福田遺跡	SB73第6号				●	●	●				W－E	2	2	6.90	6.70	3.45	3.35	35	—
124	福田遺跡	SB80第7号				●	●	●				W－E	1	2	6.40	4.90	6.40	2.45	45	—
125	泉沢中台遺跡	SB32					●	●				N－S	3	2	7.29	6.12	2.43	3.06	54	24
126	泉沢中台遺跡	SB34					●	●				N－S	3	2	6.70	4.72	2.23	2.36	50	23
127	泉沢中台遺跡	SB47					●	●				NW－SE	2	2	5.00	4.40	2.50	2.20	42	—
128	泉沢中台遺跡	SB55					●	●				N－S	5	2	11.37	6.59	2.27	3.30	52	23

表4　県内平安時代掘立柱建物跡一覧（3）

県内平安時代　掘立柱建物跡一覧

No.	遺跡名	建物名	時期	8C後	9C前	9C中	9C後	10C前	10C中	10C後	11C～	桁方向	大きさ(m) 桁間数	大きさ(m) 梁間数	総寸(m) 桁行	総寸(m) 梁行	間尺平均(m) 桁行	間尺平均(m) 梁行	柱尺規模(径cm) 柱穴	柱尺規模(径cm) 柱痕
129	泉沢中台遺跡	SB56					●	●				N－S	3	2	6.56	4.64	2.19	2.32	70	—
130	泉沢中台遺跡	SB60					●	●				N－S	2	2	4.95	4.80	2.48	2.40	31	—
131	泉沢中台遺跡	SB64					●	●				W－E	1	1	2.88	2.44	2.88	2.44	31	—
132	泉沢中台遺跡	SB67					●	●				N－S	—	—	—	—	—	—	52	—
133	泉沢中台遺跡	SB75					●	●				W－E	1	1	4.56	2.56	4.56	2.56	46	—
134	泉沢中台遺跡	SB77					●	●				N－S	2	2	6.98	5.12	3.49	2.56	58	—
135	泉沢中台遺跡	SB78					●	●				N－S	3	2	10.07	5.52	3.36	2.76	62	18
136	泉沢中台遺跡	SB79					●	●				N－S	3	2	10.11	5.24	3.37	2.62	74	—
137	泉沢中台遺跡	SB100					●	●				N－S	3	1	6.54	2.64	2.18	2.64	48	—
138	泉沢中台遺跡	SB105					●	●				W－E	2	2	4.89	4.66	2.45	2.33	42	—
139	泉沢中台遺跡	SB106					●	●				N－S	4	2	7.57	4.96	1.89	2.48	46	—
140	泉沢中台遺跡	SB114					●	●				N－S	3	—	2.40	—	0.80	—	44	—
141	下田遺跡	SB092					●	●				W－E	3	—	9.00	—	3.00	—	80	27
142	下田遺跡	SB024					●	●				N－S	—	2	—	6.08	—	3.04	85	35
143	上野遺跡	SB39					●	●				W－E	3	2	7.48	5.38	2.49	2.69	36	—
144	上野遺跡	SB40					●	●				W－E	2	2	5.58	5.17	2.79	2.59	44	—
145	上野遺跡	SB41					●	●				W－E	3	2	7.38	6.92	2.46	3.46	40	—
146	上野遺跡	SB42					●	●				W－E	4	2	8.99	5.77	2.25	2.89	40	—
147	上野遺跡	SB43					●	●				W－E	3	2	7.04	5.80	2.35	2.90	28	—
148	上野遺跡	SB46					●	●				W－E	2	2	5.71	5.08	2.86	2.54	40	—
149	上野遺跡	SB47					●	●				N－S	2	2	6.47	4.21	3.24	2.11	47	—
150	上野遺跡	SB48					●	●				N－S	2	2	6.29	5.58	3.15	2.79	40	—
151	上野遺跡	SB49					●	●				NE－SW	2	1	5.51	4.04	2.76	4.04	40	—
152	上野遺跡	SB50					●	●				N－S	2	2	6.00	5.84	3.00	2.92	36	—
153	上野遺跡	SB51					●	●				W－E	2	2	6.94	4.85	3.47	2.43	48	—
154	大鳥井山遺跡	SA1（G11区）								●	●	W－E	2	2	—	—	—	—	—	—
155	大鳥井山遺跡	SA2（G11区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
156	大鳥井山遺跡	SA3（G11区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
157	大鳥井山遺跡	SA4（G12区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
158	大鳥井山遺跡	SA5（G11区）								●	●	N－S	1	1	—	—	—	—	—	—
159	大鳥井山遺跡	SA6（G12区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
160	大鳥井山遺跡	SA7（G12区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
161	大鳥井山遺跡	SA8（G12区）								●	●	NE－SW	2	1	—	—	—	—	—	—
162	大鳥井山遺跡	SA9（G12区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
163	大鳥井山遺跡	SA10（G12区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
164	大鳥井山遺跡	SA11（G12区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
165	大鳥井山遺跡	SA12（G12区）								●	●	N－S	1	1	—	—	—	—	—	—
166	大鳥井山遺跡	SA13（G12区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
167	大鳥井山遺跡	SA14（G12／13区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
168	大鳥井山遺跡	SA15（G12区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
169	大鳥井山遺跡	SA16（F12区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
170	大鳥井山遺跡	SA17（F12区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
171	大鳥井山遺跡	SA18（F12区）								●	●	N－S	2	2	—	—	—	—	—	—
172	大鳥井山遺跡	SA19（F12区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
173	大鳥井山遺跡	SA20（F11区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
174	大鳥井山遺跡	SA21（F11区）								●	●	N－S	5	1	—	—	—	—	—	—
175	大鳥井山遺跡	SA22（G12区）								●	●	N－S	4	1	—	—	—	—	—	—
176	大鳥井山遺跡	SA23（G13区）								●	●	N－S	4	1	—	—	—	—	—	—
177	大鳥井山遺跡	SA24（G11／12区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
178	大鳥井山遺跡	SA25（G11区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
179	大鳥井山遺跡	SA26（G11区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
180	大鳥井山遺跡	SA27（FG10区）								●	●	N－S	2	2	—	—	—	—	—	—
181	大鳥井山遺跡	SA28（FG10区）								●	●	W－E	4	2	—	—	—	—	—	—
182	大鳥井山遺跡	SA29（FG10区）								●	●	N－S	3	2	—	—	—	—	—	—
183	大鳥井山遺跡	SA30（F11区）								●	●	W－E	1	1	—	—	—	—	—	—
184	大鳥井山遺跡	SA31（F11区）								●	●	NW－SE	2	1	—	—	—	—	—	—
185	大鳥井山遺跡	SA32（F10区）								●	●	W－E	2	1	—	—	—	—	—	—
186	大鳥井山遺跡	SA33（F9区）								●	●	N－S	1	1	—	—	—	—	—	—
187	大鳥井山遺跡	SA34（F9区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
188	大鳥井山遺跡	SA35（F9区）								●	●	N－S	2	1	—	—	—	—	—	—
189	大鳥井山遺跡	SA36（F9区）								●	●	NE－SW	1	1	—	—	—	—	—	—
190	上雨堤遺跡	SB01					●	●				NW－SE	5	2	10.79	4.42	2.16	2.21	88	20
191	上雨堤遺跡	SB02					●	●				NW－SE	5	—	13.50	—	2.70	—	74	24
192	大館野遺跡	k3付近								●		N－S	3	2	8.56	5.20	2.85	2.60	—	—

表４　県内平安時代掘立柱建物跡一覧（４）

県内平安時代　掘立柱建物跡一覧

No.	遺跡名	建物名	時期	8C後	9C前	9C中	9C後	10C前	10C中	10C後	11C～	桁方向	大きさ(m) 桁間数	大きさ(m) 梁間数	総寸(m) 桁行	総寸(m) 梁行	間尺平均(m) 桁行	間尺平均(m) 梁行	柱尺規模(径cm) 柱穴	柱尺規模(径cm) 柱痕
193	大舘野遺跡	ｆ２５付近								●		ＮＥ－ＳＷ	7	3	22.40	12.40	3.20	4.13	—	—
194	大舘野遺跡	ｉ３０付近								●		Ｎ－Ｓ	3	2	8.80	7.20	2.93	3.60	—	—
195	大舘野遺跡	ｃ３６付近								●		Ｎ－Ｓ	3	3	8.80	6.56	2.93	2.19	—	—
196	扇田道下遺跡	１（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	4	1	5.63	4.79	1.41	4.79	—	—
197	扇田道下遺跡	２（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	2	4.50	4.50	2.25	2.25	—	—
198	扇田道下遺跡	３（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	1	1	3.27	2.53	3.27	2.53	—	—
199	扇田道下遺跡	４（仮名）					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	2	1	3.94	2.82	1.97	2.82	—	—
200	扇田道下遺跡	５（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	2	5.63	5.35	2.82	2.68	—	—
201	扇田道下遺跡	６（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	3	2	7.88	6.47	2.63	3.24	—	—
202	扇田道下遺跡	７（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	1	7.04	5.63	3.52	5.63	—	—
203	扇田道下遺跡	８（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	3	2	7.88	6.76	2.63	3.38	—	—
204	扇田道下遺跡	９（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	4	1	7.88	5.63	1.97	5.63	—	—
205	扇田道下遺跡	１０（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	1	2.25	3.94	1.13	3.94	—	—
206	扇田道下遺跡	１１（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	2	4.79	3.94	2.40	1.97	—	—
207	扇田道下遺跡	１２（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	2	4.22	5.07	2.11	2.54	—	—
208	扇田道下遺跡	１３（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	3	2	6.47	4.50	2.16	2.25	—	—
209	扇田道下遺跡	１４（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	3	2	6.76	4.79	2.25	2.40	—	—
210	扇田道下遺跡	１５（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	2	2	7.04	5.63	3.52	2.82	—	—
211	扇田道下遺跡	１６（仮名）					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	5	2	7.32	3.10	1.46	1.55	—	—
212	扇田道下遺跡	１７（仮名）					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	6	2	10.13	3.38	1.69	1.69	—	—
213	扇田道下遺跡	１８（仮名）					●	●	●	●		ＮＥ－ＳＷ	5	2	8.45	3.38	1.69	1.69	—	—
214	扇田道下遺跡	１９（仮名）					●	●	●	●		ＮＷ－ＳＥ	3	2	6.47	5.91	2.16	2.96	—	—
1	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９３７（９０次）			●							Ｎ－Ｓ	5	2	14.70	6.80	2.94	3.40	170	30
2	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９４１Ａ（９０次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.40	6.00	2.47	3.00	120	25
3	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９４１Ｂ１（９０次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.60	3.90	2.53	1.95	60	25
4	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９４１Ｂ２（９０次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	1	7.60	2.80	2.53	2.80	70	25
5	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９８２Ａ（９０次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.60	6.00	2.53	3.00	—	—
6	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ９８２Ｂ（９０次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.60	6.00	2.53	3.00	80	—
7	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１０１３（９０次）							●	●		Ｎ－Ｓ	3	2	8.60	6.40	2.87	3.20	80	30
8	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１０７１（９５次）						●	●			Ｎ－Ｓ	3	2	6.40	5.00	2.13	2.50	90	30
9	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ1072Ａ・Ｂ（９５９５次）				●						Ｗ－Ｅ	5	2	15.05	6.70	3.01	3.35	120	30
10	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１０７７（９５次）							●	●		Ｗ－Ｅ	3	2	7.20	5.10	2.40	2.55	85	25
11	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ1082Ａ・Ｂ・Ｃ（100次）						●	●			Ｗ－Ｅ	5	2	11.45	6.30	2.29	3.15	140	30
12	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１２７（１０５次）			●							Ｗ－Ｅ	3	2	9.00	6.60	3.00	3.30	180	28
13	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１７７（１０５次）						●	●			正方形	1	1	2.10	2.10	2.10	2.10	30	—
14	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１７８Ａ・Ｂ（105次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.70	4.40	2.57	2.20	50	25
15	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１８４（１０５次）						●	●			Ｗ－Ｅ	4	2	8.50	4.00	2.13	2.00	50	—
16	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１８５（１０５次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	6.40	4.30	2.13	2.15	40	—
17	払田柵跡（政庁東方地）	ＳＢ１１８６（１０５次）						●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	6.40	3.60	2.13	1.80	40	25
1	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ３９６		●								Ｗ－Ｅ	3	3	6.08	6.08	2.03	2.03	139	—
2	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ３９７			●	●	●					Ｎ－Ｓ	2	3	4.95	3.30	2.48	1.10	120	30
3	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４２９		●								Ｗ－Ｅ	1	1	3.00	2.40	3.00	2.40	100	25
4	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ０１８		●								Ｗ－Ｅ	5	3	18.35	6.89	3.67	2.30	170	50
5	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４８４			●	●	●					Ｗ－Ｅ	5	3	18.35	6.89	3.67	2.30	180	55
6	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ０１９			●	●	●					Ｎ－Ｓ	3	2	5.45	4.80	1.82	2.40	180	40
7	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４８５		●								Ｎ－Ｓ	3	2	5.45	4.80	1.82	2.40	—	—
8	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４８６			●	●	●					Ｗ－Ｅ	3	—	6.90	—	2.30	—	100	—
9	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４８７		●								Ｗ－Ｅ	3	2	6.60	6.00	2.20	3.00	80	—
10	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４８８			●	●	●					Ｗ－Ｅ	3	2	10.95	7.80	3.65	3.90	160	—
11	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ４２８					●	●	●			ＮＥ－ＳＷ	4	1	9.95	2.40	2.49	2.40	40	—
12	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ９９９						●	●	●		Ｎ－Ｓ	3	2	6.85	5.60	2.28	2.80	40	—
13	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ９９８Ａ					●	●	●			Ｎ－Ｓ	3	2	8.40	2.70	2.80	1.35	150	40
14	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１００１					●	●	●			Ｎ－Ｓ	3	2	8.60	5.80	2.87	2.90	160	—
15	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ９９８Ｂ		●	●	●						Ｎ－Ｓ	3	2	9.60	6.00	3.20	3.00	—	—
16	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１１４６		●								Ｗ－Ｅ	—	2	—	6.60	—	3.30	120	50
17	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１１４７		●								Ｗ－Ｅ	—	2	—	6.60	—	3.30	140	50
18	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１１８４		●								Ｎ－Ｓ	—	2	—	6.00	—	3.00	100	—
19	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１３５１					●	●	●			Ｗ－Ｅ	3	2	7.20	3.60	2.40	1.80	80	—
20	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１４６５										Ｗ－Ｅ	2	1	4.80	2.10	2.40	2.10	60	15
21	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１４６６										Ｎ－Ｓ	2	1	5.40	3.60	2.70	3.60	60	—
22	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１４６７										Ｗ－Ｅ	2	1	4.80	2.40	2.40	2.40	60	—
23	秋田城跡（鵜ノ木地区）	ＳＢ１４８８										ＮＥ－ＳＷ	2	1	5.40	2.70	2.70	2.70	50	—

第6章　まとめ

諏訪遺跡の発掘調査では、建物跡1棟、柱列3条、井戸跡1基等を検出した。

県内の平安時代の集落及び官衙遺跡の建物跡の規模を表4（1）～（4）に示した。集落跡検出建物跡の建物跡の柱穴規模の平均は径52㎝、官衙跡のそれは95㎝である。本遺跡ＳＢ07はおよそ平均が70㎝ほどであり、やはり通常の集落等で見つかる掘立柱建物跡よりも規模は大きいといえよう。また、この柱穴の1基には廃絶儀礼に伴うと判断される須恵器の埋納も確認され、さらに、東側縁辺に沿って建物を囲んでいた塀あるいは柵と見られる柱列ＳＡ15・16・17があり、建物の構築に際して地盤を削り出すなど、一般的集落内の建物跡とは異なる特徴を備えている。横板材と縦板材とを組み合わせるＳＥ09井戸跡の構造は、県内では秋田城東門外側に確認されている井戸跡ＳＥ621に近似する。秋田城跡ＳＥ621が4重の構造であるのに対し、本遺跡ＳＥ09は横板2段、縦板1段の3重の構造であるという違いはあるものの、ＳＥ09井側各材の長さ、厚さ、幅はＳＥ621の外側部材とほぼ同じ1.5ｍ前後、5㎝前後、20㎝前後である(註1)。これらの遺構の帰属時期は出土した土師器坏の特徴から、およそ10世紀前半代と推定され、井戸跡の構造が近似する点などを考慮しても、秋田城が営まれた時期のその最後期に重なる時代と判断される。

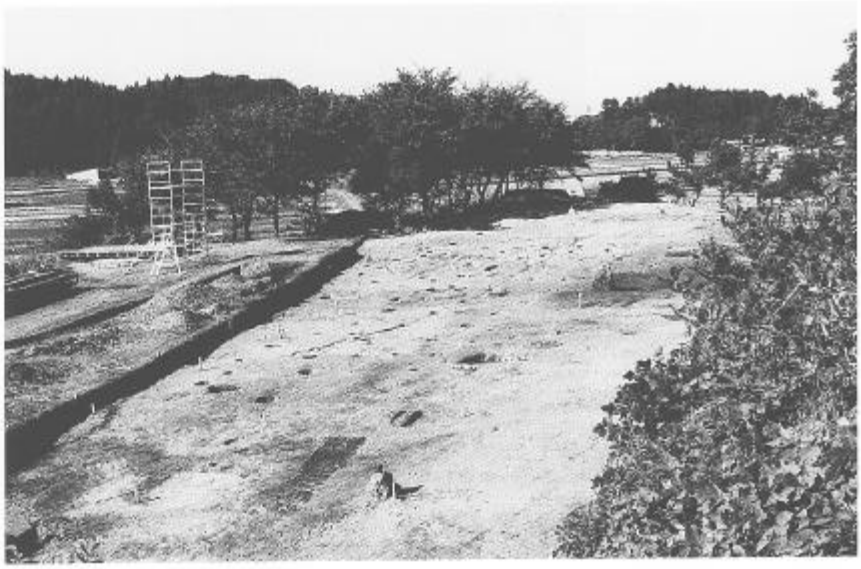
出土した土師器坏には「吉」の文字を記した墨書土器が8点確認された(図版13)。「吉」の字は坏の側面・底面に1.5㎝角で単独で描かれ、字体は共通して上部が「土」の形となる。県内では秋田城において出土例がある(註2)。墨書土器上の「吉」の字は東日本でよく見つかる吉祥文字の一つであり、平川南氏はこの種の文字について「祭祀形態に付随した形で一定の字形、なかば記号化した文字」と評価している(註3)。本遺跡では、これら土器は建物跡ＳＢ07東側に相互に重複するＳＮ13・14・105・106・139焼土遺構の内部・周辺から出土した。器種が坏類に限られ、内外面黒色処理を施した皿・坏・耳皿（第27・30・31図）を含むなど、一般の生活廃棄物として土師器を焼却したというよりも、一種の儀礼行為に伴った器の一括廃棄土坑としての性格が強く感じられる(註4)。

今回の調査は遺構の広がりの全体を確かめることができず、遺跡全体の評価は今後未調査区部分にある遺構も含めて総合的になされなければならない。しかし、少なくとも今回の調査で確認できた事実からは、当地にあって古代の一般的な集落というより、何らかの儀礼行為の執り行われた遺跡であり、秋田城跡と関連付けることも可能な遺跡であるといえよう。

近年の秋田城跡の発掘調査では、本遺跡のさらに東10㎞前後の地名に関わる「和太公」「小高野公」と記した「計帳」が発見され、秋田城の支配地の広がりを示すものとして全国的に注目されている(註5)。本遺跡はこれら地域への中継点にもあたる。今後秋田城跡調査の伸展に伴い、また、秋田平野にある周辺遺跡調査が進むにつれ、本遺跡の性格もまたいっそう明らかになることが期待される。

註1　秋田市教育委員会『秋田城跡昭和56年度発掘調査概報－秋田城跡－』　1982(昭和57)年
註2　高橋学「秋田県内出土の墨書土器集成」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』　1986(昭和61)年
註3　平川南「墨書土器とその字形」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集　1991(平成3)年
註4　県内でこの種の内外面黒色処理を施した土師器坏類を出土した遺構には、千畑町内村遺跡ＳＸ16土坑がある。
　　秋田県教育委員会『内村遺跡発掘調査報告書』　1983(昭和58)年
註5　文化庁編『発掘された日本列島'99』　1999(平成11)年

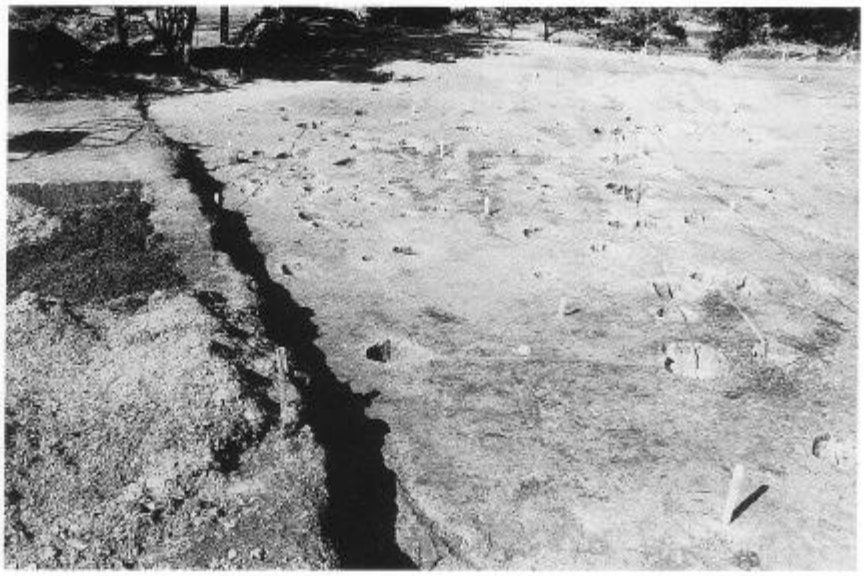
1　遺跡全景



2　調査区全景

3　SB07建物跡およびSA15・16・17柱列

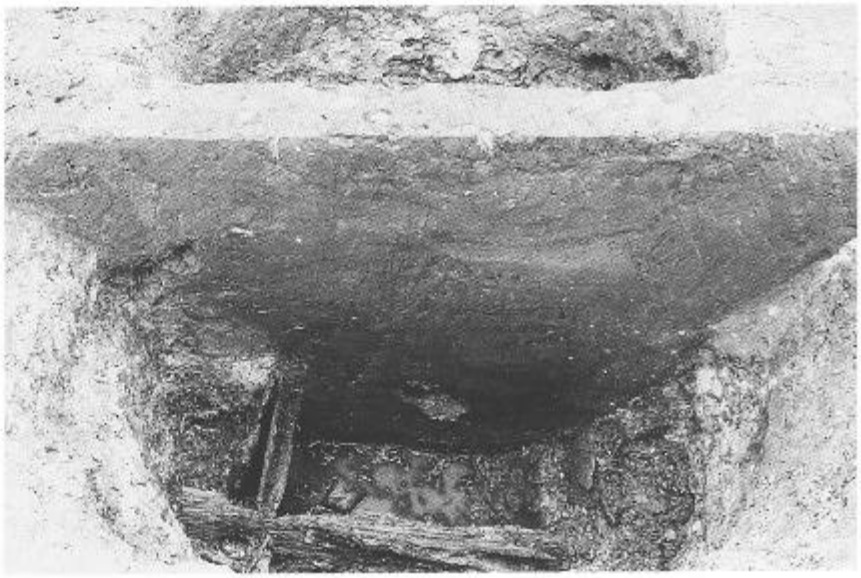
図版2



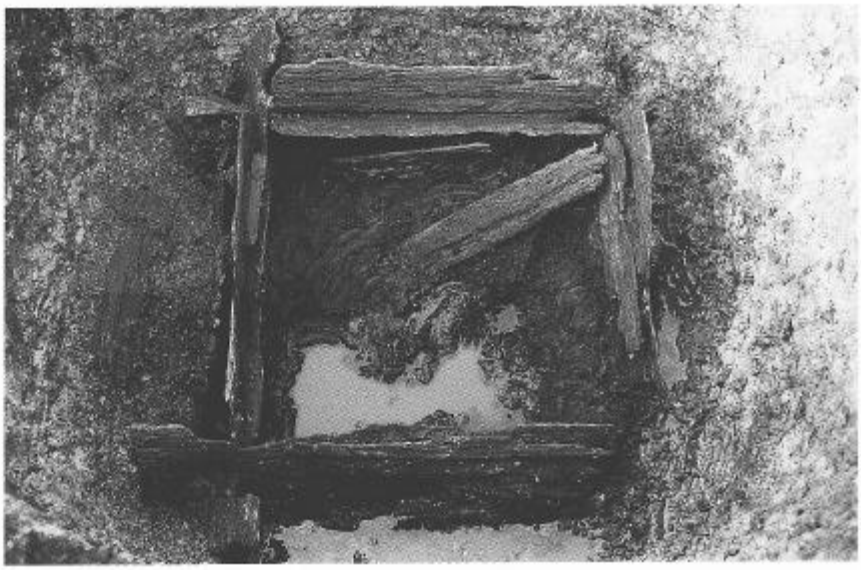
1　SB07 建物跡

2　SK10土坑確認状態

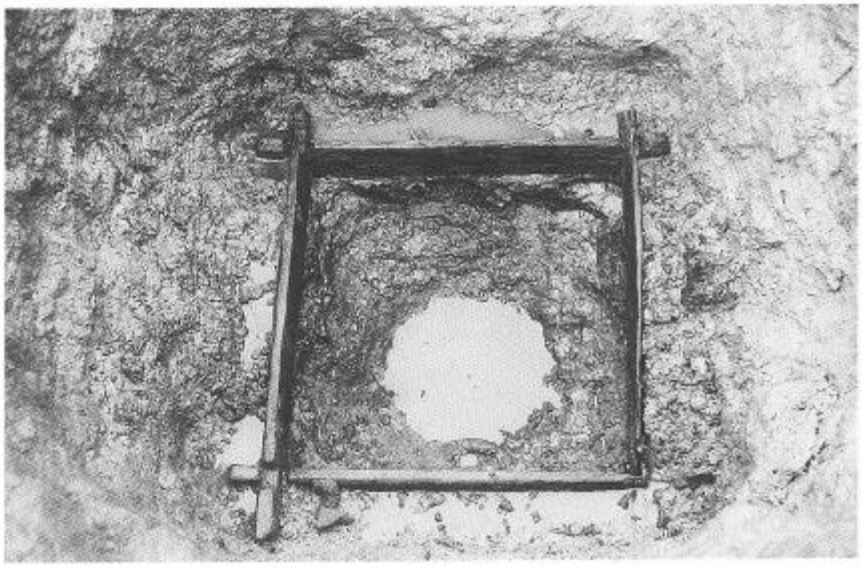
3　SK10土坑遺物出土状態



1　SE09井戸跡土層断面

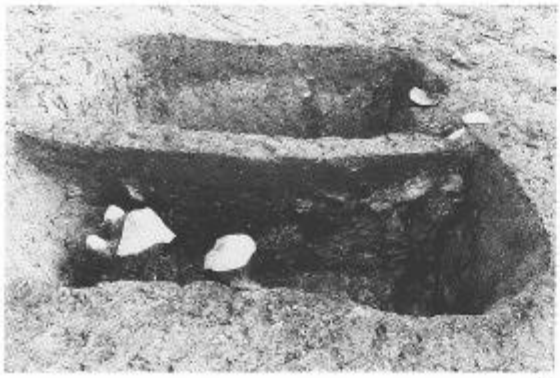


2　SE09井戸枠材（上段）



3　SE09井戸枠材（下段）

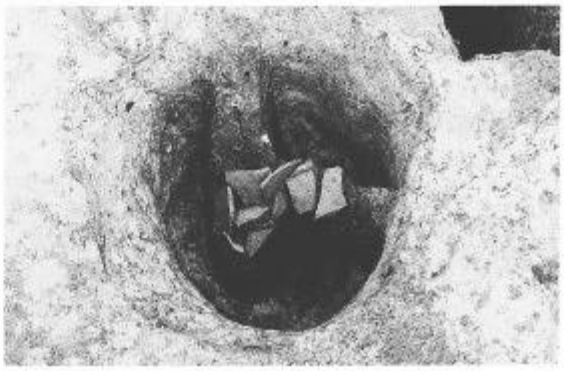
図版4



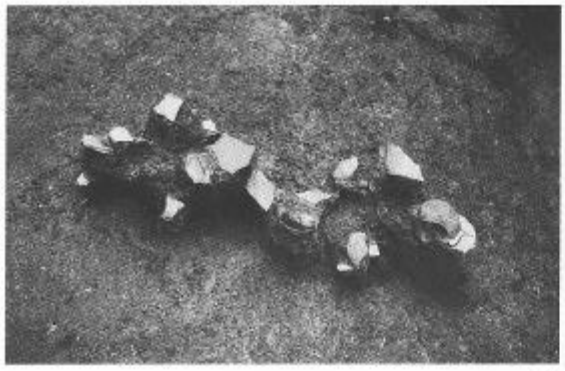
1

2

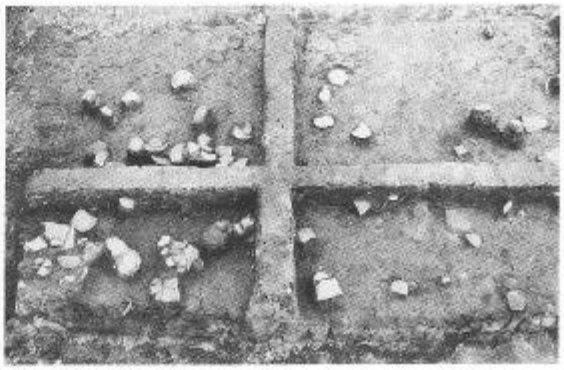
1　SE12 井戸跡土層断面
2　SB07　P6 内遺物出土状況（上部）
3　SB07　P6 内遺物出土状況（下部）



3



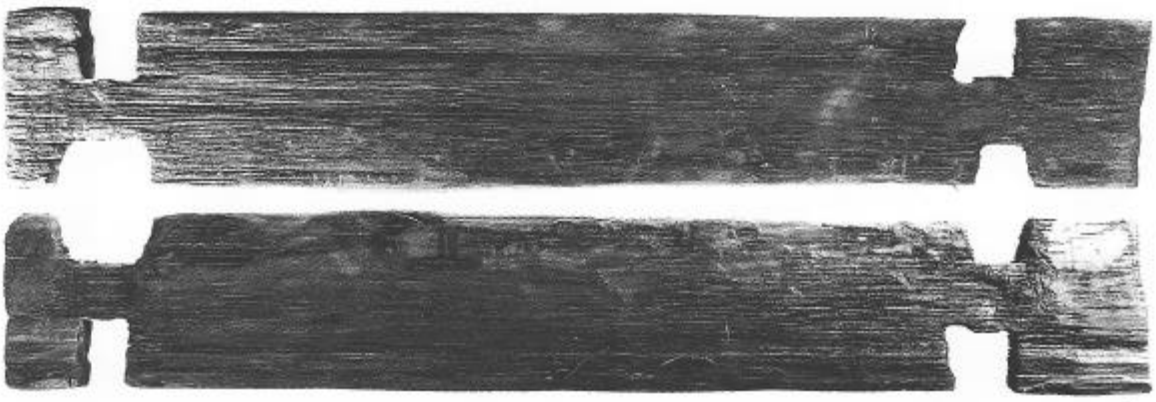
4



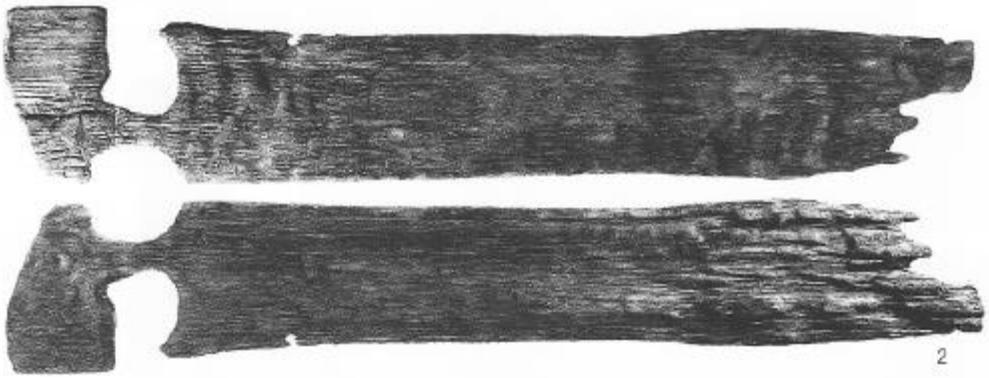
5

4　SN139 周辺遺物出土状況
5　SN105 遺物出土状況
6　SN14 遺物出土状況

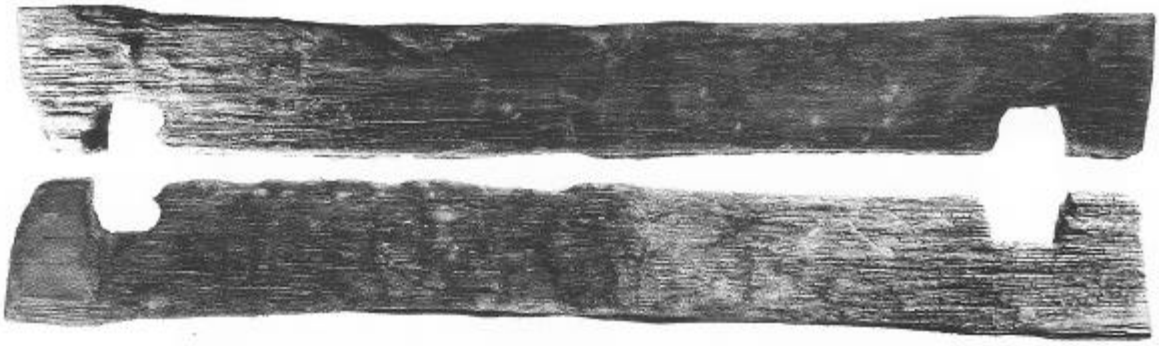
6



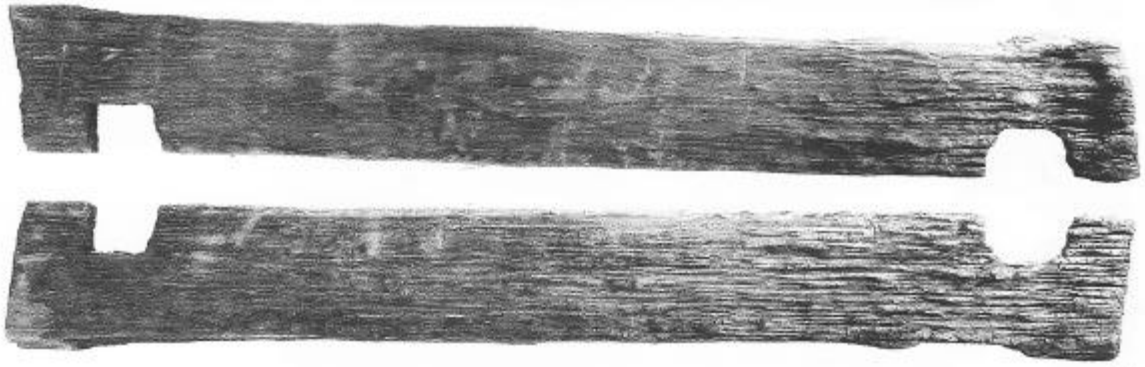
1



2



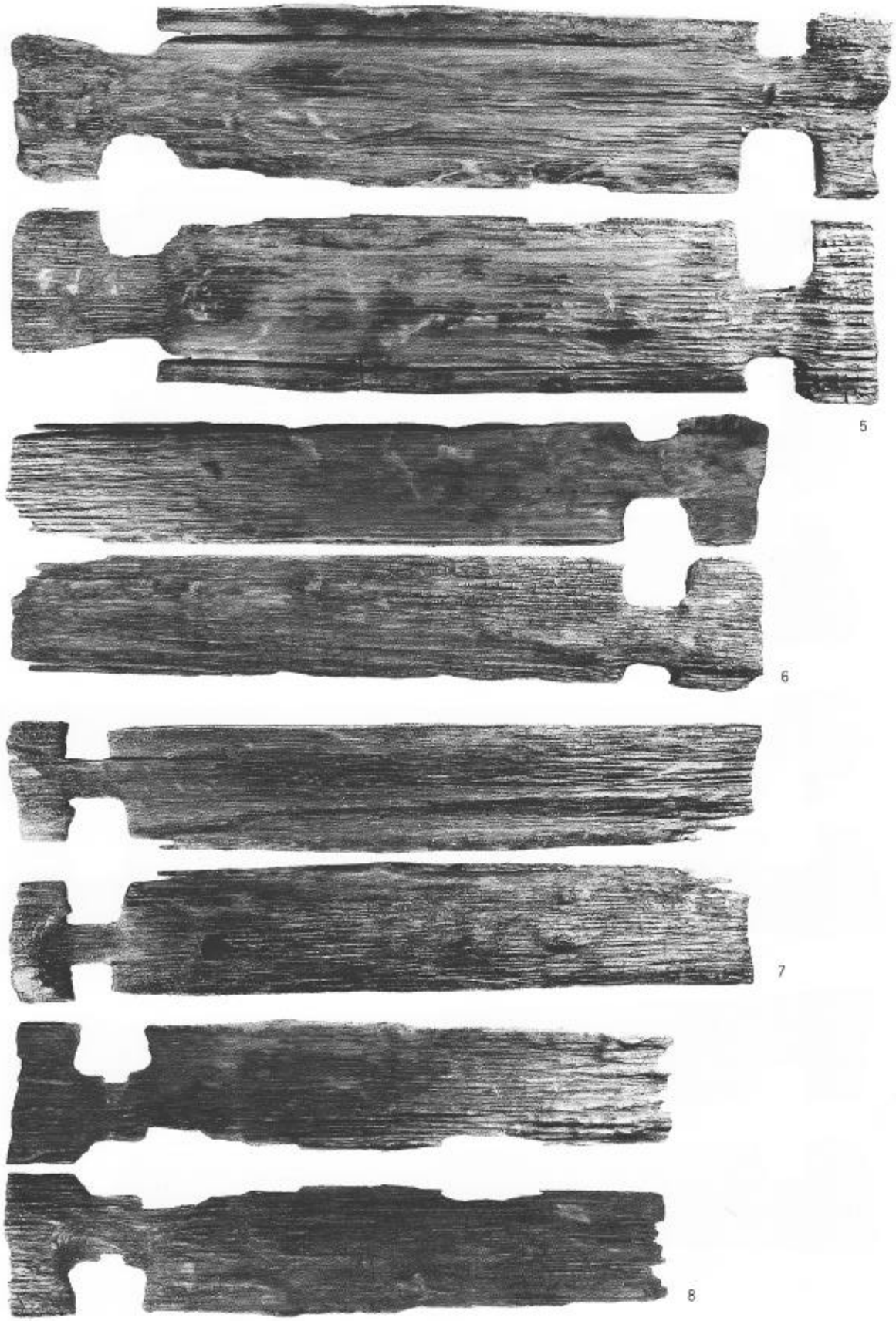
3



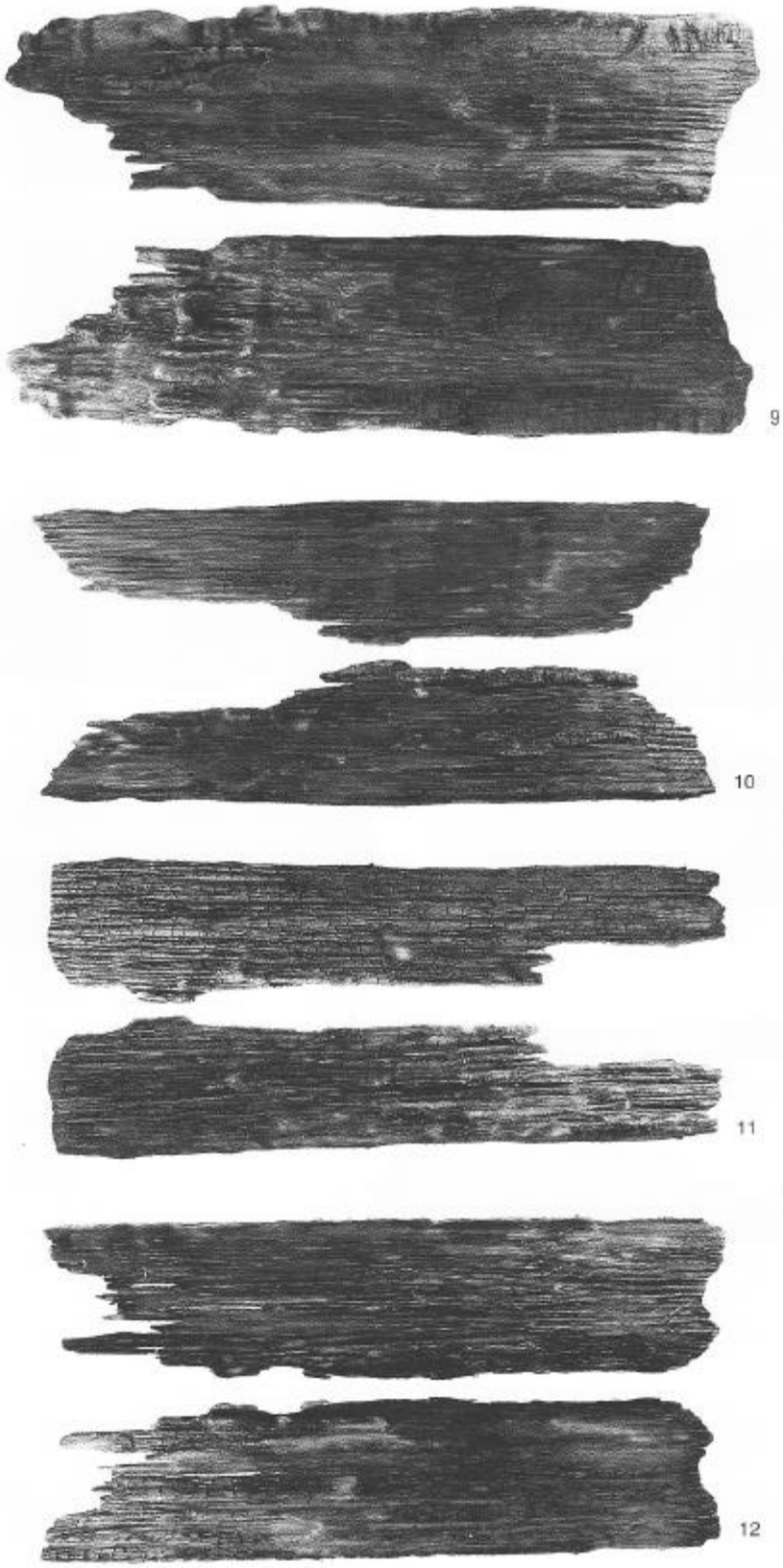
4

SE09井戸枠材（1）

図版6

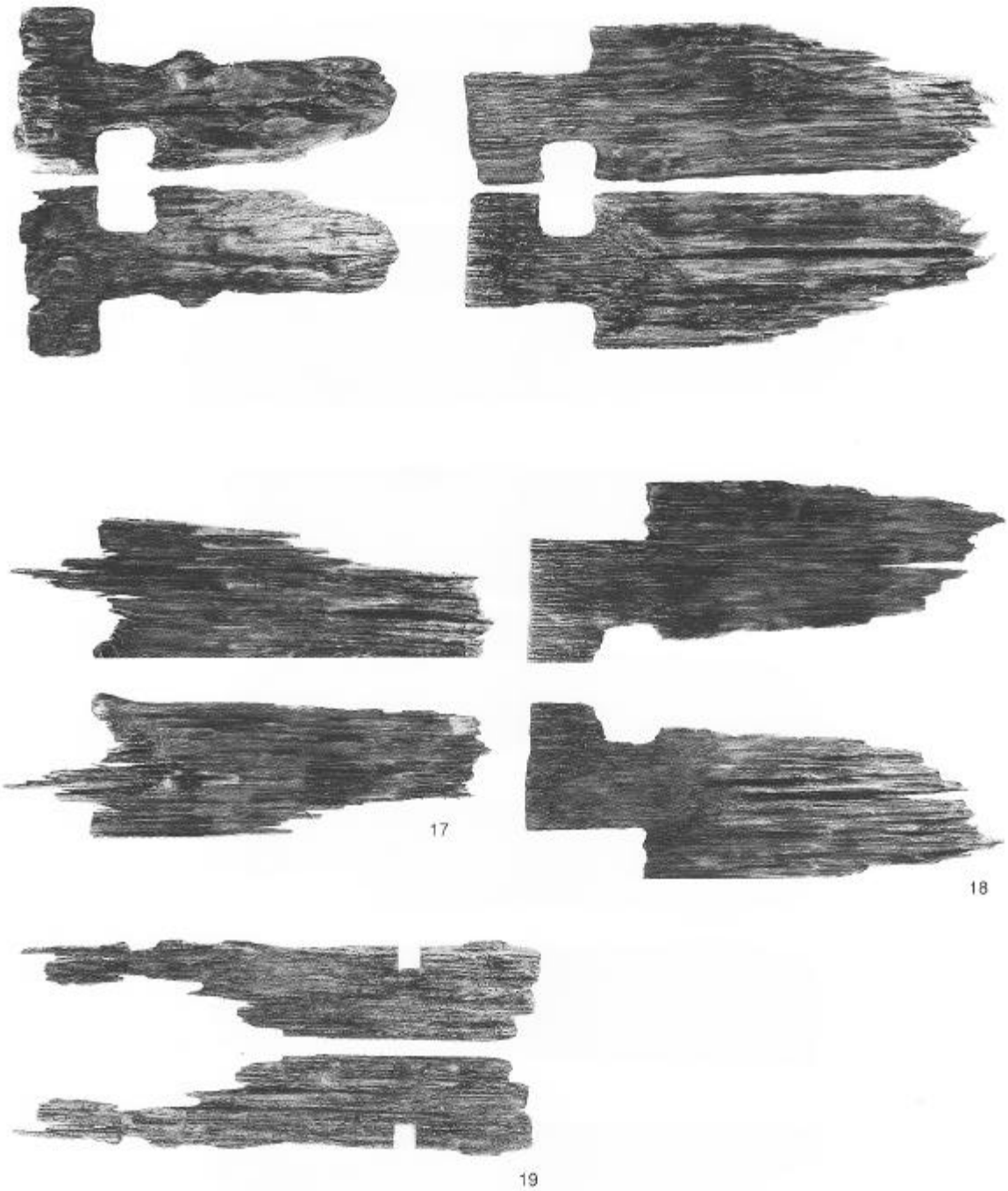


SE09井戸枠材（2）

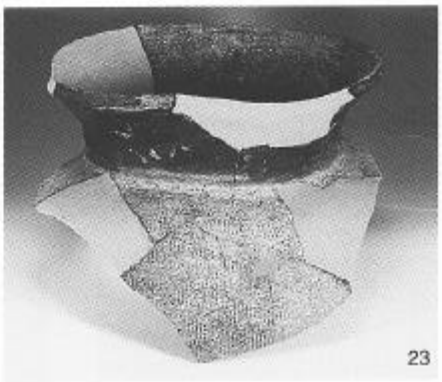


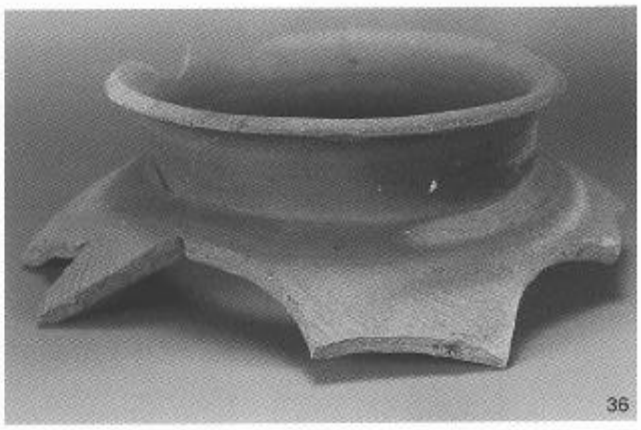
SE09井戸枠材（3）

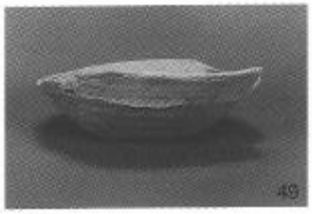
図版8



SE09井戸枠材（4）

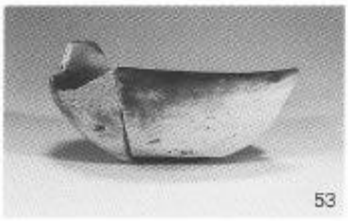






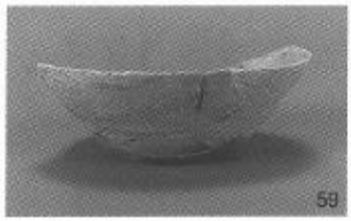
遺構内出土土器（1）・平安時代

図版10


53

54

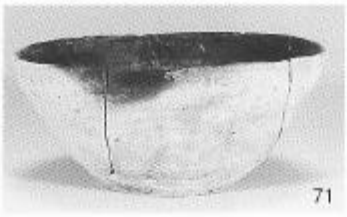
56


59

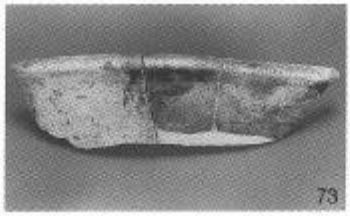
65

64

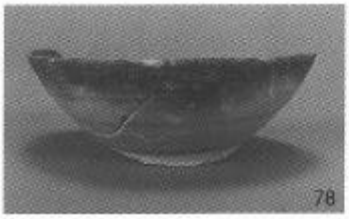
72


71

75


73

77


78

80

81

82

84

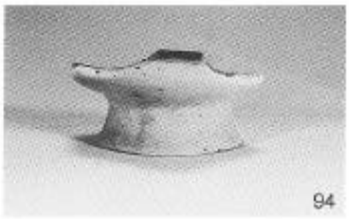
85

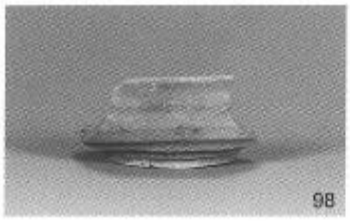
86

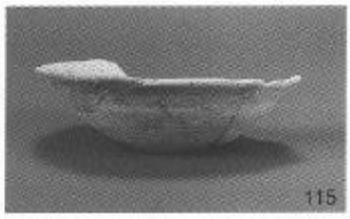
87

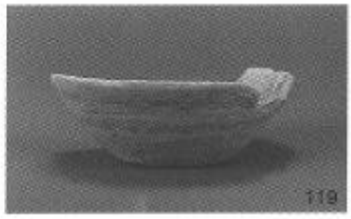
89

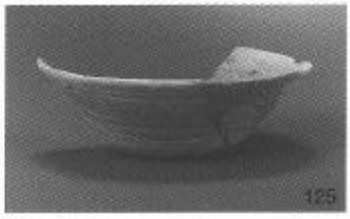
遺構内出土土器（2）・平安時代

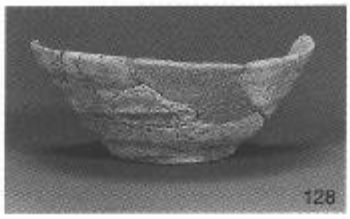












遺構外出土土器（1）・平安時代

図版12

131

134

135

136

139

141

142

143

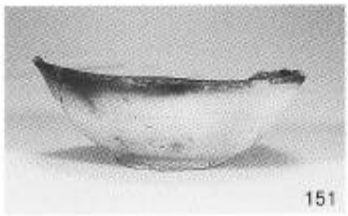
144

146

147

148

150


151

152

153

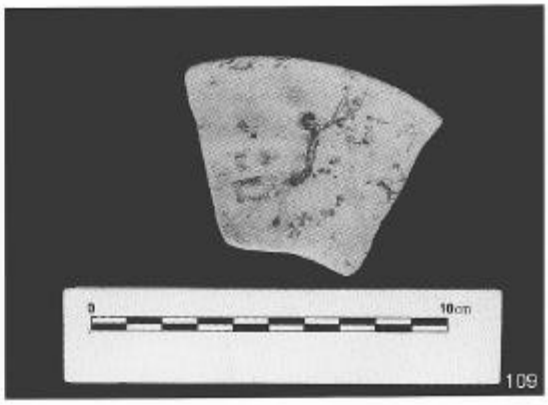
156

169

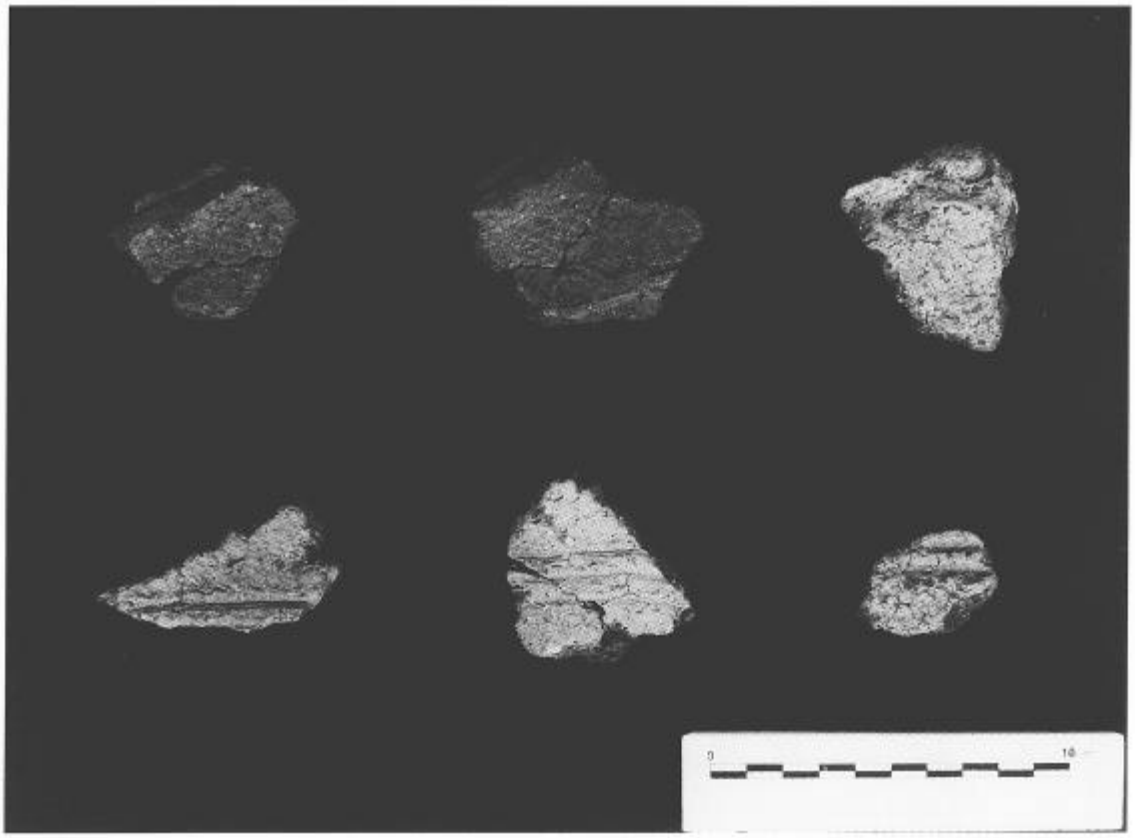
157

158

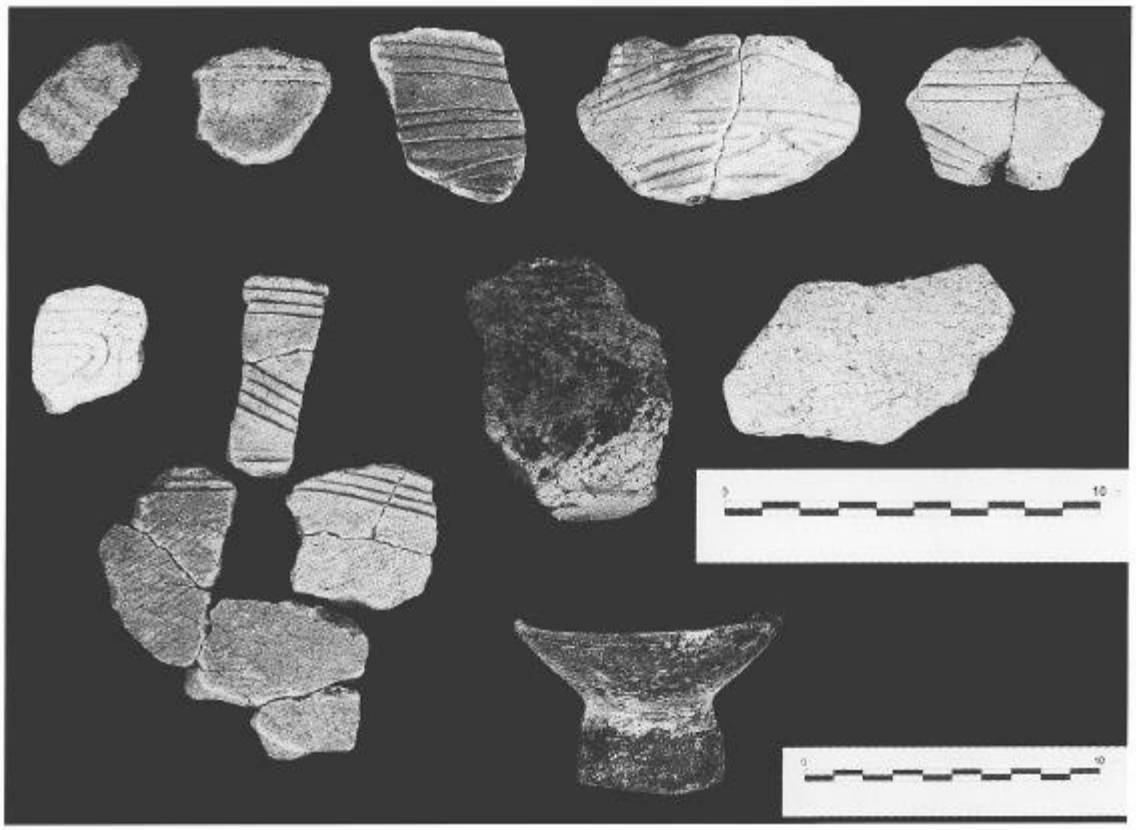
遺構外出土土器（２）・平安時代



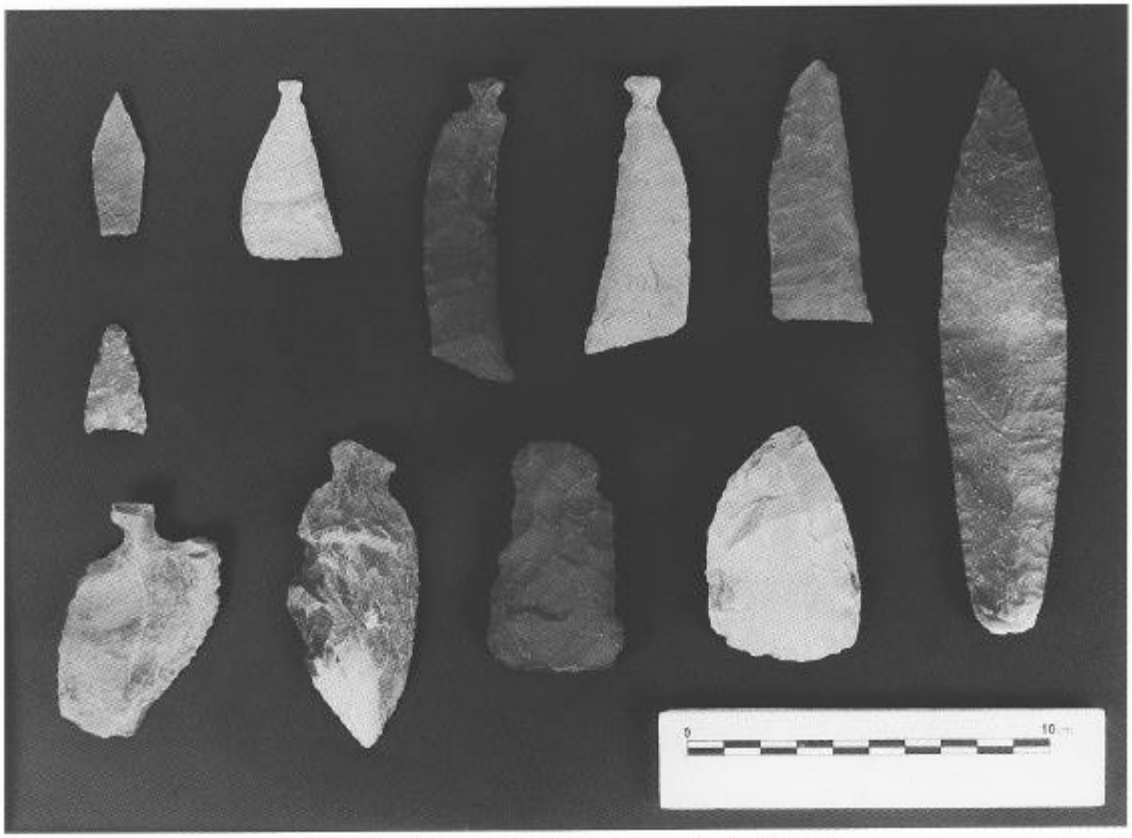
墨書土器「吉」



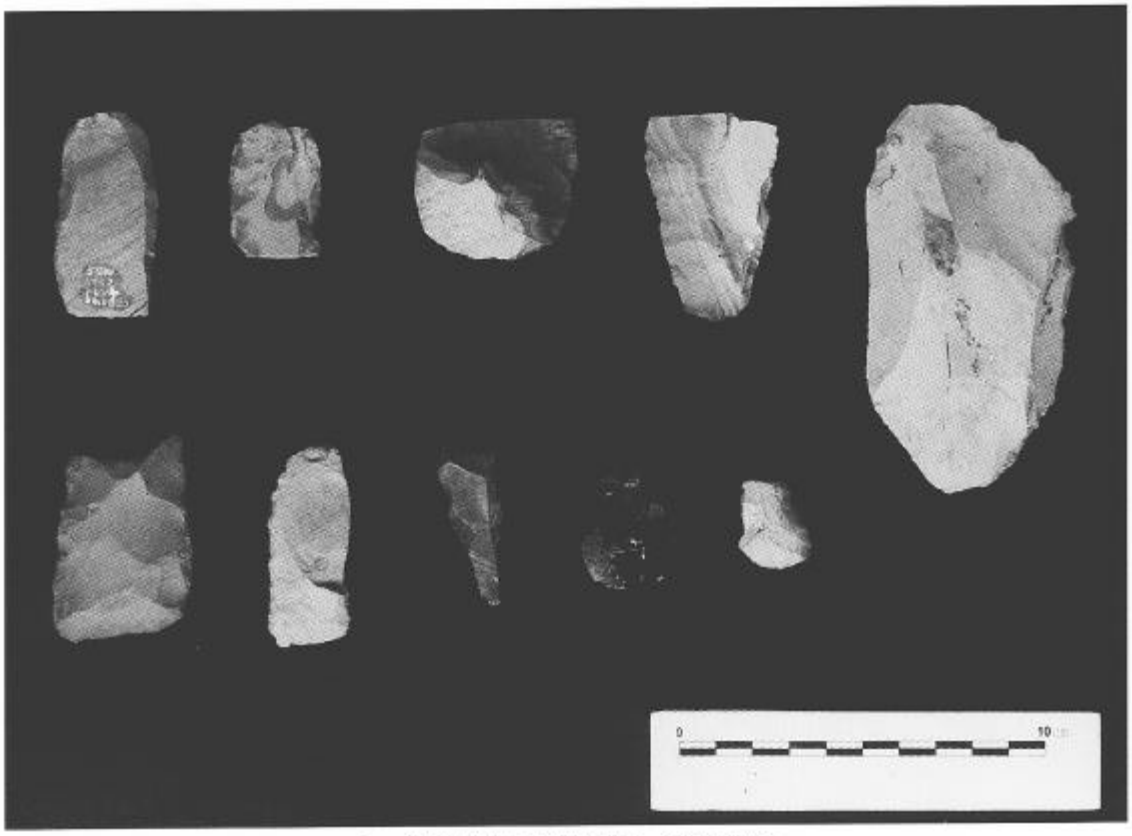
1　遺構外出土土器（縄文）



2　遺構外出土土器（弥生）



1　遺構外出土石器（石鏃・石匙・石槍・掻器）



2　遺構外出土石器（掻器・調整剥片）

1　遺構外出土石器（剥片）

2　遺構外出土石器（石斧・砥石）

報告書抄録

ふりがな	すわ
書名	諏訪遺跡
副書名	主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第328集
編著者名	小林　克・千葉史宏・佐々木信吾
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　電話0187-69-3331
発行年月日	西暦2002年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 単位 m²	調査原因
諏訪(すわ)遺跡	秋田市(あきたし)豊岩豊巻字(とよいわとよまきあざ) 諏訪(すわ)139-2ほか	05201	326	39° 39' 00"	140° 7' 00"	20000731 ～ 20001006	1,700	主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
諏訪遺跡	散布地・集落	縄文時代 平安時代	掘立柱建物跡 井戸跡 柱列 土坑 焼土遺構	縄文時代 土器・石器 平安時代 土師器・須恵器	

あ と が き

発掘調査が開始された平成12年7月31日は、秋田市での最高気温38度と記録的な猛暑となりました。それから約2ヶ月間、暑さのなかで働いていただいた皆さんにまずもって、この報告書を献辞したいと思います。また、現地見学会に集まっていただいた豊岩地区の皆さん、体験発掘で現場を訪れてくれた豊岩小学校、中学校の皆さんにもここに報告書ができあがりましたこと、報告します。開発事前の埋蔵文化財の発掘調査は遺跡が工事でなくなることが前提であるだけに、地域の皆さんに関心をもっていただくこと、そして、地域の文化財として確認していただくことが第一に必要なことでした。

(調査参加者)

加賀谷敏光、嵯峨勝夫、佐々木喜久治、佐藤勝司、佐藤千代司、関富雄、高橋重喜、土濃塚博、藤田信雄、船木昇、三浦春雄、武藤喜代治、足利久美子、足利ヨシ子、阿部フサ、五十嵐ヨウ子、石井あけみ、石井いさ子、石井京子、石井よし子、神成樹、斉藤輝子、佐々木ナルミ、佐々木花代、佐々木ミヲ子、佐々木リエ子、佐藤孝、鈴木恵子、高橋美恵子、　田口ウメ、古谷トシ子、堀井ケイ子、堀井ナミ、三浦アエ子、

(整理参加者)

佐藤せい子、国安恵美子、長沢代美子、大河孝子、藤田悦子、高橋寿子、森川たま子、本間美紀子

秋田県文化財調査報告書第328集

諏　訪　遺　跡

－主要地方道寺内新屋雄和線地方道特定道路整備工事に係る
埋蔵文化財発掘調査－

印刷・発行　平成14年3月

編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 (0187)69-3331　FAX (0187)69-3330

発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目1番1号
電話 (018)860-5193

印　　刷　五十嵐印刷株式会社